

令和3年度

防災に関する県民意識調査報告書

三重県

目次

第1章 調査の概要

- 1. 1 調査目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1. 2 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 1. 3 本報告書における結果数値等の取扱い・・・・・・・・・・・・1

第2章 調査結果

2. 1 アンケート調査回答者の属性

- 2. 1. 1 住所【F 1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 1. 2 性別【F 2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 1. 3 年齢【F 3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 1. 4 家族構成【F 4】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 2. 1. 5 インターネット接続環境【F 5】・・・・・・・・・・・・・・3

2. 2 地震・津波対策について

- 2. 2. 1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり【問1】・・・・4
- 2. 2. 2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動【問2】・・・・・・7
- 2. 2. 3 すぐに避難する理由【問2-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 2. 2. 4 避難を遅らせる理由【問2-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 2. 2. 5 避難しない理由【問2-3】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
- 2. 2. 6 三重県地震被害想定調査結果の認知度【問3】・・・・・・16
- 2. 2. 7 内陸直下型地震の危険性の認知度【問4】・・・・・・19
- 2. 2. 8 南海トラフ地震臨時情報についての認知度【問5】・・・・23

2. 3 風水害対策について

- 2. 3. 1 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり【問6】・・・・24
- 2. 3. 2 警戒レベルの認知度【問7】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
- 2. 3. 3 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度【問8】・・・・31
- 2. 3. 4 風水害の危険性の情報入手先【問8-1】・・・・・・・・・・・・34
- 2. 3. 5 局地的大雨等の避難行動【問9】・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
- 2. 3. 6 台風時等の避難行動【問10】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
- 2. 3. 7 台風時等に避難しない理由【問10-1】・・・・・・・・・・・・40

2. 4 防災全般について

- 2. 4. 1 家庭での防災対策の状況【問11】・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
- 2. 4. 2 家具固定の状況【問12】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
- 2. 4. 3 家屋からの脱出【問12-1】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
- 2. 4. 4 家具固定をしない理由【問12-2】・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
- 2. 4. 5 防災みえ.jpの認知度【問13】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
- 2. 4. 6 防災みえ.jpで見ている情報【問14】・・・・・・・・・・・・・・54
- 2. 4. 7 防災みえ.jpを活用しない理由【問14-1】・・・・・・・・・・・・55
- 2. 4. 8 災害時にインターネットで知りたい情報【問15】・・・・・・56
- 2. 4. 9 防災みえメール配信サービスの認知度【問16】・・・・・・57
- 2. 4. 10 県公式「防災みえ」TwitterやLINEの認知度【問16-1】・・・・58
- 2. 4. 11 気象や災害情報の入手先【問17】・・・・・・・・・・・・・・61

2. 4. 12	避難場所や避難所の認知度【問18】	69
2. 4. 13	避難場所や避難所までの経路についての認知度【問18-1】	71
2. 4. 14	感染リスクを考慮した避難所以外の避難先【問19】	73
2. 4. 15	地域や職場の防災活動への参加状況【問20】	76
2. 4. 16	参加した防災活動の内容【問21】	78
2. 4. 17	参加した防災活動の防災意識向上への貢献度【問21-1】	81
2. 4. 18	防災活動に参加しなかった理由【問22】	82
2. 4. 19	地域・職場で必要と思う防災活動【問23】	84
2. 4. 20	地域の企業・事業所に期待する防災活動・防災対策【問24】	86
2. 4. 21	地域の消防団に期待する活動【問25】	88
2. 4. 22	自主防災組織の有無と活動状況【問26】	90
2. 4. 23	学校の防災教育の家庭での認知度【問27】	92
2. 4. 24	防災教育で学校に特に力を入れてほしいもの【問28】	94
2. 4. 25	防災に関する啓発活動等の認知度【問29】	96
2. 4. 26	防災啓発の防災意識向上への貢献度【問29-1】【問29-2】	98
2. 5	あなたのお住まいの耐震化について	
2. 5. 1	住まいの状況【問30】	99
2. 5. 2	耐震化に向けた補助制度の認知度【問31】	101
2. 5. 3	耐震診断の受診の有無と診断結果【問32】	102
2. 5. 4	補強工事を実施したか【問32-1】	104
2. 5. 5	補強工事の補助制度を利用したか【問33】	105
2. 5. 6	どのような補強工事を行ったか【問33-1】	105
2. 5. 7	補強工事を行った時の工事費【問33-2】	106
2. 5. 8	耐震補強をしない理由【問34】	107
2. 5. 9	耐震補強工事で許容できる自己負担額【問35】	108
2. 5. 10	一部分のみの耐震補強工事【問36】	109

資料

• 津波危険地域一覧	110
• 令和3年度 防災に関する県民意識調査 調査票	112

第1章 調査の概要

1. 1 調査目的

県では、県民の皆さんの自然災害に対する備えの状況や防災に関する意識を把握し、県の防災・減災対策に活用するため、平成14年度から「防災に関する県民意識調査」を実施しています。

1. 2 調査方法

県内の18歳以上の方にアンケート調査票を郵送する方法で実施しました。

- (1) 調査対象：県内全市町の18歳以上の5,000人
 - ・調査対象は、各市町の選挙人名簿から無作為抽出
 - ・各市町の対象者数は、市町別推計人口の比率を参考に割り当て
- (2) 調査期間：令和3年11月1日から令和3年11月18日まで
- (3) 回収率：55.6% (2,779人/5,000人)
- (4) 設問数：52問(枝問含む)

1. 3 本報告書における結果数値等の取扱い

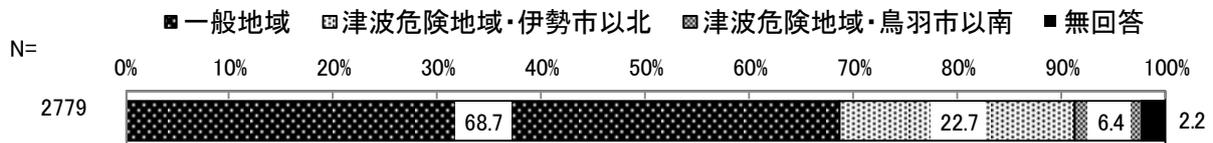
- (1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するものすべてを選択する回答）があり、複数回答の場合は、その質問項目に関して、最初に提示する全体結果を示す図表に「(複数回答)」と表記しています。
- (2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント(%)値で表記しています。(% 値の母数は、その質問項目の該当標本数(有効回答数))
- (3) %値は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。
したがって、合計が必ずしも100%とならない場合(99.9%または100.1%など)があります。
同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合があります。
- (4) 図中の「n」は、各設問の有効回答数を表しています。

第2章 調査結果

2. 1 アンケート調査回答者の属性

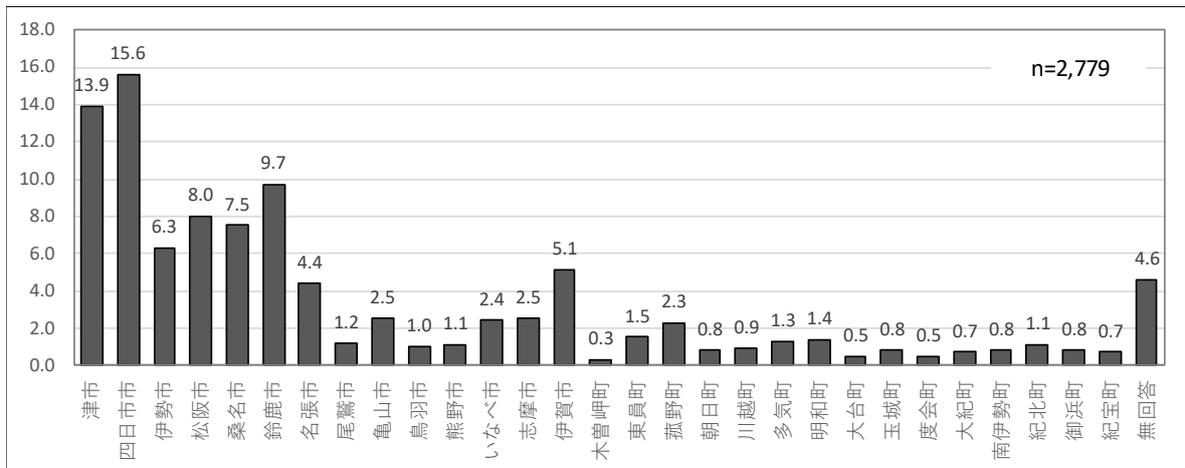
2. 1. 1 住所

(1) 地域



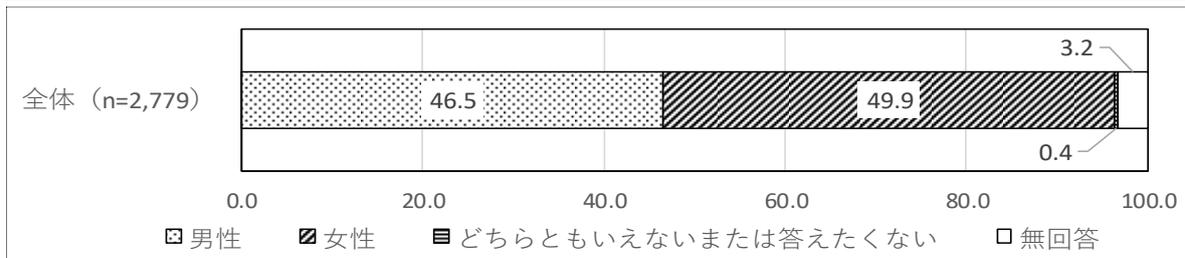
(2) 市町

F 1 ご自宅のある市町は



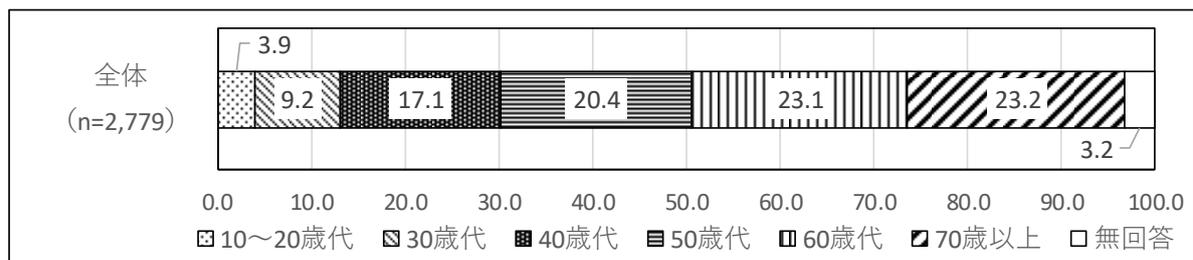
2. 1. 2 性別

F 2 あなたの性別は（ご自身が認識する性でお答えください。）



2. 1. 3 年齢

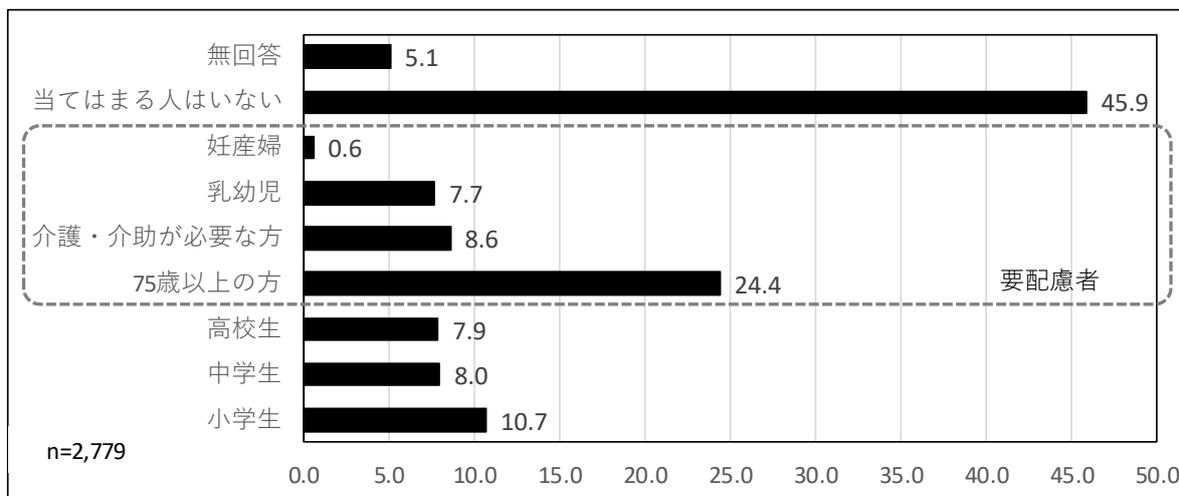
F 3 お年は



2. 1. 4 家族構成

F4 あなたを含めた同居家族の中に、以下のような方はいらっしゃいますか。

(複数回答)



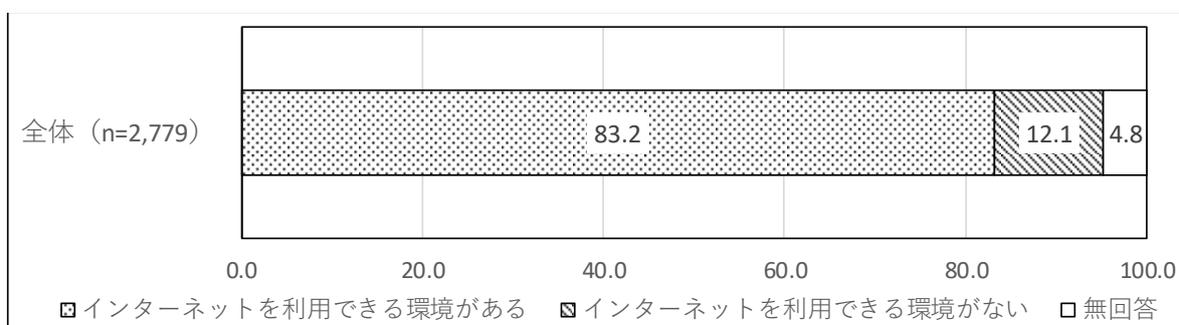
※要配慮者とは

要配慮者とは、災害対策基本法第8条第2項第15号で「高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」とされています。

本調査では、「妊産婦、乳幼児、介護・介助が必要な方、75歳以上の方」を要配慮者として調査しています。

2. 1. 5 インターネット接続環境

F5 インターネット（スマートフォンや携帯端末等を含む）の接続環境について



2. 2 地震・津波対策について

2. 2. 1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり

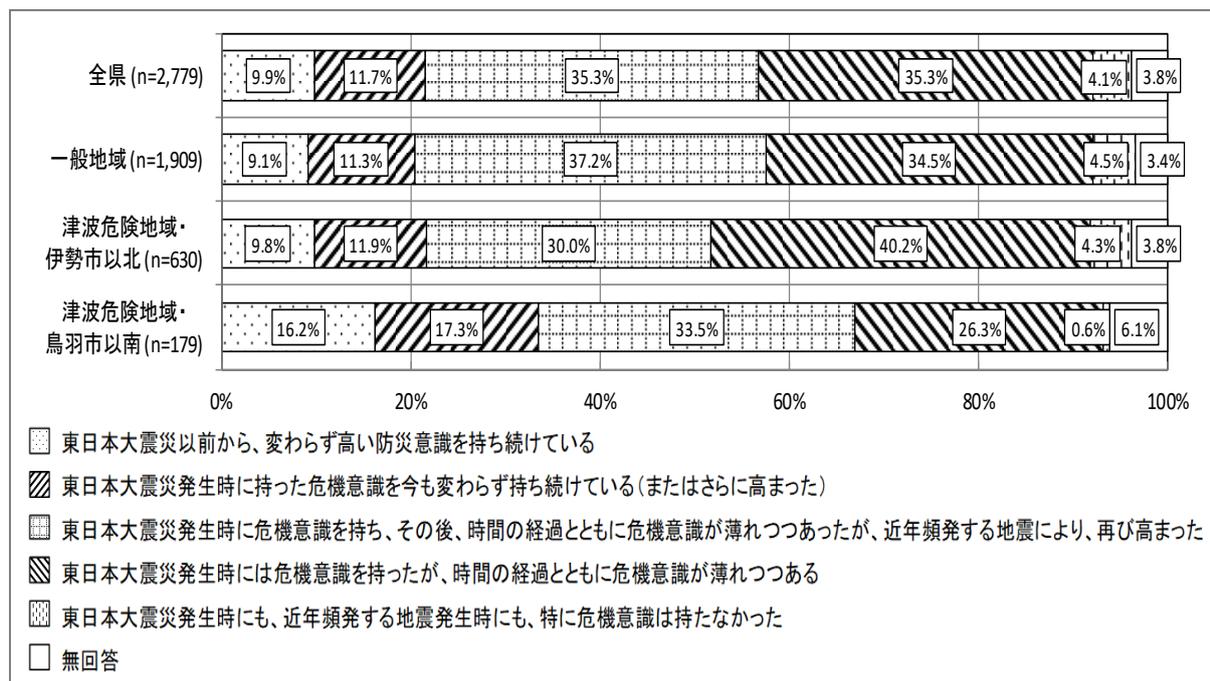
【問 1】 平成 23 年の東日本大震災の発生から 10 年あまりが経過し、平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、この一連の地震災害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ〇）

1. 東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている
2. 東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている（またはさらに高まった）
3. 東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった
5. 東日本大震災発生時にも、近年頻発する地震発生時にも、特に危機意識は持たなかった

問 2 へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果

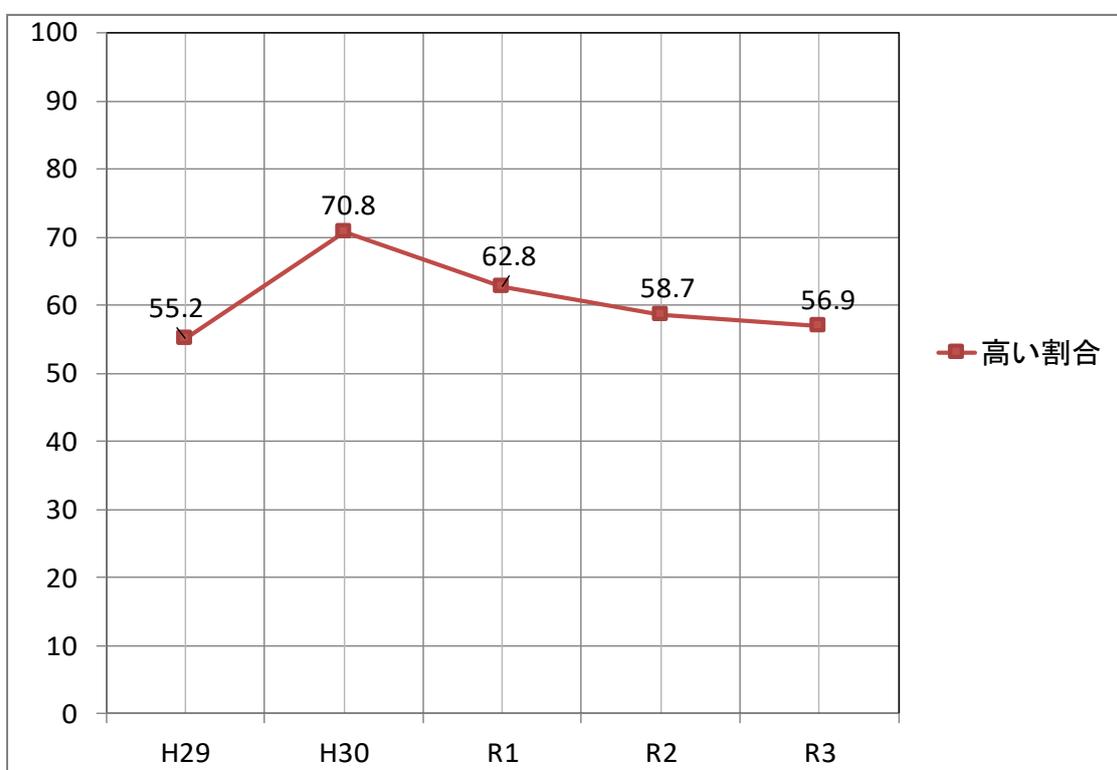


- ・全県のデータでは、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」、「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合が、共に 35.3%と最も高くなりました。次いで、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている（またはさらに高まった）」が 11.7%、「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識をもち続けている」が 9.9%となっています。

- 地域別にみると、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」と答えた方が、全県の 9.9%とくらべて 6.3 ポイント高い 16.2%、「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」が、全県の 11.7%とくらべて 5.6 ポイント高い 17.3%となっています。
- また、地域間の比較をすると、津波危険地域（鳥羽市以南）にくらべ、県の被害想定で内陸直下型地震が想定されている一般地域、および津波危険地域（伊勢市以北）では、「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合が、一般地域で 8.2 ポイント、津波危険地域（伊勢市以北）で 13.9 ポイント高くなっています。

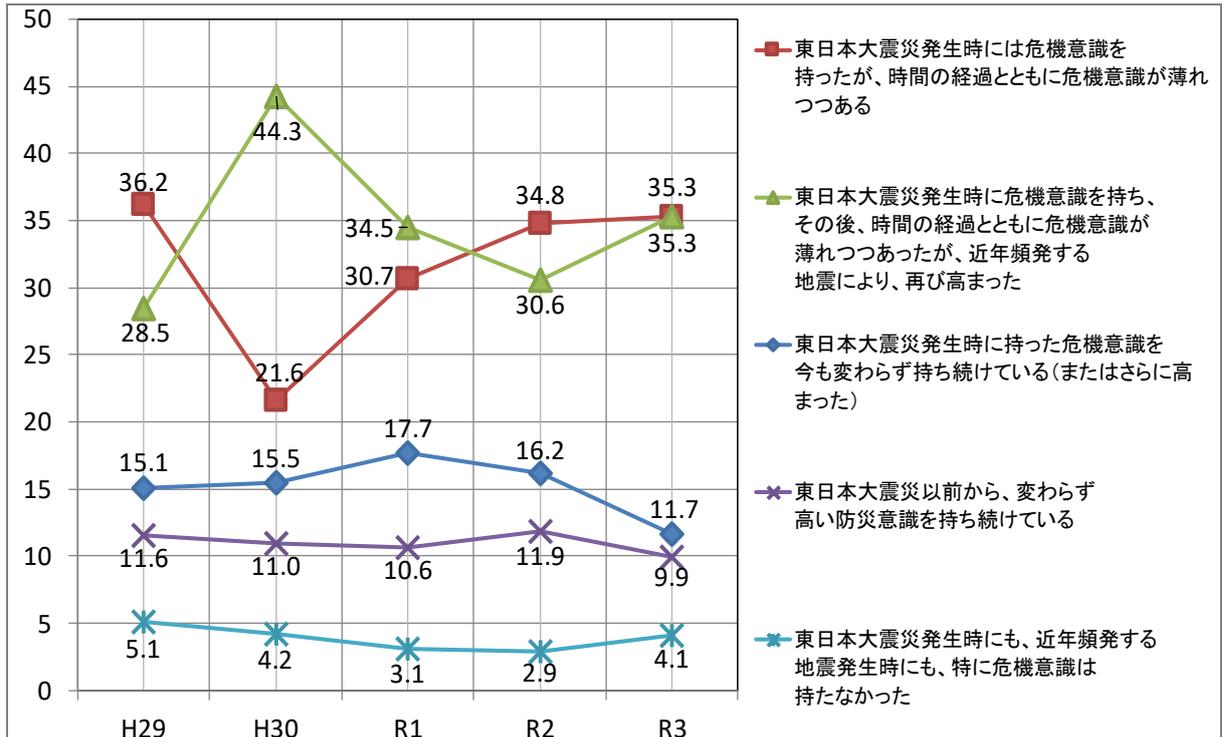
（2）直近 5 年間の経年変化

ア. 「地震・津波にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」の経年変化



- 「東日本大震災以前から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」「東日本大震災発生時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」「東日本大震災発生時に危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する地震により、再び高まった」と答えた方の割合の合計（以降、「地震・津波にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」）の過去 5 年間の経年変化は、大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生した平成 30 年度に高くなったものの、その後は年々減少しています。

イ. 各設問の経年変化



- 「東日本大震災発生時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合は、R1 が 30.7%、R2 が 34.8%、R3 が 35.3% と、年々増加しています。

(3) 「年代別」集計結果

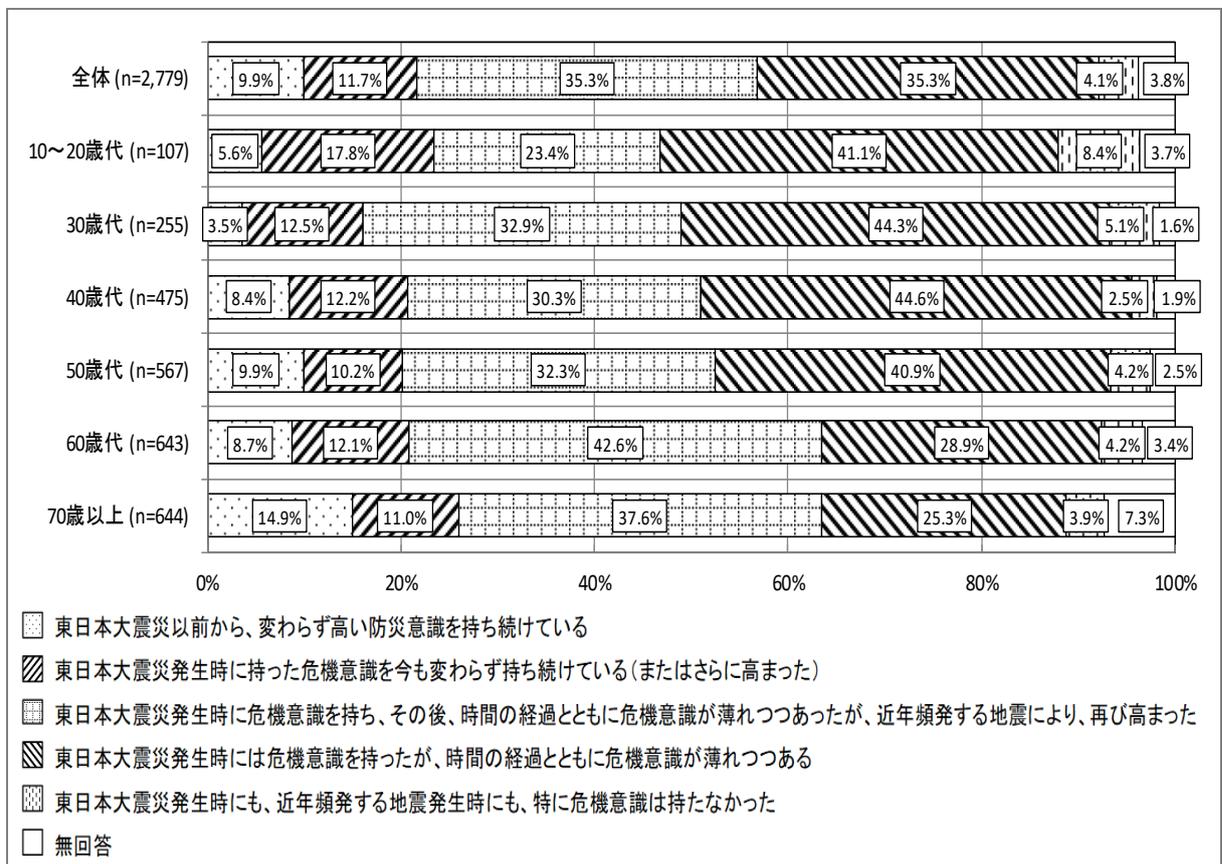


表 「地震・津波にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」(年代別)

全体	56.9%
10～20 歳代	46.8%
30 歳代	48.9%
40 歳代	50.9%
50 歳代	52.4%
60 歳代	63.4%
70 歳以上	63.5%

- 年代別では、年齢が上がるほど「地震・津波にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」が高い結果となっています。

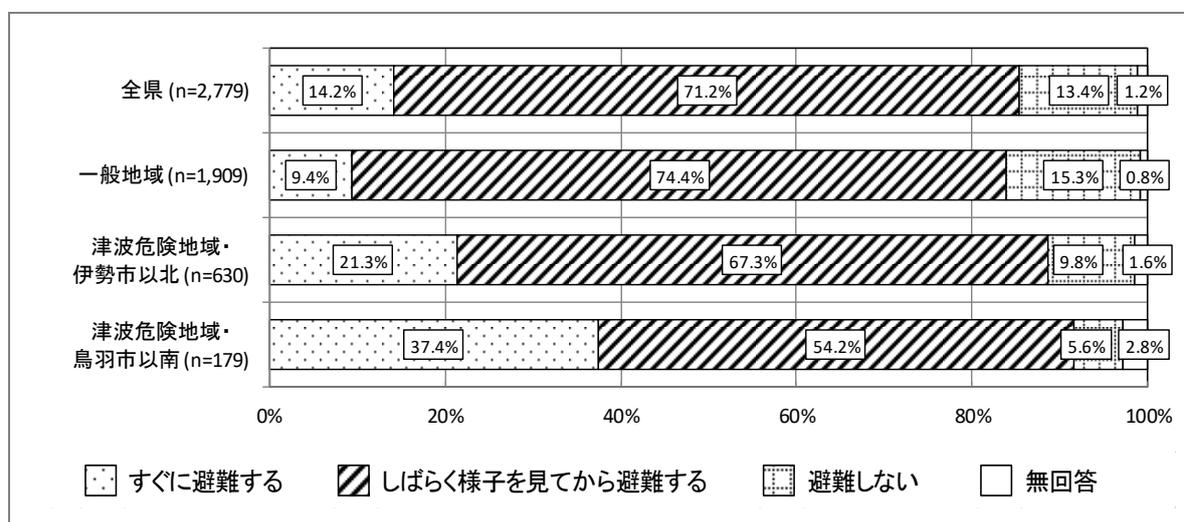
2. 2. 2 夜間の大地震に遭遇した際の避難行動

【問 2】 夜遅くあなたがご自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが 1 分以上続き、停電もしたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか。(一つだけ〇)

1. すぐに避難する →問 2-1 へ
2. しばらく様子を見てから避難する →問 2-2 へ
3. 避難しない →問 2-3 へ

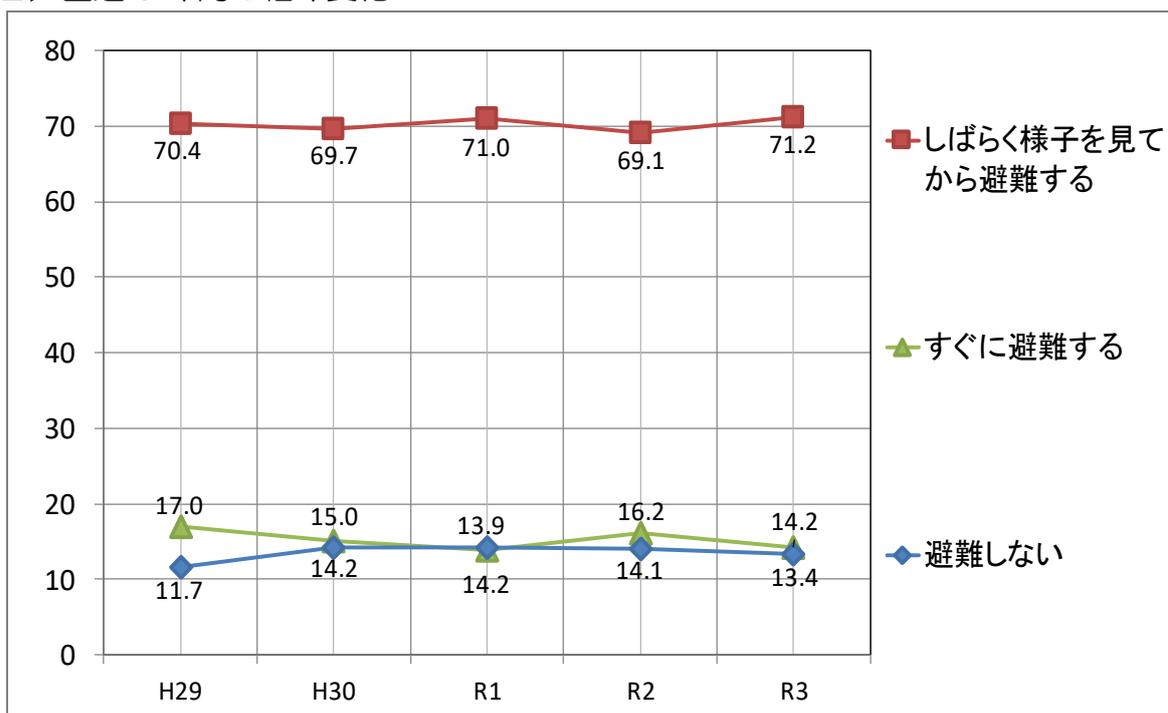
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- 全県で見ると、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が 71.2%と最も多く、「すぐに避難する」が 14.2%、「避難しない」が 13.4%と続き、避難すると答えた方の割合の合計が 85.4%となっています。
- 地域別にみると、「すぐに避難する」と答えた方の割合は、津波危険地域（鳥羽市以南）で最も高く、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合は、一般地域で最も高くなり、危険度が高い鳥羽市以南ですぐに避難する傾向が強くなっています。

(2) 直近5年間の経年変化



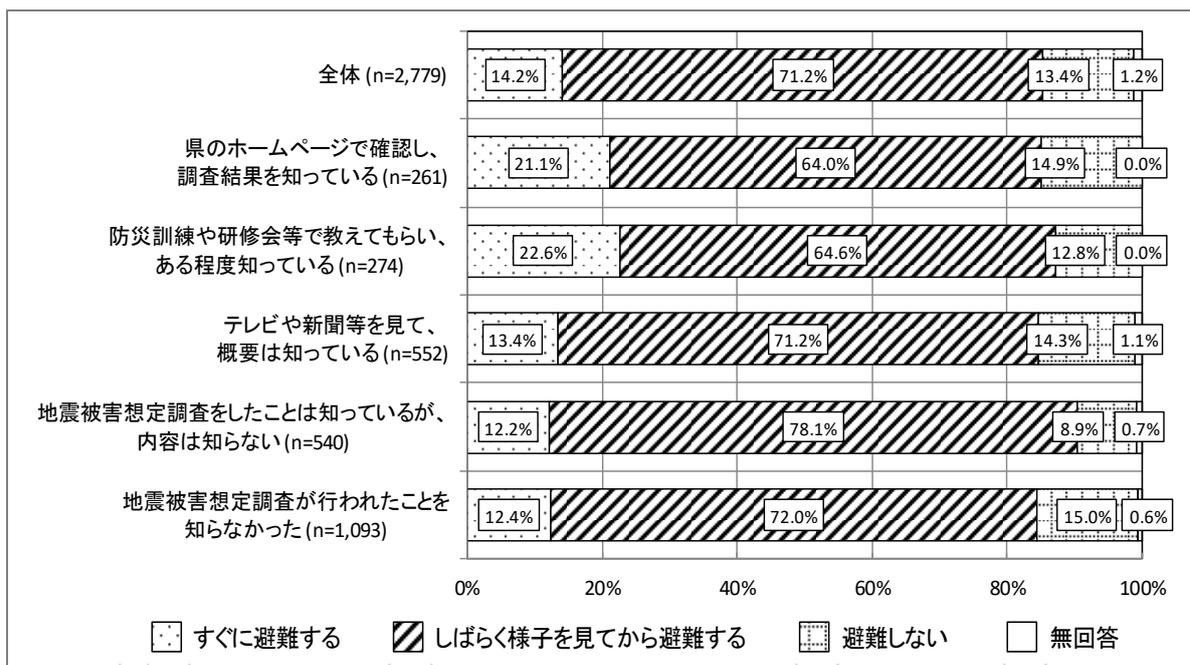
- 「避難しない」と答えた方の割合は13.4%となり、直近5年間では大きな変化はありません。

(3) 「年代別」集計結果



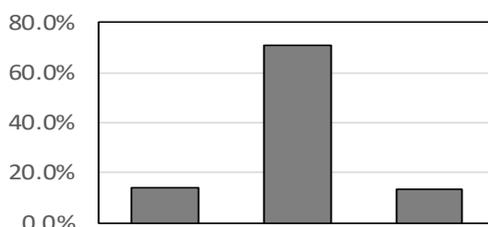
- 年代別でみると、全ての年代で「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が最も高くなっています。
- 年代別では、70歳以上の「避難しない」と答えた方の割合は、全体の13.4%より2.9ポイント高い16.3%となっています。

(4) 「問3 三重県地震被害想定調査結果の認知度」とのクロス集計結果



- 「問3 三重県地震被害想定調査結果の認知度」とのクロス集計をみると、「県のホームページで確認し、調査結果を知っている」と答えた方で「すぐに避難する」と答えた方の割合は、全体の14.2%より6.9ポイント高い21.1%となり、「防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている」と答えた方で「すぐ避難する」と答えた方の割合は、全体より8.4ポイント高い22.6%となっています。

(5) 「要配慮者の有無別」集計結果



	全体	すぐに避難する	しばらく様子を見てから避難する	避難しない	無回答
全体	n=2,779	14.2%	71.2%	13.4%	1.2%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=1,660	14.7%	70.7%	13.6%	1.0%
75歳以上の方がいる	n=677	12.6%	72.7%	13.4%	1.3%
介護・介助が必要な方がいる	n=238	13.0%	70.2%	16.0%	0.8%

- 要配慮者の有無にかかわらず、「しばらく様子を見てから避難する」と答えた方の割合が最も高くなっています。
- 家族に介護・介助が必要な方がいる方で、「避難しない」と答えた方の割合は、全体の13.4%から2.6ポイント高い16.0%となっています。

2. 2. 3 すぐに避難する理由

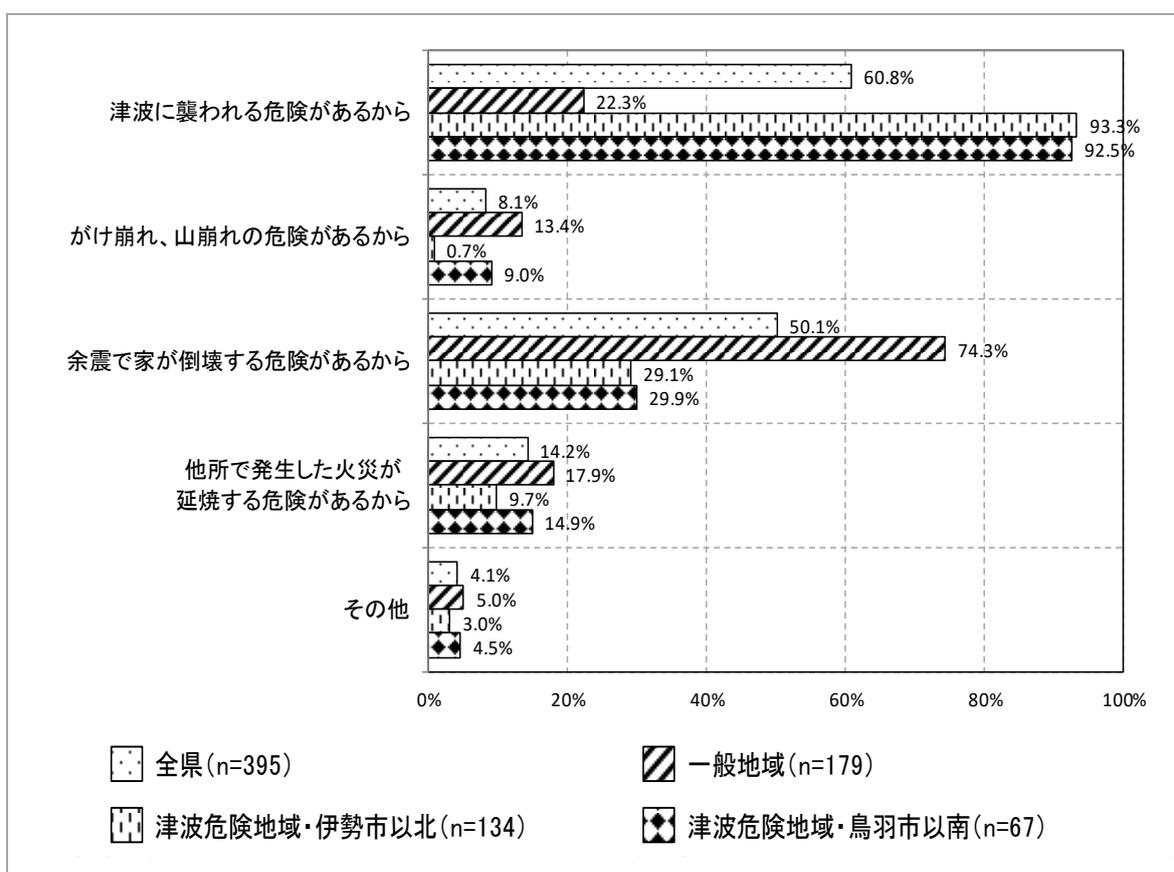
【問 2-1】 問 2 で、「1.すぐに避難する」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難する主な理由は何ですか。(いくつでも〇)

1. 津波に襲われる危険があるから
2. がけ崩れ、山崩れの危険があるから
3. 余震で家が倒壊する危険があるから
4. 他所で発生した火災が延焼する危険があるから
5. その他 具体的に：

→問3へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- 全県では「津波に襲われる危険があるから」と答えた方の割合が最も高く 60.8% となり、次いで「余震で家が倒壊する危険があるから」が 50.1% となっています。
- 地域別にみると、一般地域では「余震で家が倒壊する危険があるから」と答えた方の割合が最も高く 74.3% となっている一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「津波に襲われる危険があるから」が、それぞれ、93.3%、92.5% と最も高くなっています。

2. 2. 4 避難を遅らせる理由

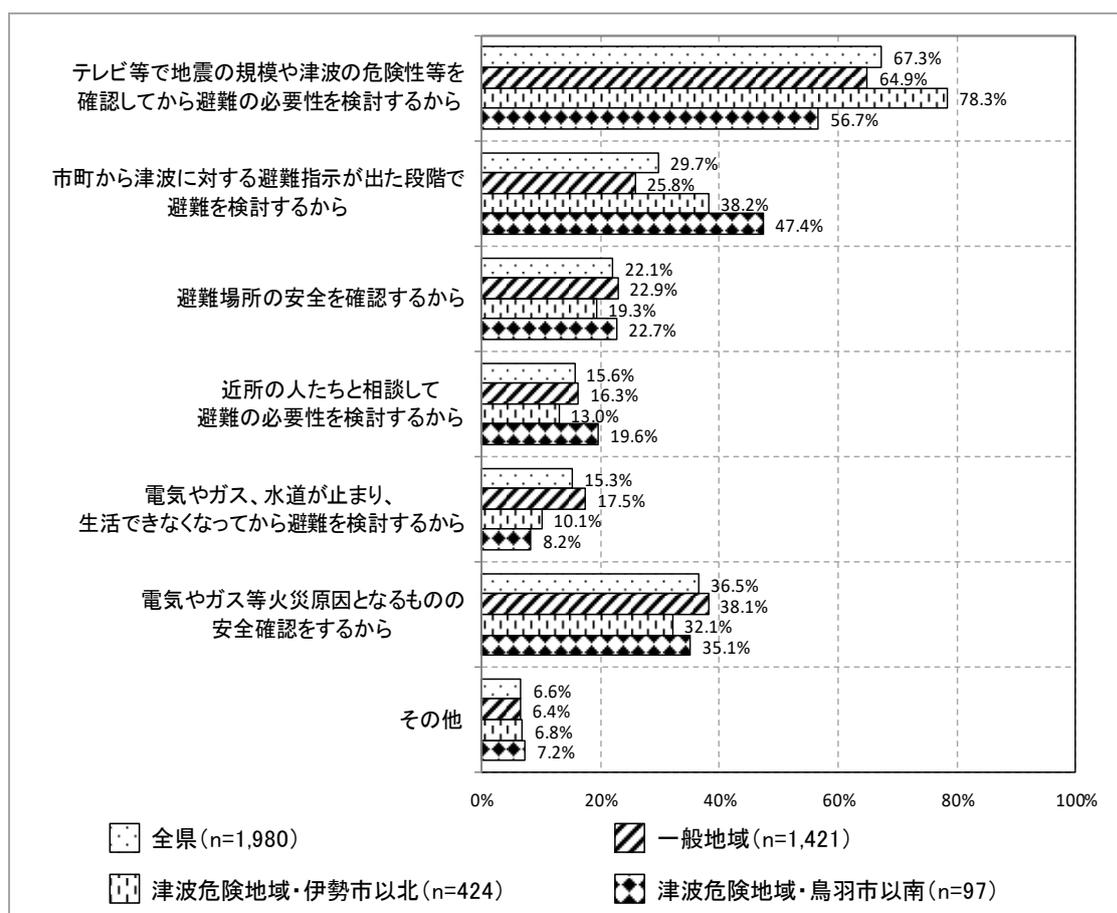
【問 2-2】 問 2 で、「2.しばらく様子を見てから避難する」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。
(いくつでも○)

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から津波に対する避難指示が出た段階で避難を検討するから
3. 避難場所の安全を確認するから
4. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
5. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
6. 電気やガス等火災原因となるものの安全確認をするから
7. その他 具体的に：

問3へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- 避難を遅らせる理由について、すべての地域で「テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから」と答えた方の割合が最も高くなっています。

2. 2. 5 避難しない理由

【問 2-3】 問 2 で、「3.避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 内陸地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
8. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
9. ペットを残して避難することに抵抗があるから
10. 面倒だから
11. その他 具体的に：

問3へ

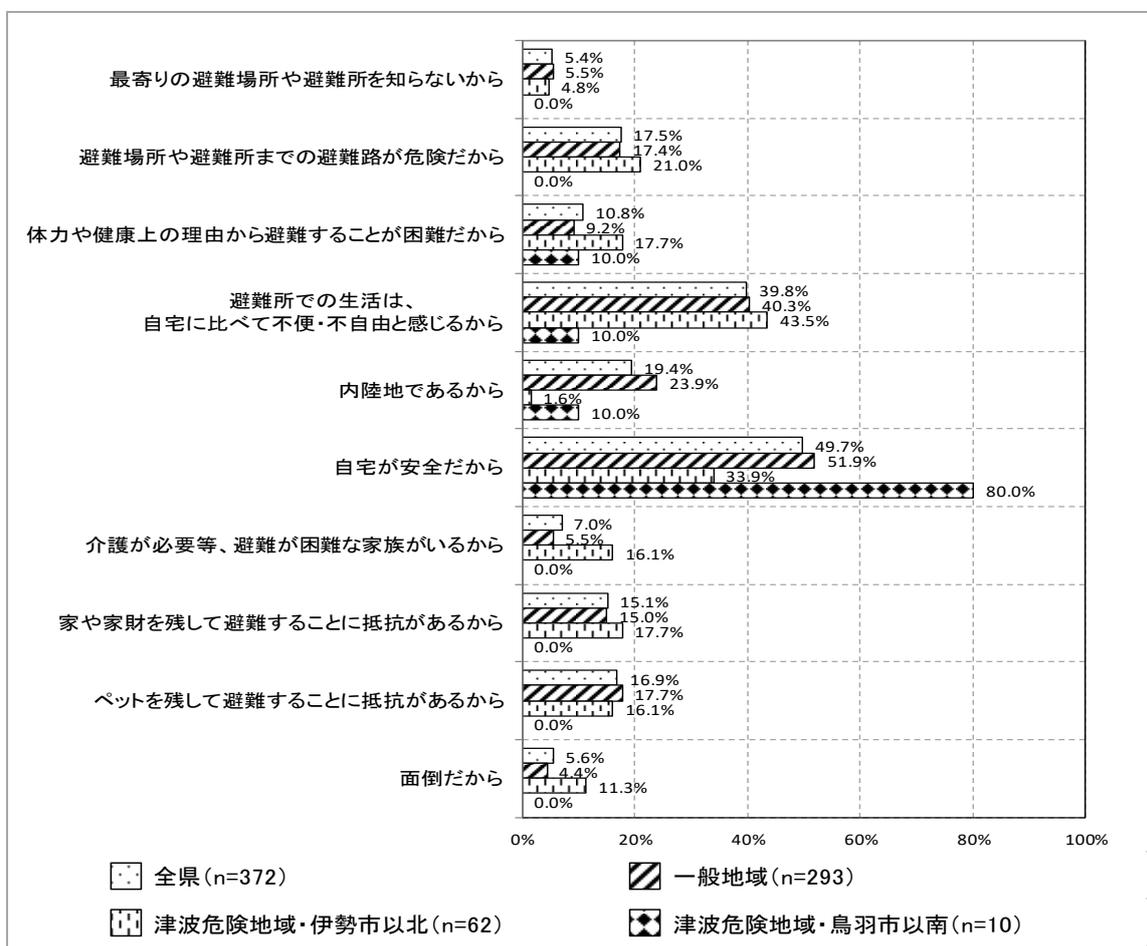
このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり使い分けています。

※避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所

※避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物
(避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。)

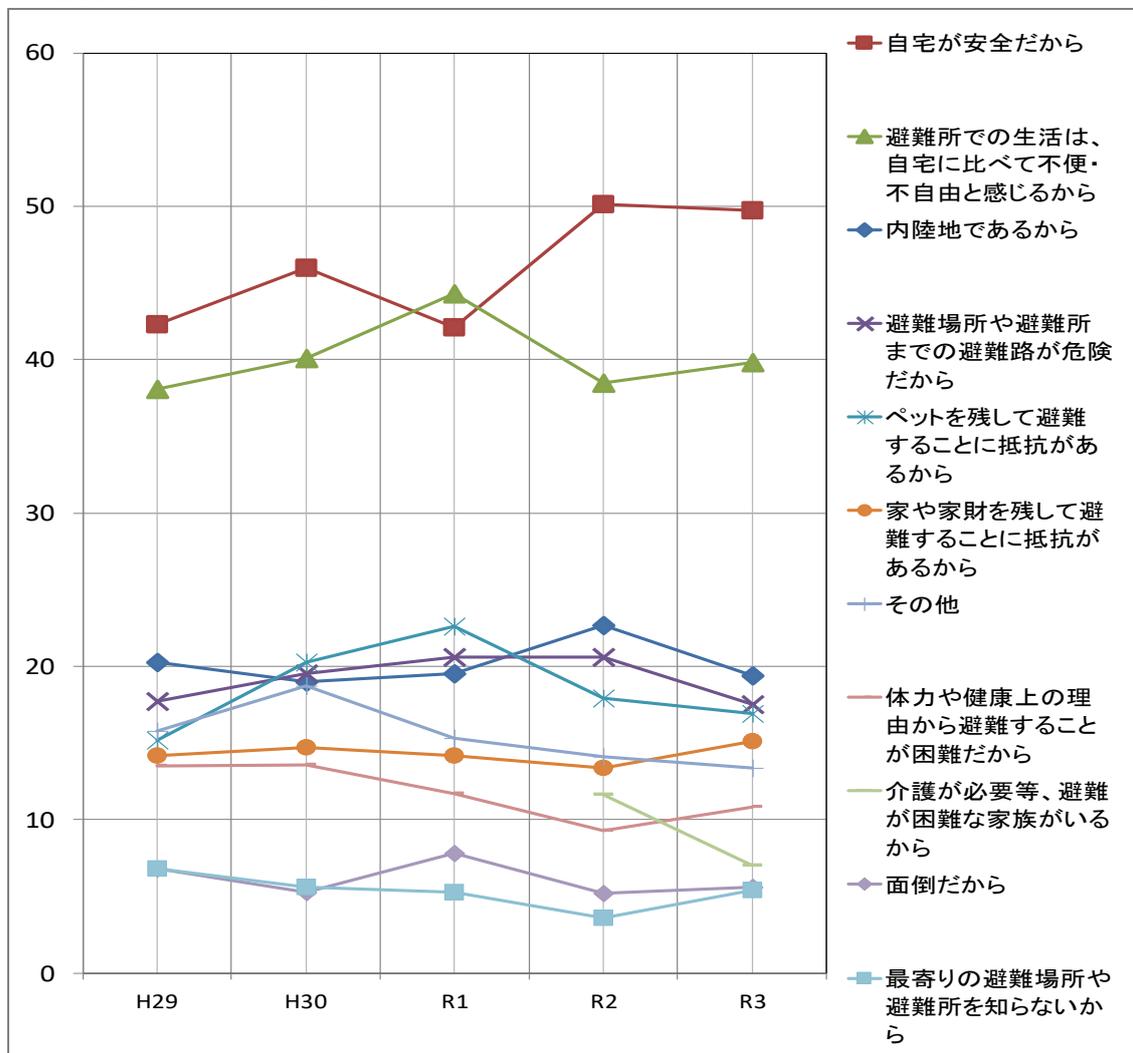
調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- ・「自宅が安全だから」と答えた方の割合が 49.7%で最も高くなり、次いで「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから」が 39.8%、「内陸地であるから」が 19.4%、「避難場所や避難所までの避難路が危険だから」が 17.5%となっています。

(2) 直近 5 年間の経年変化

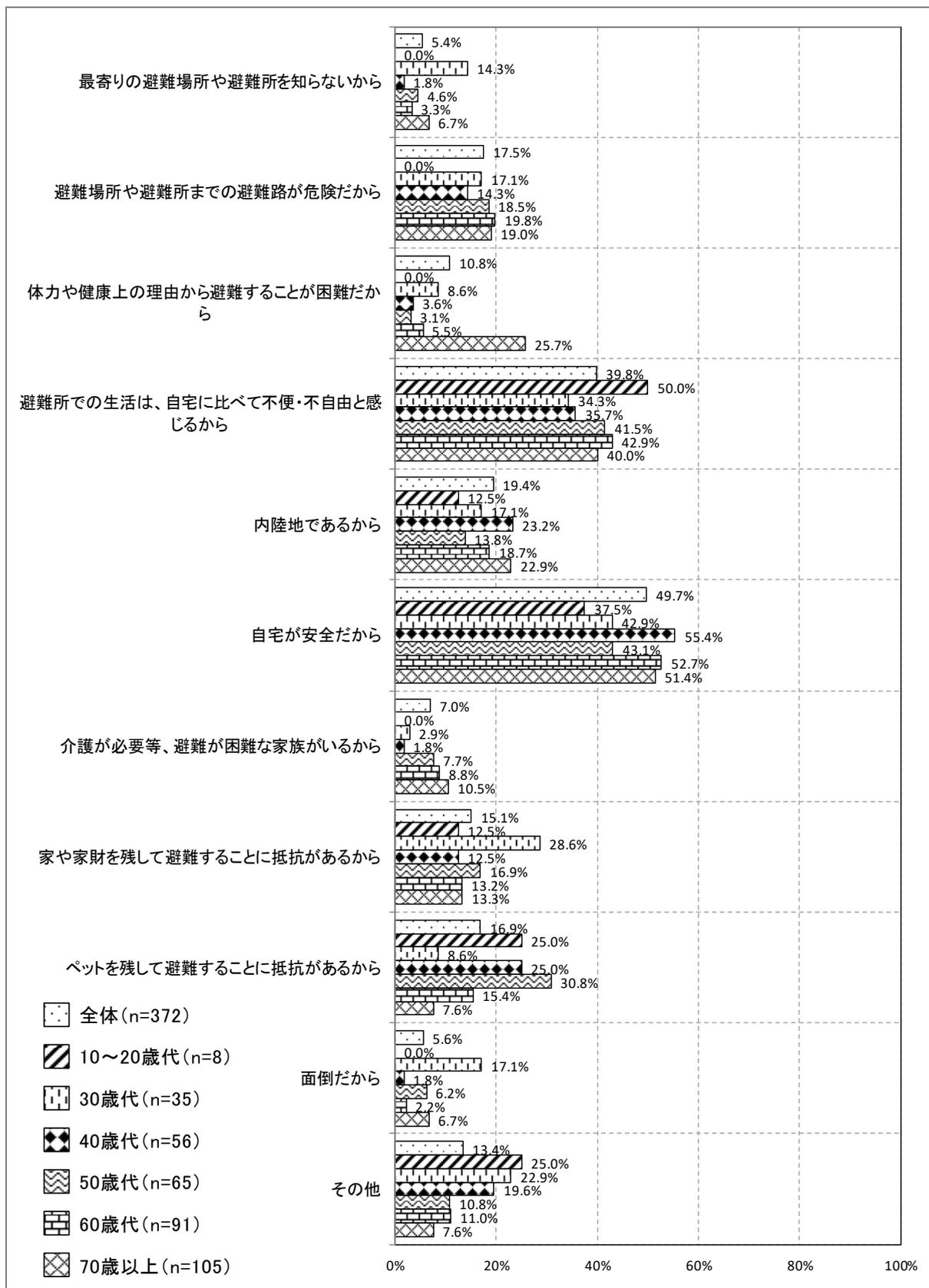


(%)

	最寄りの避難場所や避難所を知らないから	避難場所や避難所までの避難路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから	内陸地であるから	自宅が安全だから	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	ペットを残して避難することに抵抗があるから	面倒だから	その他
R3	5.4	17.5	10.8	39.8	19.4	49.7	7.0	15.1	16.9	5.6	13.4
R2	3.6	20.6	9.3	38.5	22.7	50.1	11.6	13.4	17.9	5.2	14.1
R1	5.3	20.6	11.7	44.3	19.5	42.1	-	14.2	22.6	7.8	15.3
H30	5.6	19.5	13.6	40.1	19.0	46.0	-	14.7	20.3	5.3	18.7
H29	6.8	17.7	13.5	38.1	20.3	42.3	-	14.2	15.2	6.8	15.8

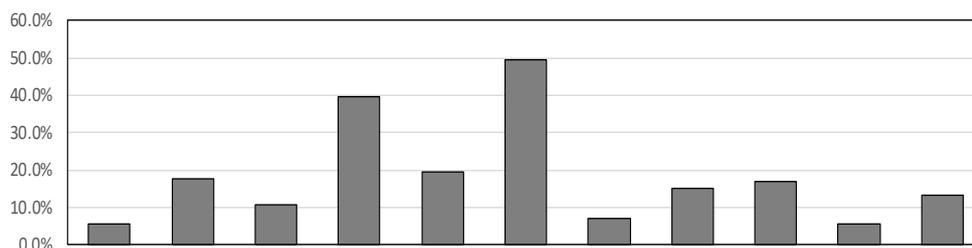
- ・「自宅が安全だから」と答えた方の割合は増加しています。
- ・「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから」と答えた方の割合は、4 割程度で推移し、大きな変化はありません。

(3) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 年代別では、「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感
じるから」と答えた方の割合は、10~20歳代で最も高い50.0%となっています。
- また、「家や家財を残して避難することに抵抗があるから」と答えた方の割合は、30歳代で最も高い28.6%となっています。

(4)「要配慮者の有無別」集計結果 (複数回答)



	全体	最寄りの避難場所や避難所を知らないから	避難場所や避難所までの避難路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから	内陸地であるから	自宅が安全だから	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	ペットを残して避難することに抵抗があるから	面倒だから	その他
全体	n=372	5.4%	17.5%	10.8%	39.8%	19.4%	49.7%	7.0%	15.1%	16.9%	5.6%	13.4%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=226	6.6%	18.1%	4.4%	38.5%	18.1%	51.3%	0.4%	15.0%	22.6%	4.9%	12.4%
75歳以上の方がいる	n=91	3.3%	20.9%	23.1%	45.1%	23.1%	44.0%	13.2%	13.2%	7.7%	7.7%	8.8%
介護・介助が必要な方がいる	n=38	2.6%	10.5%	34.2%	31.6%	7.9%	21.1%	57.9%	13.2%	7.9%	7.9%	15.8%

- 同居家族に「75歳以上の方がいる」場合、「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから」と答えた方の割合が全体の39.8%より5.3ポイント高い45.1%で最も高くなっています。
- 同居家族に「介護・介助が必要な方がいる」場合、「介護が必要等、避難が困難な家族がいるから」と答えた方の割合が57.9%で最も高くなっています。

2. 2. 6 三重県地震被害想定調査結果の認知度

【問3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。（一つだけ〇）

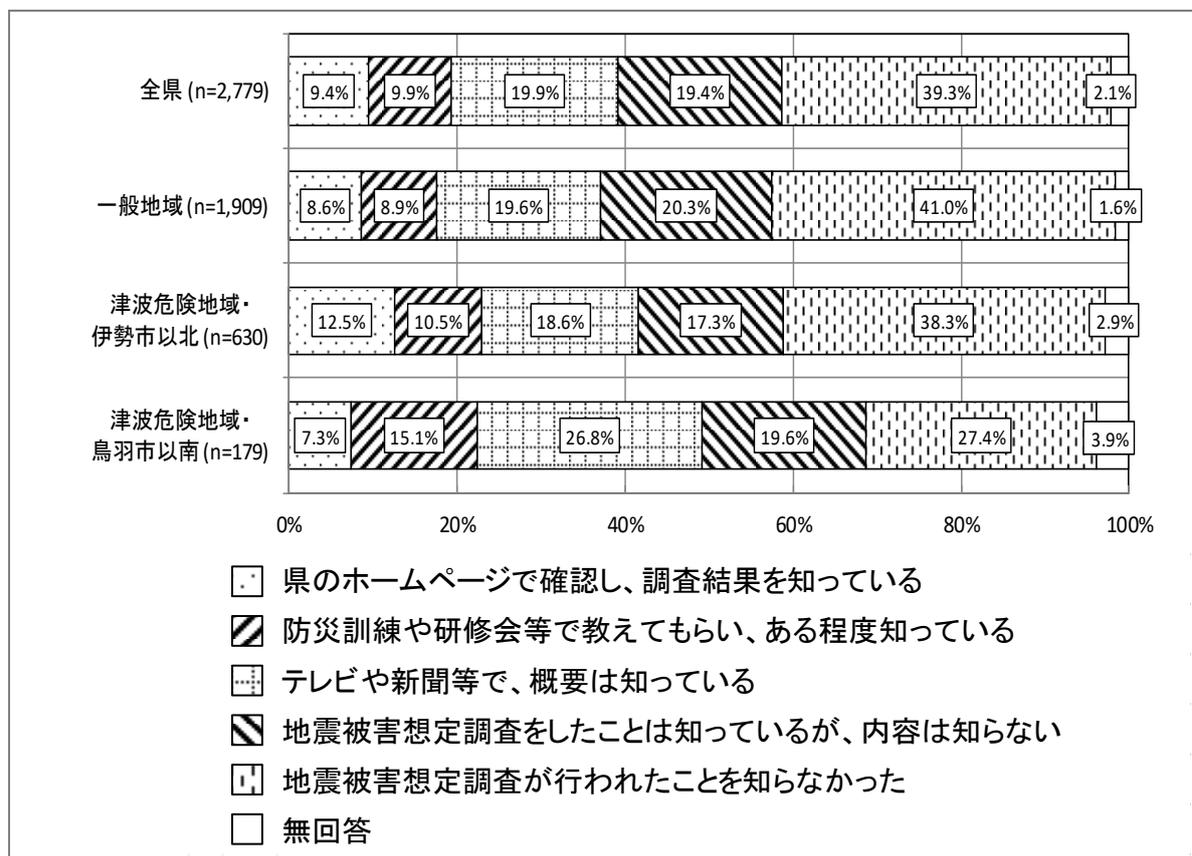
1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. テレビや新聞等で、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われたことを知らなかった

→問4へ

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- ・「県のホームページで確認し、調査結果を知っている」「防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている」「テレビや新聞等で、概要は知っている」と答えた方の割合の合計（以下、「三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合」という。）は、39.2%となっており、地域別では特に津波危険地域（鳥羽市以南）で49.2%と半数近くに及んでいます。

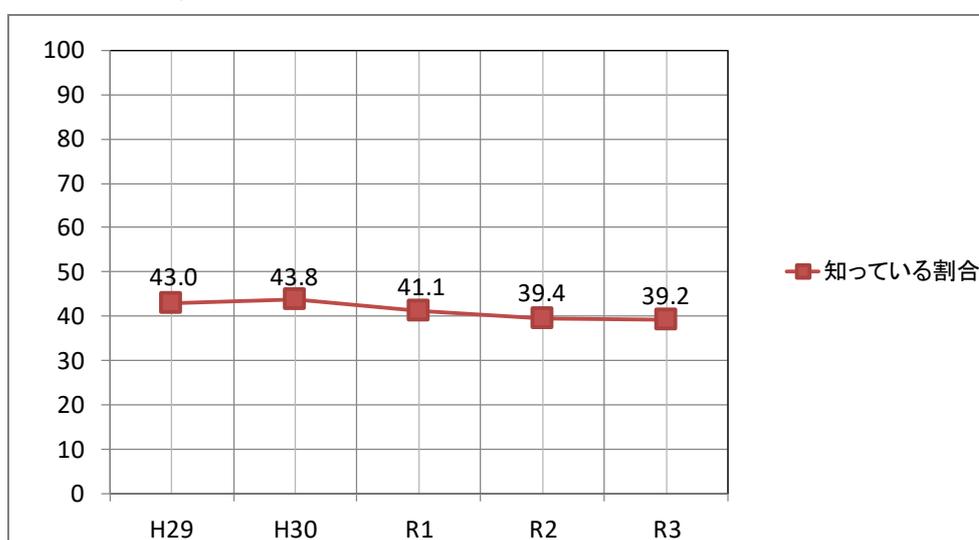
表 三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合（地域別）

全県	39.2%
一般地域	37.1%
津波危険地域（伊勢市以北）	41.6%
津波危険地域（鳥羽市以南）	49.2%

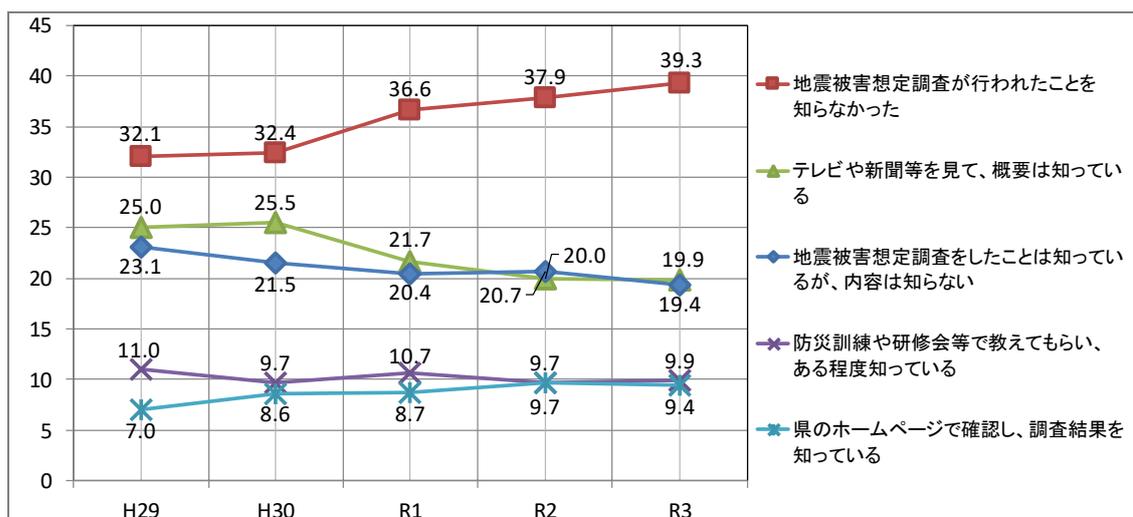
- 「地震被害想定調査が行われたことを知らなかった」と答えた方の割合が、津波危険地域（鳥羽市以南）の27.4%よりも、一般地域で13.6ポイント高い41.0%、津波危険地域（伊勢市以北）で10.9ポイント高い38.3%となり、津波危険地域（鳥羽市以南）以外の地域で、三重県地震被害想定調査結果の認知度が低い結果となっています。

（2）直近5年間の経年変化

ア. 「三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合」の経年変化



イ. 各設問の経年変化



- 「三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合」は39.2%で、直近5年間で大きな変化はありません。
- 「テレビや新聞等で、概要は知っている」と答えた方の割合が減少し、「地震被害想定調査が行われたことを知らなかった」と答えた方の割合が増加しています。

(3) 「年代別」集計結果

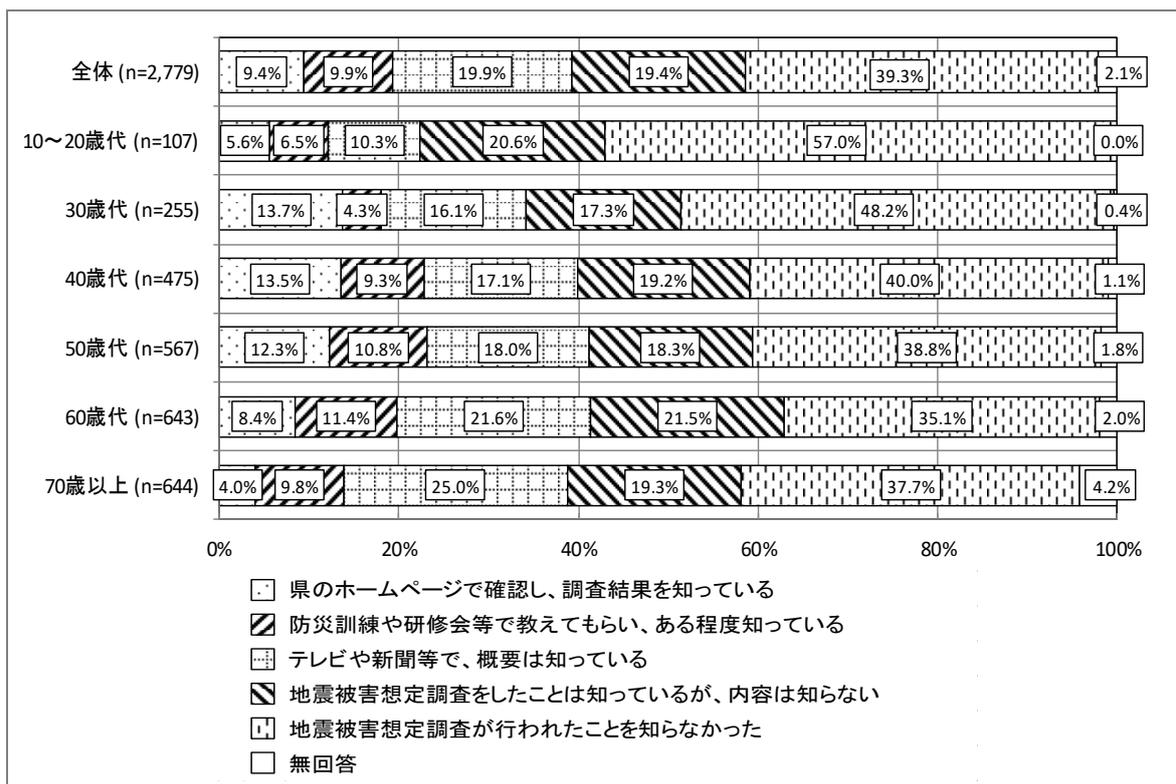


表 三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合（年代別）

全体	39.2%
10～20歳代	22.4%
30歳代	34.1%
40歳代	39.9%
50歳代	41.1%
60歳代	41.4%
70歳以上	38.8%

- 年代別では、10～20歳代の「三重県地震被害想定調査結果を知っていると答えた方の割合」は、全体の39.2%より16.8ポイント低い22.4%となっています。
- 特に、10～20歳代の「地震被害想定調査が行われたことを知らなかった」と答えた方の割合が、全体の39.3%より17.7ポイント高い57.0%となっています。

2. 2. 7 内陸直下型地震の危険性の認知度

【問 4】 平成 28 年には熊本地震、平成 30 年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○)

1. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知っていた
2. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること(または、ないこと)を知った
3. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない

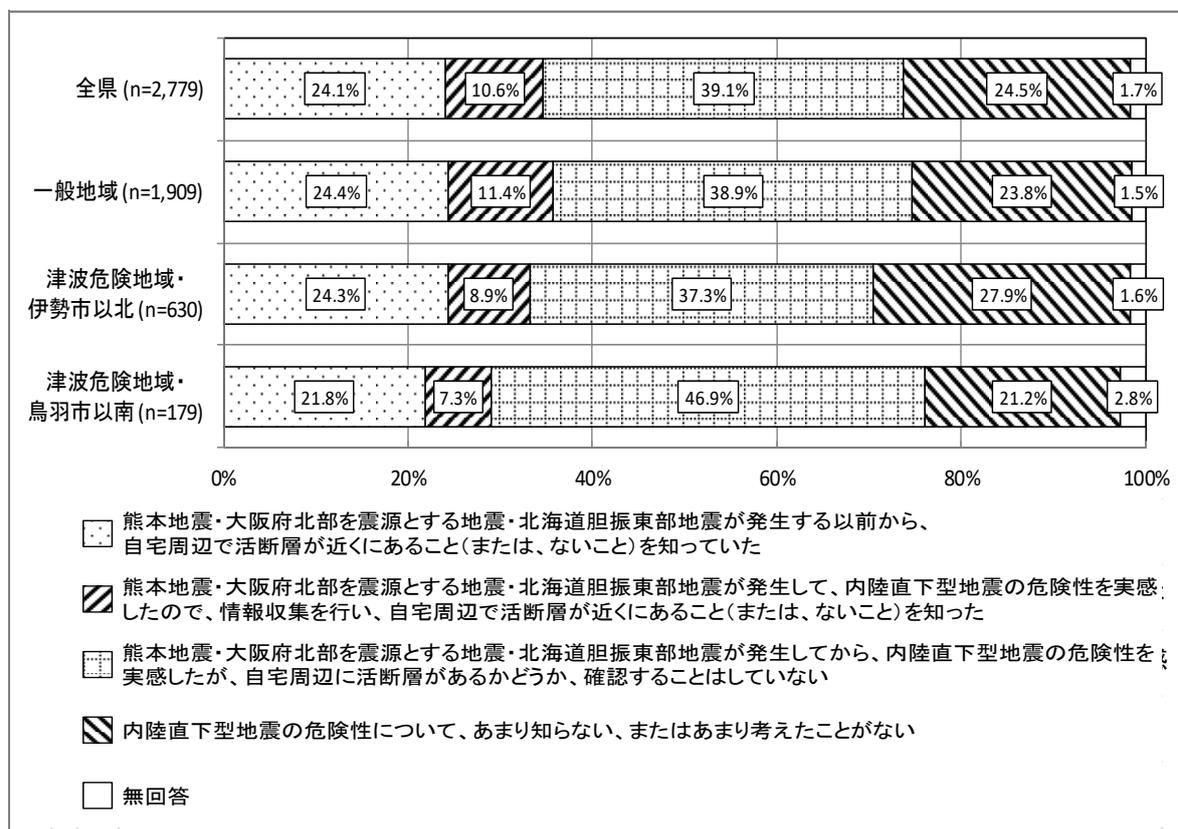
問5へ

※内陸直下型地震：内陸部にある活断層で発生する、震源の浅い地震

※なお、現在活断層が確認されていない場所であっても、後の調査・研究で新たに活断層が見られることもあります。

調査結果

(1) 「地域別」集計結果



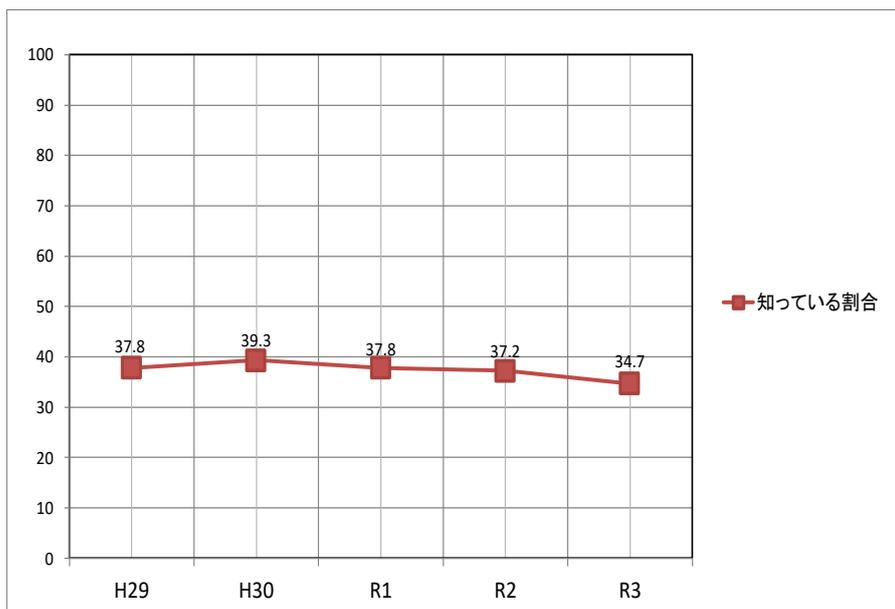
- ・「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない」と答えた方の割合が、全県で39.1%と最も高くなっています。
- ・「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知っていた」「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知った」と回答した方の割合の合計（以下、「内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合」という。）は、地域別では一般地域で最も高く35.8%となっています。

表 内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合（地域別）

全県	34.7%
一般地域	35.8%
津波危険地域（伊勢市以北）	33.2%
津波危険地域（鳥羽市以南）	29.1%

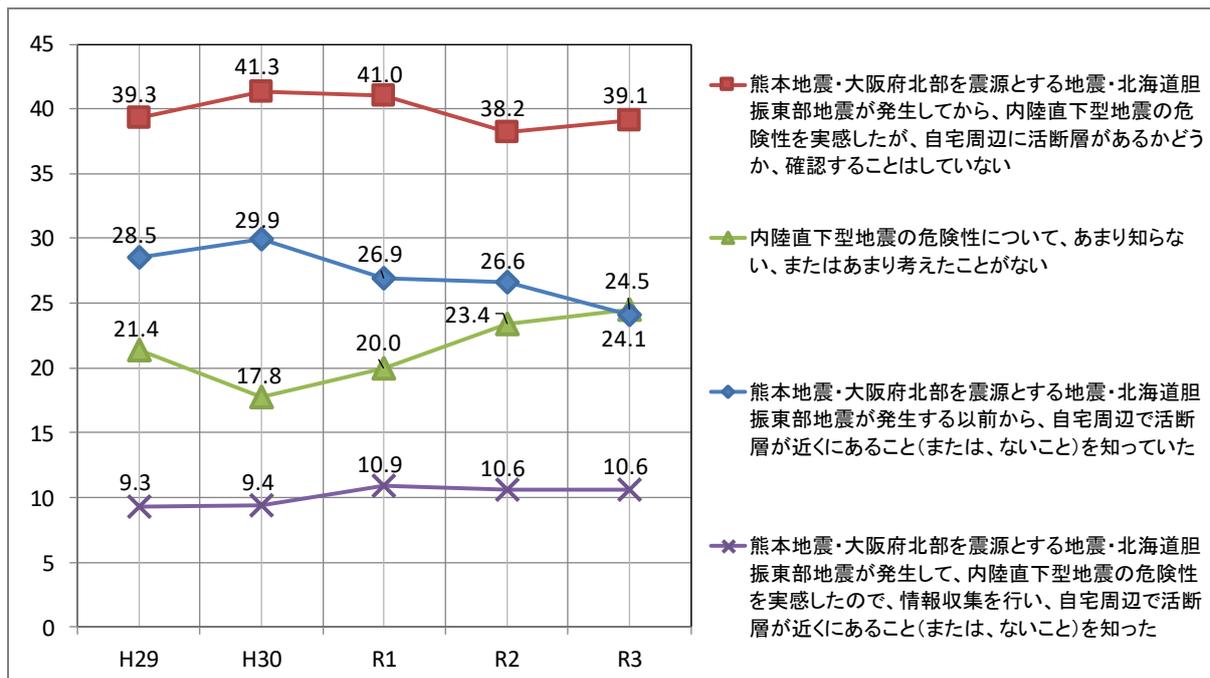
（2）直近5年間の経年変化

ア. 「内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合」の経年変化



- ・「内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合」は概ね4割弱程度で、直近5年間で大きな変化はありません。

イ. 各設問の経年変化



- 「熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知っていた」と答えた方の割合は減少傾向である一方、「内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合は増加しています。

(3) 「年代別」集計結果

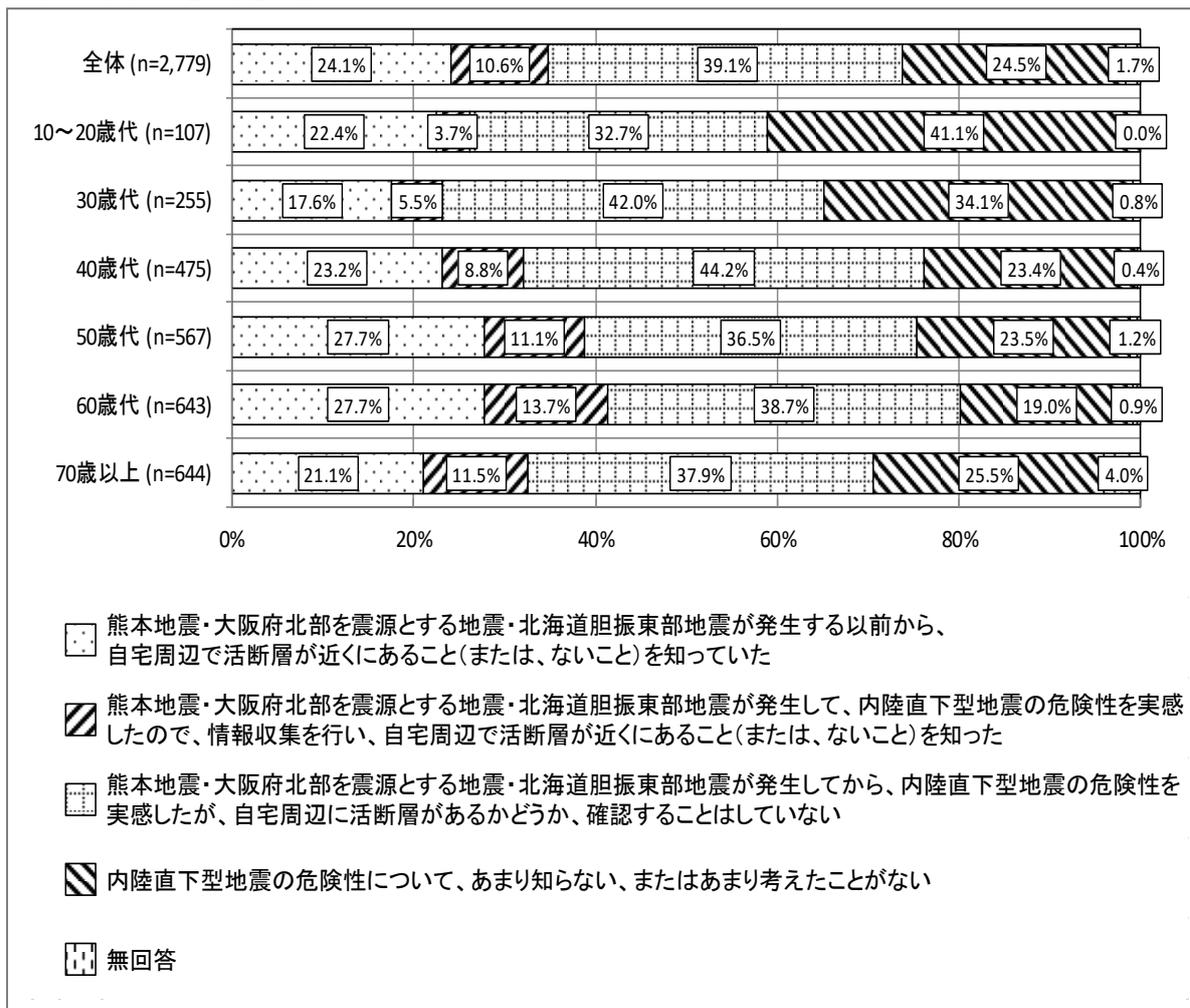


表 内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合（年代別）

全体	34.7%
10~20歳代	26.1%
30歳代	23.1%
40歳代	32.0%
50歳代	38.8%
60歳代	41.4%
70歳以上	32.6%

- 10~20歳代および30歳代の「内陸直下型地震の危険性を知っていると答えた方の割合」は、全体の34.7%より、それぞれ8.6ポイント、11.6ポイント低くなっています。
- 10~20歳代および30歳代の「内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えたことがない」と答えた方の割合は、全体の24.5%より、それぞれ16.6ポイント、9.6ポイント高くなっています。

:

2. 2. 8 南海トラフ地震臨時情報についての認知度

【問5】 「南海トラフ地震臨時情報」について、あなたはどの程度ご存知ですか。
（一つだけ〇）

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
 2. テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある
 3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報か知らない
 4. 知らない
- 問6へ

※「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の発表条件は以下のとおりです。

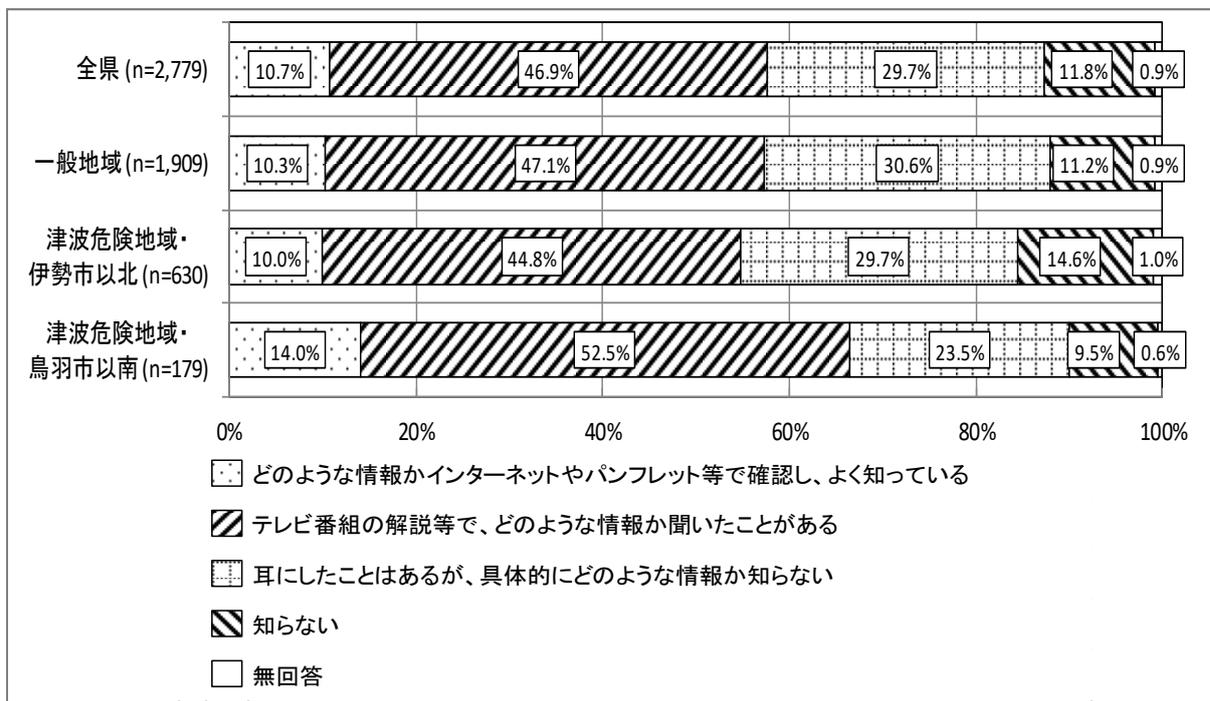
「南海トラフ地震臨時情報」

- ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
- ・観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
（南海トラフ地震臨時情報について

<http://www.pref.mie.lg.jp/STAISAKU/HP/m0099500047.htm>)

調査結果

（1）「地域別」集計結果



- ・全県では「どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている」「テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある」と答えた方の割合の合計が、57.6%と、半数以上が知っている結果となりました。中でも津波危険地域（鳥羽市以南）では 66.5%となり、他の地域にくらべ認知度が高くなっています。

2. 3 風水害対策について

2. 3. 1 紀伊半島大水害発生後の防災意識の移り変わり

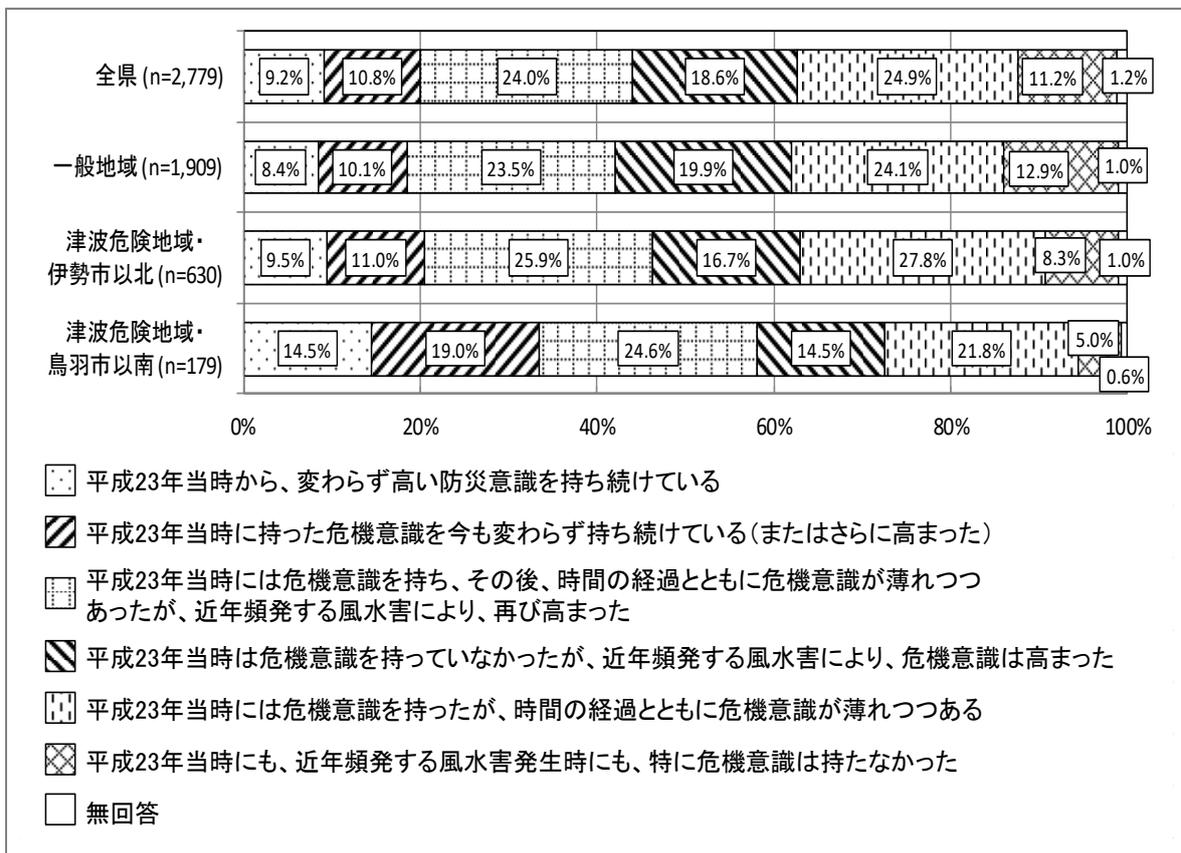
【問 6】 平成 23 年の紀伊半島大水害から 10 年あまりが経過し、近年では平成 30 年 7 月豪雨、令和元年東日本台風（台風第 19 号）、令和 2 年 7 月豪雨といった大規模な風水害に加え、今年も全国各地で風水害が頻発していますが、この一連の風水害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ〇）

1. 平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識をもち続けている
2. 平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらずもち続けている（またはさらに高まった）
3. 平成 23 年当時には危機意識をもち、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 平成 23 年当時には危機意識をもち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 平成 23 年当時は危機意識をもち、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった。
6. 平成 23 年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった

問 5 へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」と答えた方の割合は、全県の 10.8% より 8.2 ポイント高い 19.0%となっています。

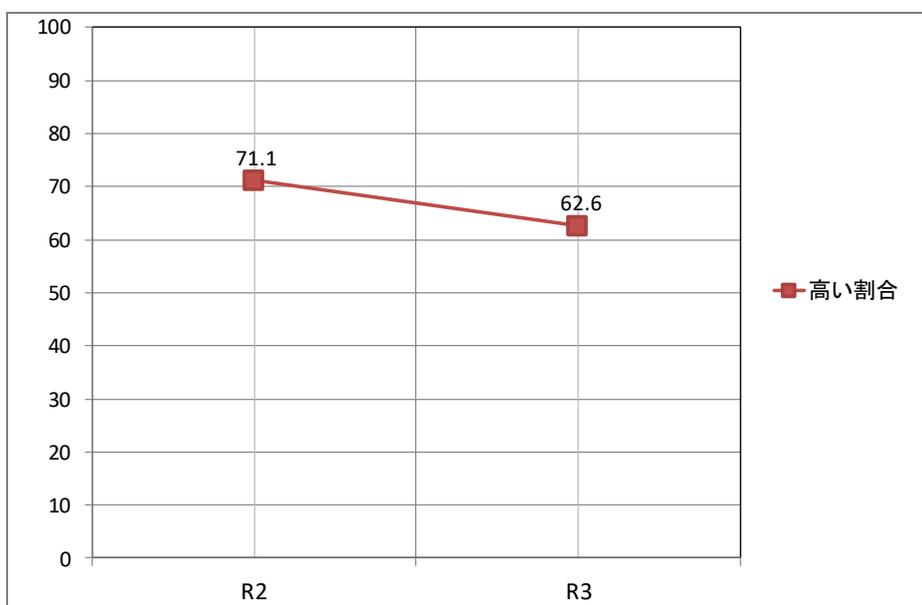
表 風水害にかかる高い防災意識や危機意識
を持っていると答えた方の割合（地域別）

全県	62.6%
一般地域	61.9%
津波危険地域（伊勢市以北）	63.1%
津波危険地域（鳥羽市以南）	72.6%

- 「平成 23 年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている」「平成 23 年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）」「平成 23 年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった」「平成 23 年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識は高まった。」と答えた方の割合の合計（以下、「風水害にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」という。）は、全県で 62.6%と、「問 1 東日本大震災発生後の防災意識の移り変わり」の「地震・津波にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」の 56.9%よりも 5.7 ポイント高くなっています。

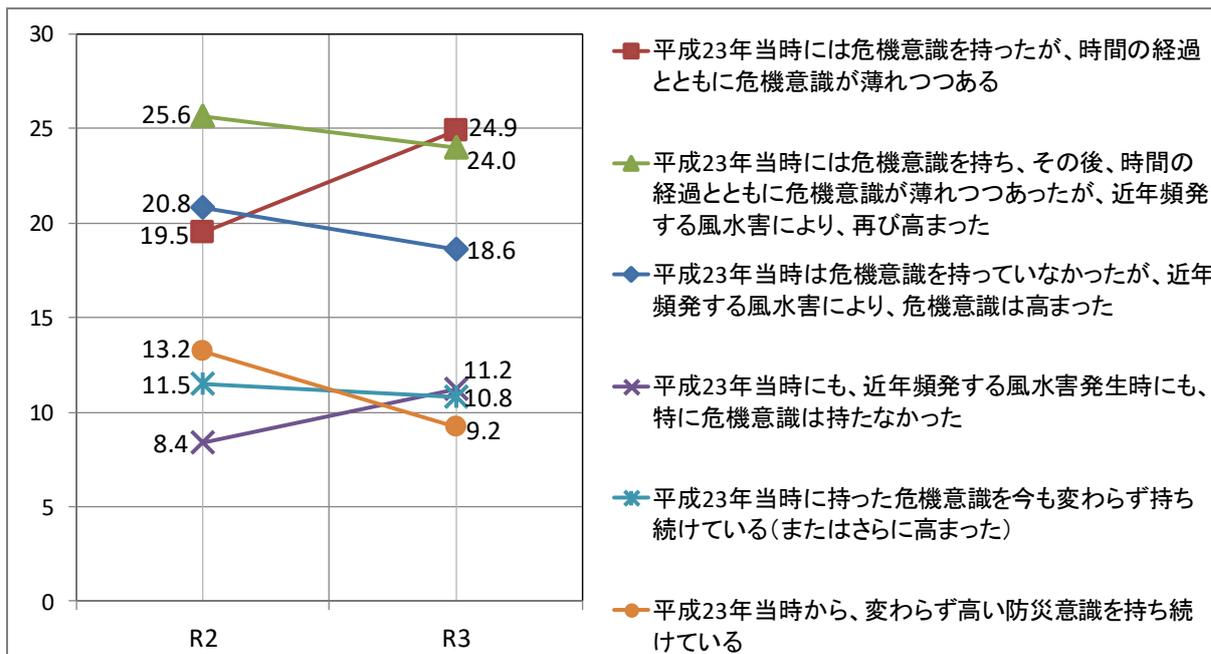
（2）直近 2 年間の経年変化

ア. 「風水害にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」の経年変化



- 「風水害にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」は、R3 は 62.6%となり、R2 の 71.1%より減少しています。

イ. 各設問の経年変化



- 「平成 23 年当時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある」と答えた方の割合は、令和2年度の 19.5%より 5.4 ポイント高い 24.9% となっています。

(3) 「年代別」 集計結果

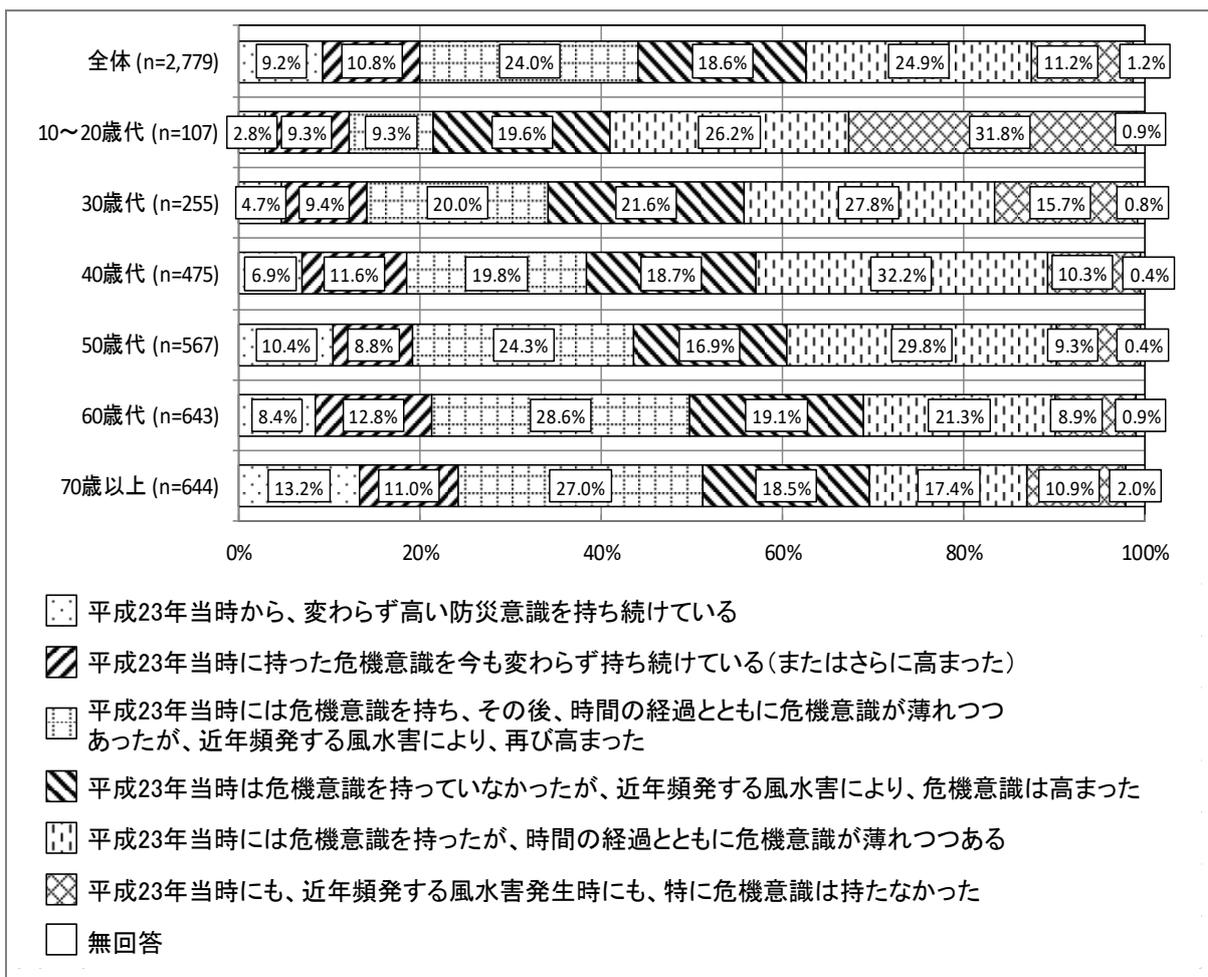


表 風水害にかかる高い防災意識や危機意識
を持っていると答えた方の割合 (年代別)

全体	62.6%
10~20歳代	41.0%
30歳代	55.7%
40歳代	57.0%
50歳代	60.4%
60歳代	68.9%
70歳以上	69.7%

- 年代別では、10~20歳代の「風水害にかかる高い防災意識や危機意識を持っていると答えた方の割合」は、全体より21.6ポイント低い41.0%となっています。
- また、「平成23年当時にも、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった」と答えた方の割合は、10~20歳代で31.8%と最も高くなっています。

2. 3. 2 警戒レベルの認知度

【問7】 令和3年5月から災害に係る避難情報が変更になり、5段階の「警戒レベル」が付与されることになりました。この「警戒レベル」について、あなたはどの程度ご存じですか。（一つだけ〇）

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
2. テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある
3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報か知らない
4. 知らない

→問8へ

※警戒レベル：

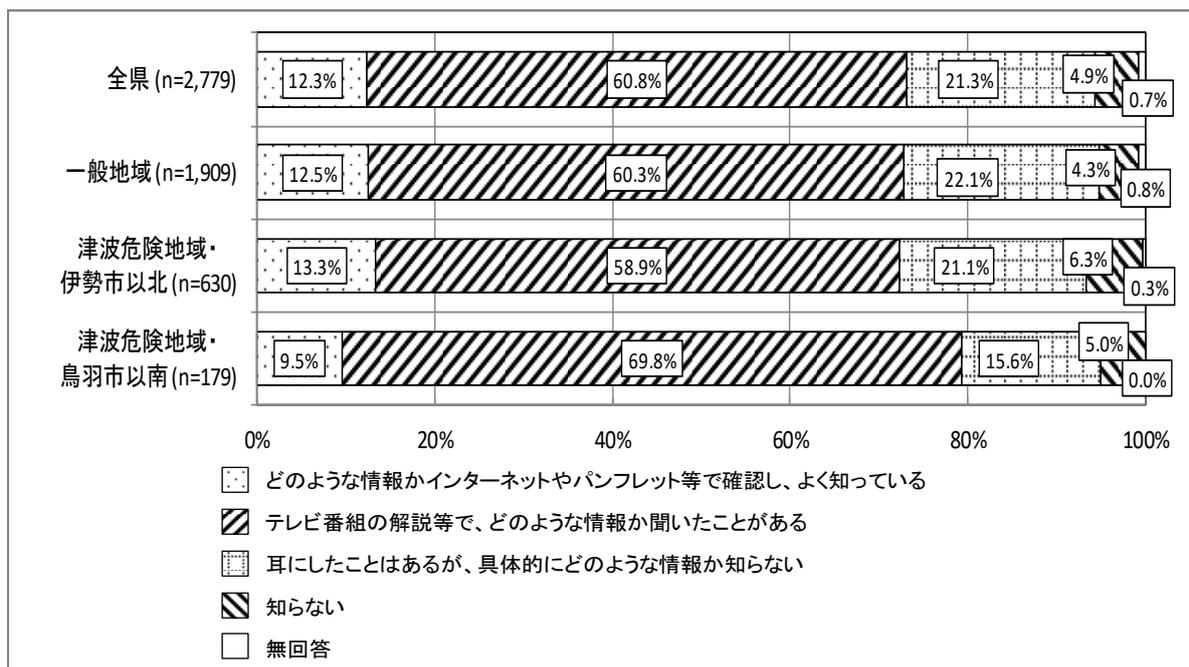
災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を5段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「難」を「避」けるため「自らの命は自らが守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。

（避難情報が新しくなります）

<https://www.pref.mie.lg.jp/STAIKAKU/HP/000249704.htm>

調査結果

（1）「地域別」集計結果



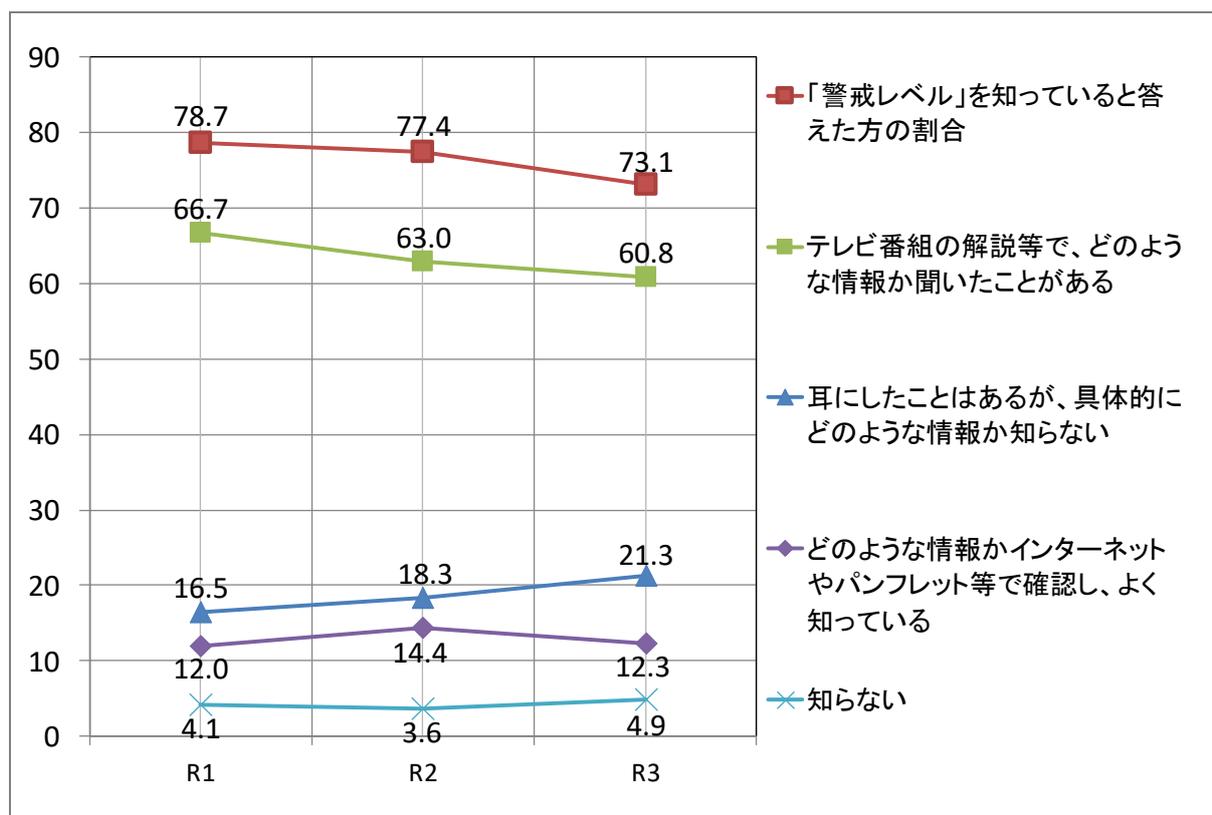
- ・「どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている」「テレビ番組の解説等で、どのような情報か聞いたことがある」と回答した方の割合の合計（以下、「『警戒レベル』を知っている、または聞いたことがあると答えた方の割合」という。）は、73.1%と、南海トラフ地震臨時情報について知っていると答えた方の割合57.6%より高い結果となっています。

表 「警戒レベル」を知っている、または聞いたことがあると答えた方の割合（地域別）

全県	73.1%
一般地域	72.8%
津波危険地域（伊勢市以北）	72.2%
津波危険地域（鳥羽市以南）	79.3%

- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）が79.3%と全県の73.1%より6.2ポイント高い結果となっています。

(2) 直近3年間の経年変化



- 「『警戒レベル』を知っている、または聞いたことがあると答えた方の割合」は、73.1%となり、直近3年間では減少しています。

(3) 「年代別」集計結果

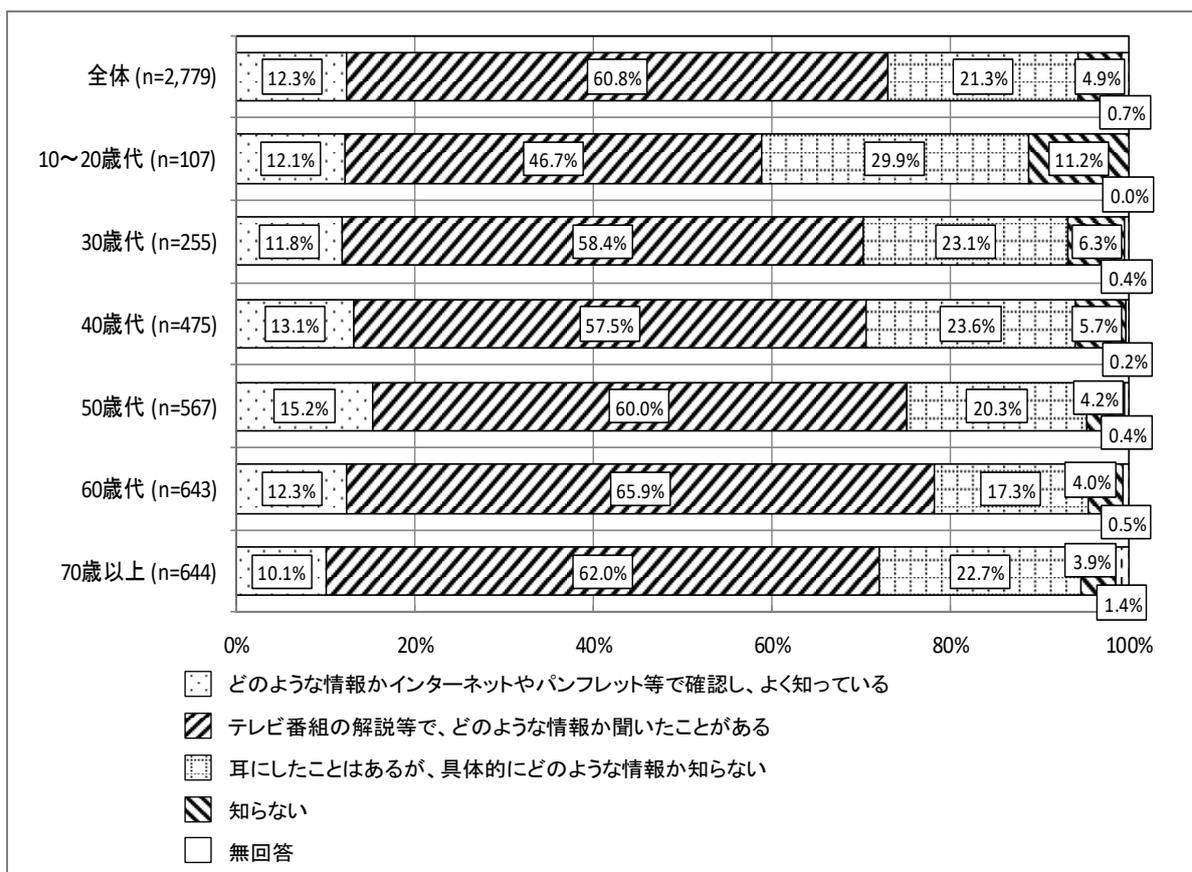


表 「警戒レベル」を知っている、または聞いたことがあると答えた方の割合 (年代別)

全体	73.1%
10~20歳代	58.8%
30歳代	70.2%
40歳代	70.6%
50歳代	75.2%
60歳代	78.2%
70歳以上	72.1%

- 年代別では、10~20歳代の「『警戒レベル』を知っている、または聞いたことがあると答えた方の割合」は、全体の73.1%より14.3ポイント低い58.8%となっています。
- また、70歳以上の「どのような情報がインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている」と答えた方の割合は、全体の12.3%より2.2ポイント低い10.1%となっています。

2. 3. 3 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度

【問 8】 あなたがお住まいの地域の風水害（高潮や川のはん濫、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存知ですか。
（いくつでも〇）

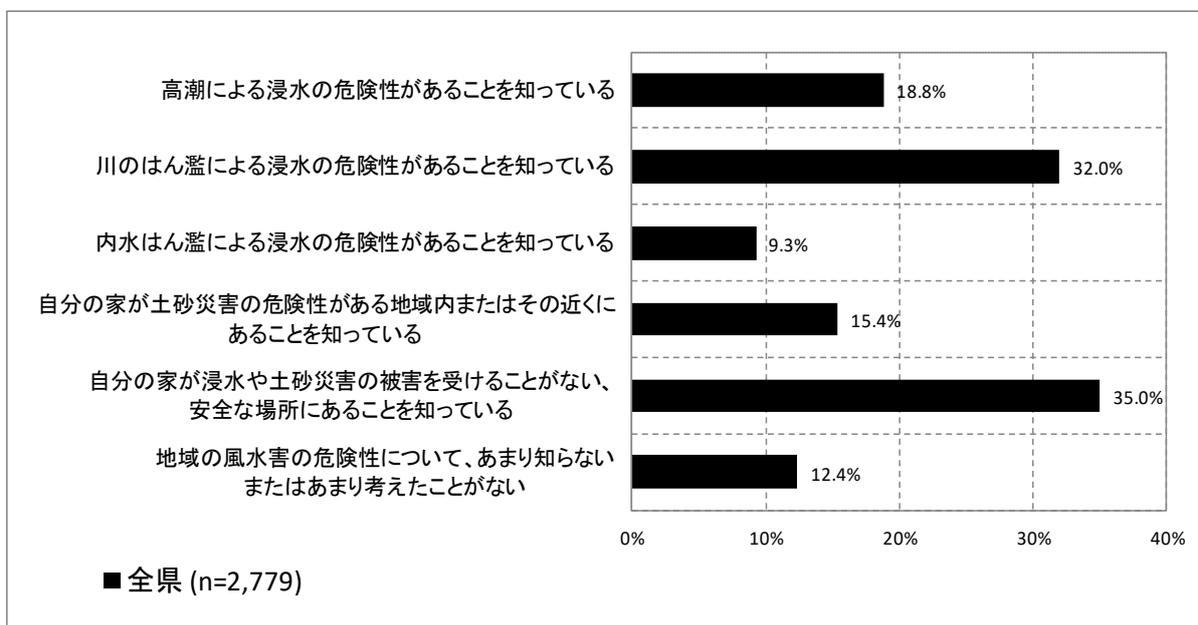
- | | |
|--|------------|
| 1. 高潮による浸水の危険性があることを知っている | } →問 8-1 へ |
| 2. 川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている | |
| 3. 内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている | |
| 4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている | |
| 5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあることを知っている | } →問 9 へ |
| 6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない | |

※内水はん濫：

局地的大雨等で下水道施設や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくても河川へ排水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土地、道路等が浸水する風水害

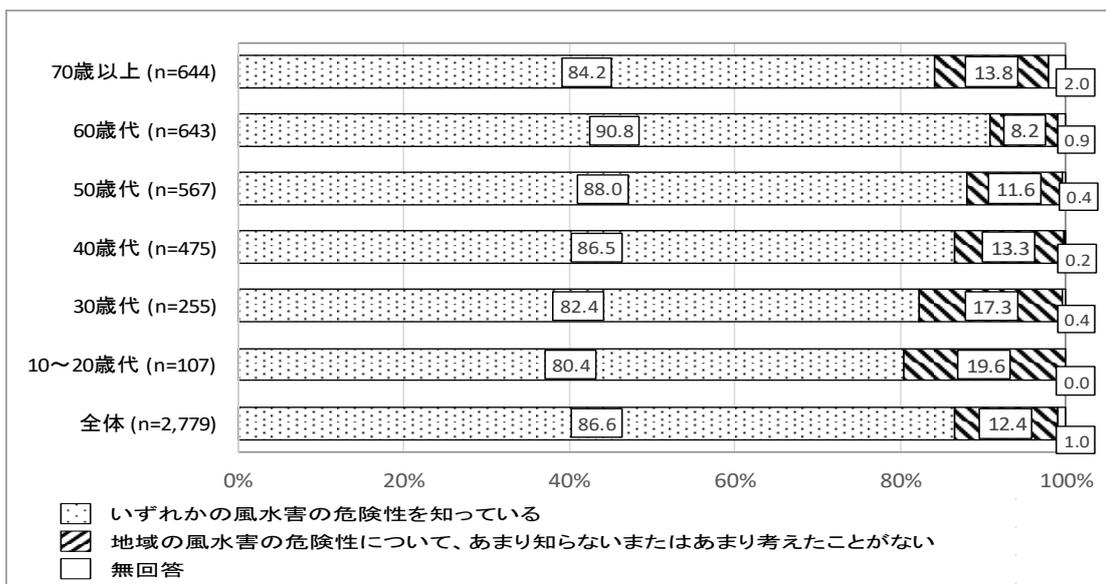
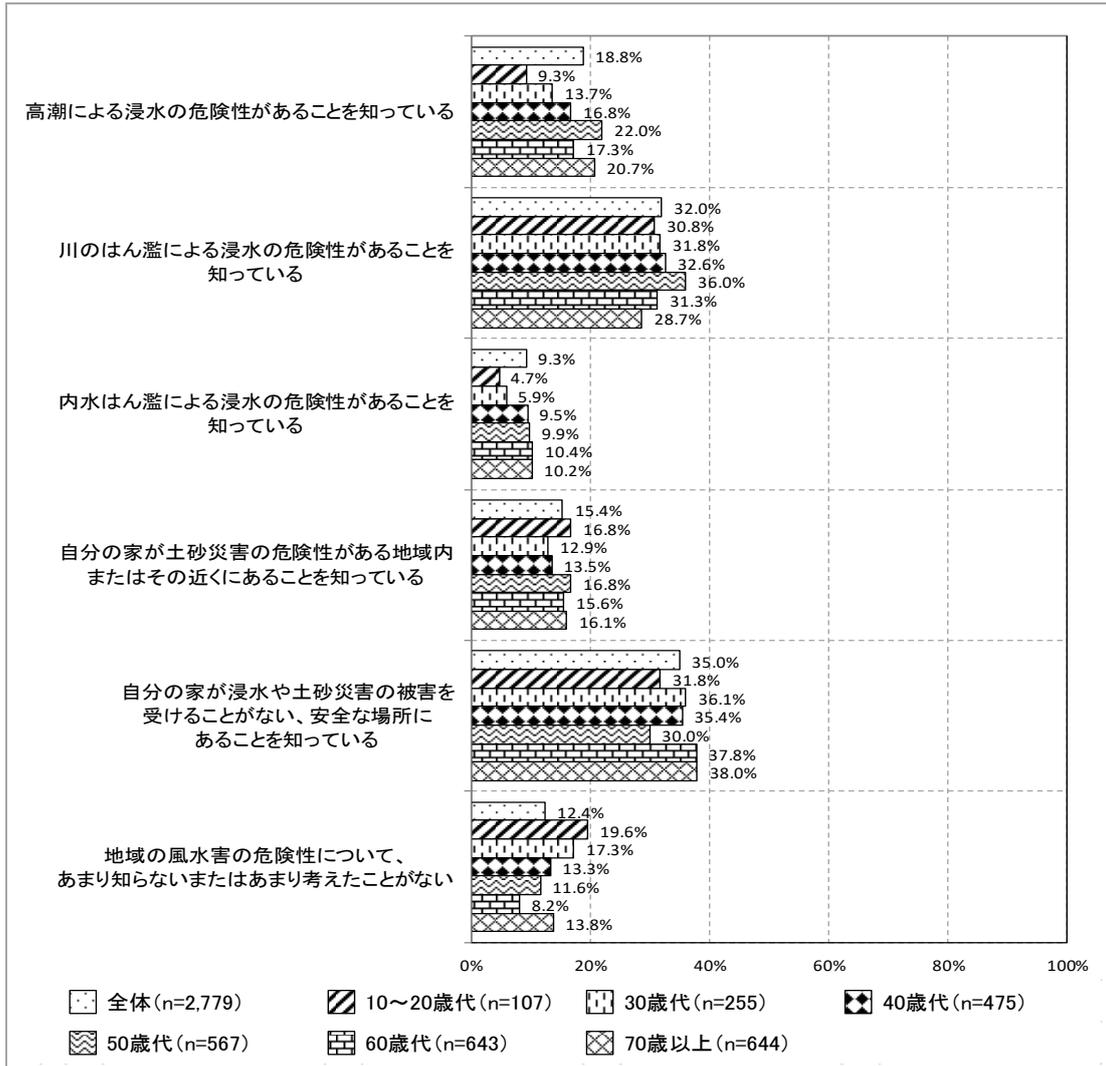
調査結果

(1) 集計結果 （複数回答）



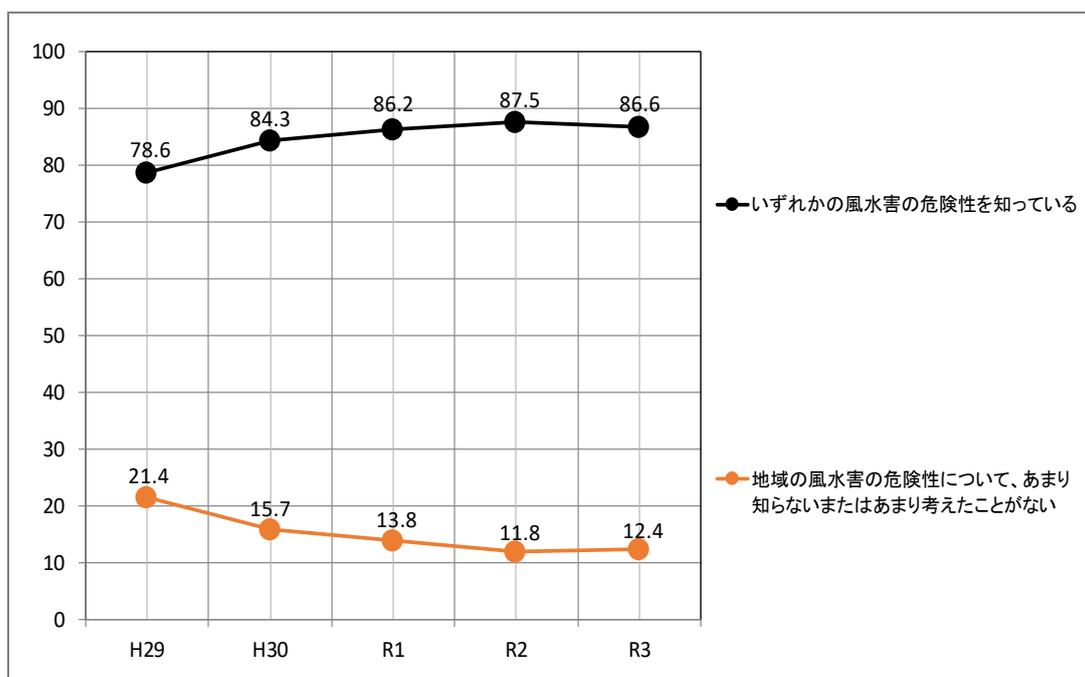
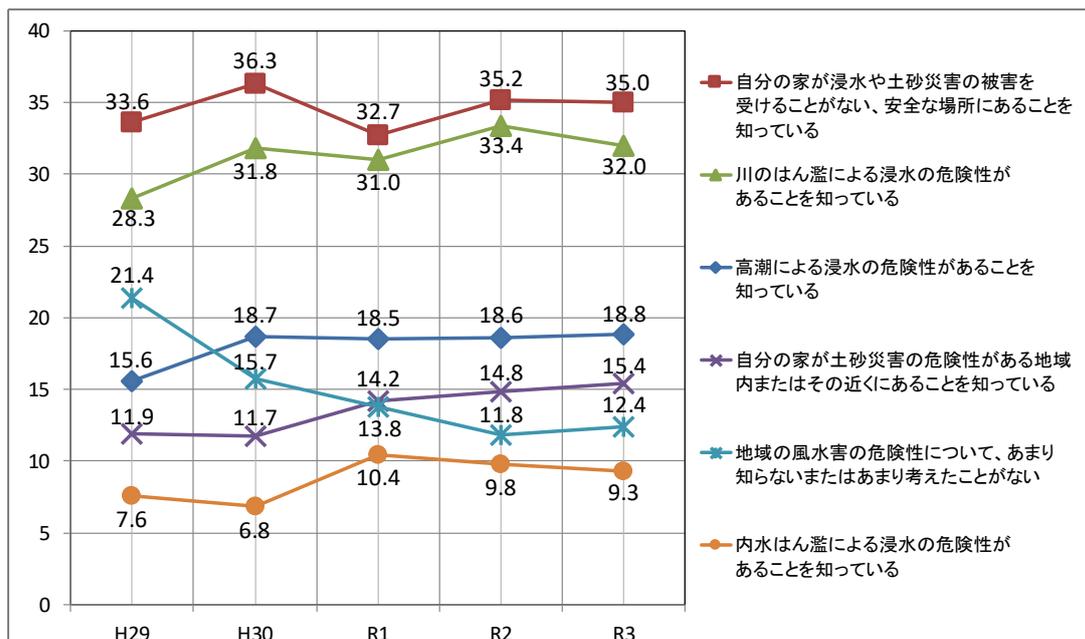
- ・「自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けない、安全な場所にあることを知っている」と答えた方の割合が 35.0%と最も高く、次いで「川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」と答えた方の割合が 32.0%となっています。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 年代別では、10~20歳代の「地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない」以外を選択した方の割合（以降、「いずれかの風水害の危険性を知っていると答えた方の割合」という。）は、全体の86.6%より6.2ポイント低い80.4%となっています。

(3) 直近5年間の経年変化 (複数回答)



- ・「いずれかの風水害の危険性を知っていると答えた方の割合」は 86.6%で、直近3年間で大きな変化はありません。

(参考)

平成29年度：平成29年台風第21号（※三重県では伊勢市、玉城町で浸水被害）

平成30年度：平成30年7月豪雨

令和元年度：令和元年房総半島台風（台風第15号）

令和元年東日本台風（台風第19号）

（※三重県では伊勢市で浸水被害発生）

令和2年度：令和2年7月豪雨

2. 3. 4 風水害の危険性の情報入手先

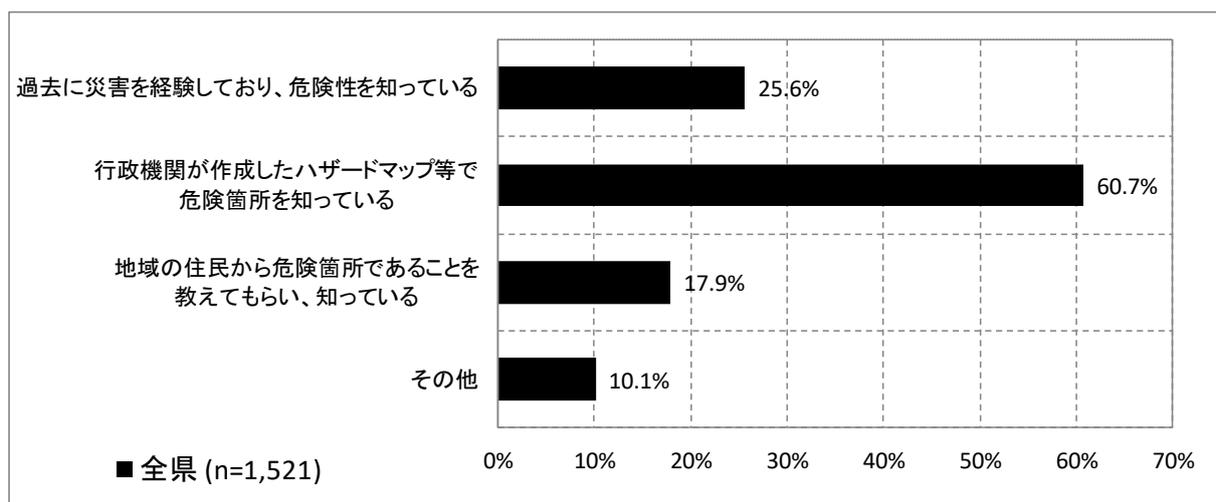
【問 8-1】 問 8 で、「1.高潮による浸水の危険性があることを知っている」、「2.川のはん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「3.内水はん濫による浸水の危険性があることを知っている」、「4.自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。 (いくつでも〇)

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他 具体的に：

→問 9 へ

調査結果

(1) 集計結果 (複数回答)



- 全県では、「行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている」が 60.7%と最も高くなっています。次いで、「過去に災害を経験しており、危険性を知っている」が 25.6%となっています。

2. 3. 5 局地的大雨等の避難行動

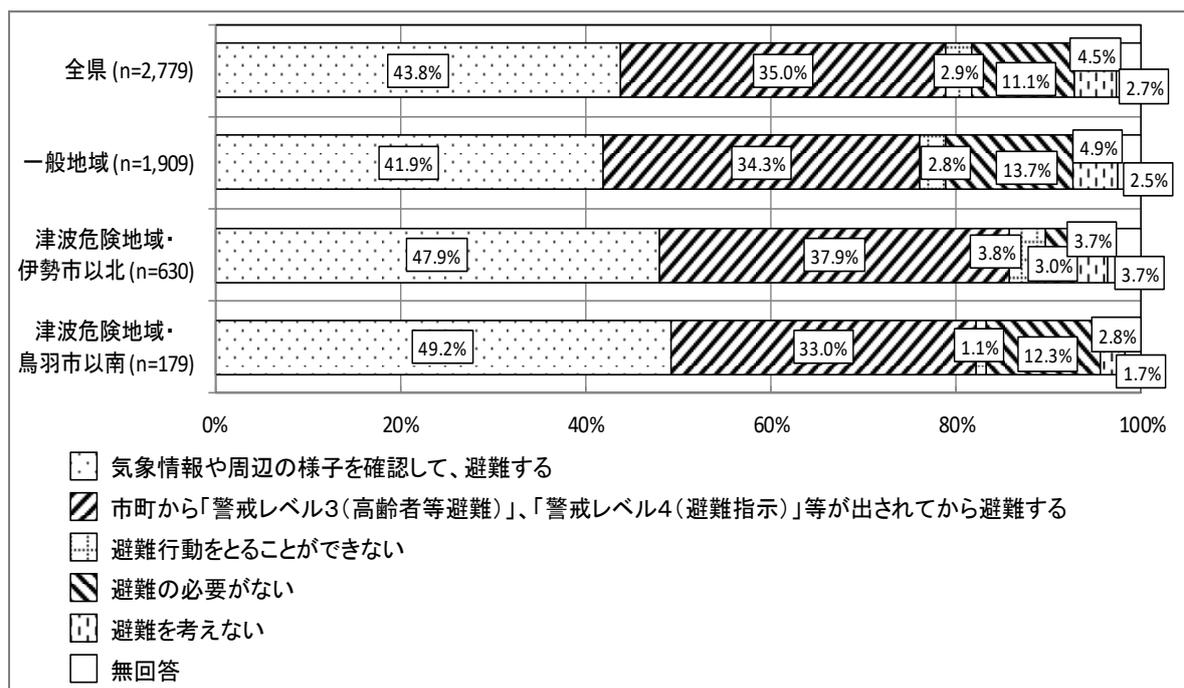
【問 9】 あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。（一つだけ〇）

1. 気象情報や周辺の様子を確認して、避難する
2. 市町から「警戒レベル3（高齢者等避難）」、「警戒レベル4（避難指示）」等が出されてから避難する
※親戚・知人宅への避難や、垂直避難を含む
3. 避難行動をとることができない
※避難行動に家族等の支援を必要とする等
4. 避難の必要がない
※行政機関が作成した防災マップの危険区域外に居住している等
5. 避難を考えない
※避難するのが面倒だ、避難について考えたことがない等

→問 10 へ

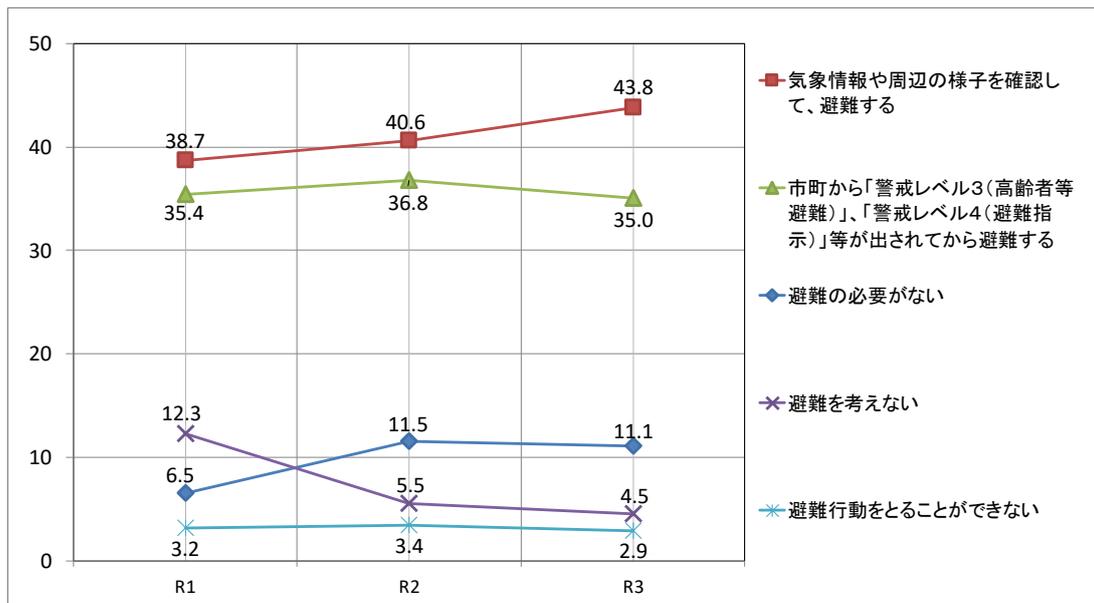
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



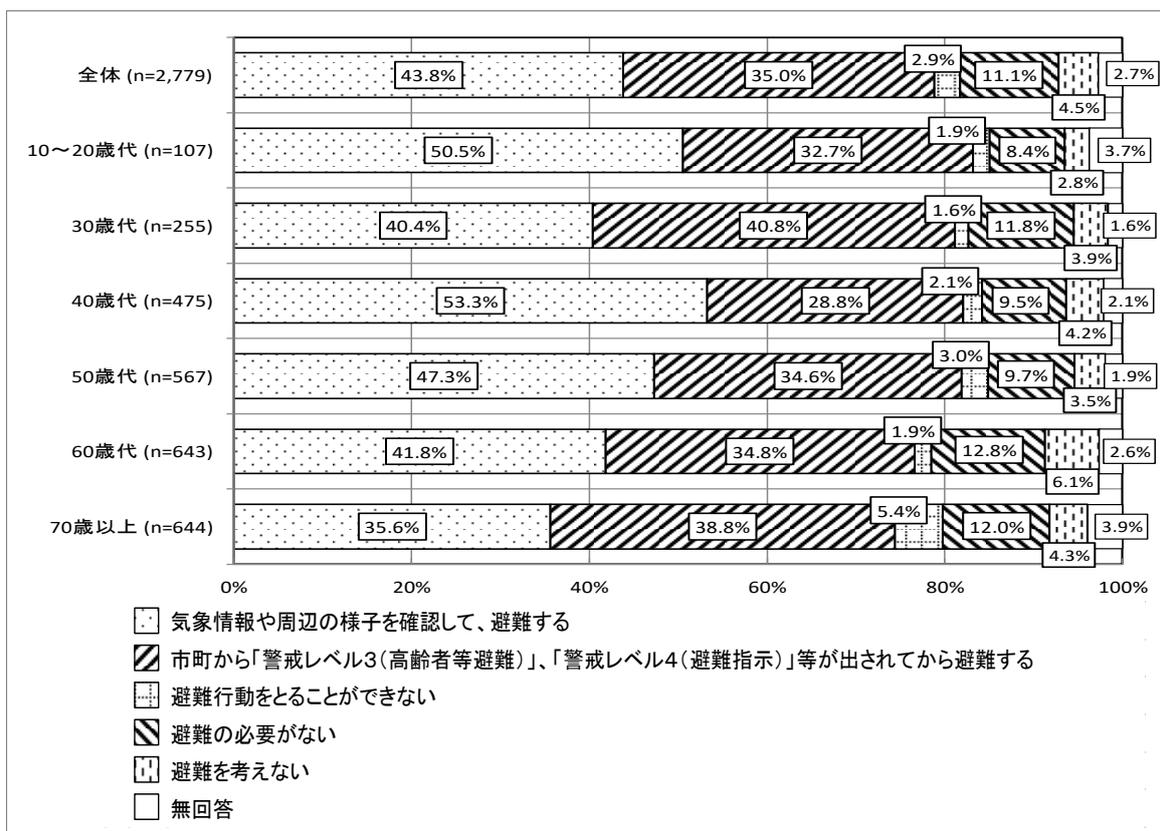
- 局地的な大雨等からの避難について、全県では「気象情報や周辺の様子を確認して、避難する」と答えた方の割合が43.8%と最も高くなっています。次いで、「市町から『警戒レベル3（高齢者等避難）』、『警戒レベル4（避難指示）』等が出されてから避難する」が35.0%となっています。

(2) 直近3年間の経年変化

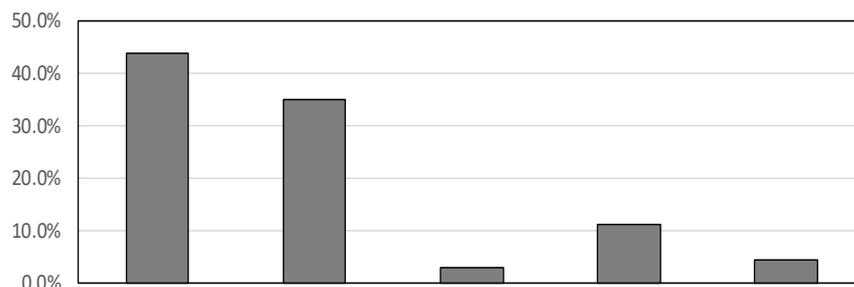


- 局地的大雨等の避難行動として「気象情報や周辺の様子を確認して、避難する」と答えた方の割合は43.8%となり、直近3年間では増加しています。

(3) 「年代別」集計結果



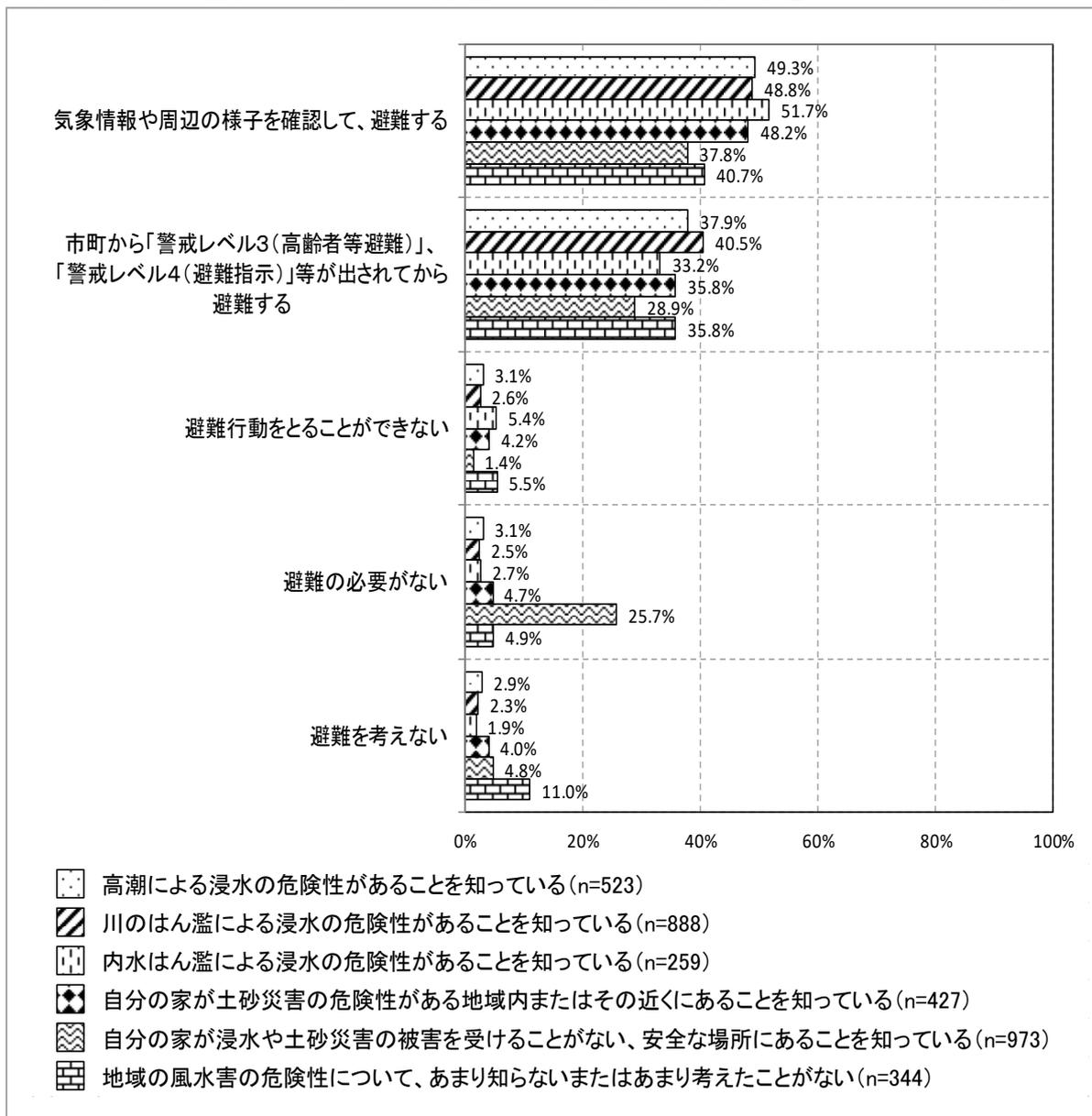
(4)「要配慮者の有無別」集計結果



	全体	気象情報や周辺の様子を確認して、避難する	市町から「警戒レベル3（高齢者等避難）」、「警戒レベル4（避難指示）」等が出されてから避難する	避難行動をとることができない	避難の必要がない	避難を考えない	無回答
全体	n=2,779	43.8%	35.0%	2.9%	11.1%	4.5%	2.7%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=1,660	44.7%	35.1%	1.8%	11.4%	4.7%	2.3%
75歳以上の方がいる	n=677	43.7%	34.3%	3.8%	10.6%	4.6%	3.0%
介護・介助が必要な方がいる	n=238	35.7%	35.3%	14.3%	5.9%	3.8%	5.0%

- 同居家族に「介護・介助が必要な方がいる」場合、「避難行動をとることができない ※避難行動に家族等の支援を必要とする等」と答えた方の割合が 14.3%となっています。

(5) 「問8 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度」とのクロス集計



- 「問8 お住まいの地域の風水害による危険性の認知度」とのクロス集計では、「地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えたことがない」と回答した方であっても、「気象情報や周辺の様子を確認して、避難する」と「市町から『警戒レベル3(高齢者等避難)』、『警戒レベル4(避難指示)』等が出されてから避難する」と回答した方の割合が高い結果となりました。

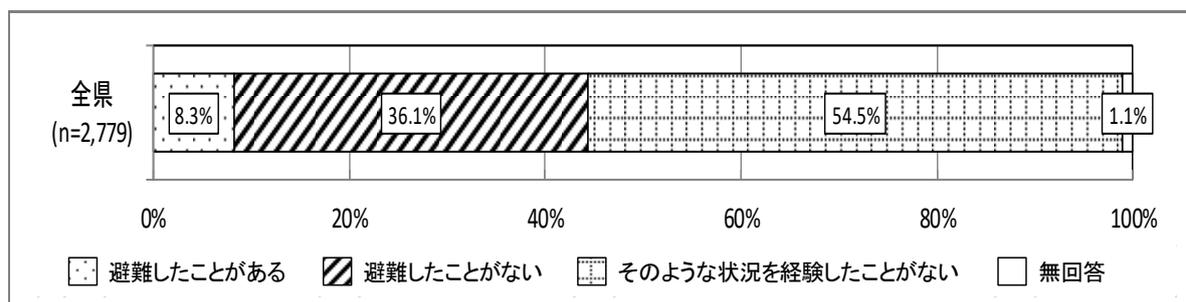
2. 3. 6 台風時等の避難行動

【問 10】 あなたは、台風や大雨等による避難指示等がお住まいの地域に発表される等、身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。（一つだけ〇）

1. 避難したことがある →問 11 へ
2. 避難したことがない →問 10-1 へ
3. そのような状況を経験したことがない →問 11 へ

調査結果

(1) 集計結果



- 避難指示等により「避難したことがある」と答えた方の割合は 8.3%となっています。
- 一方、避難指示等が発表されている状況でも「避難したことがない」と答えた方の割合は 36.1%となっています。

2. 3. 7 台風時等に避難しない理由

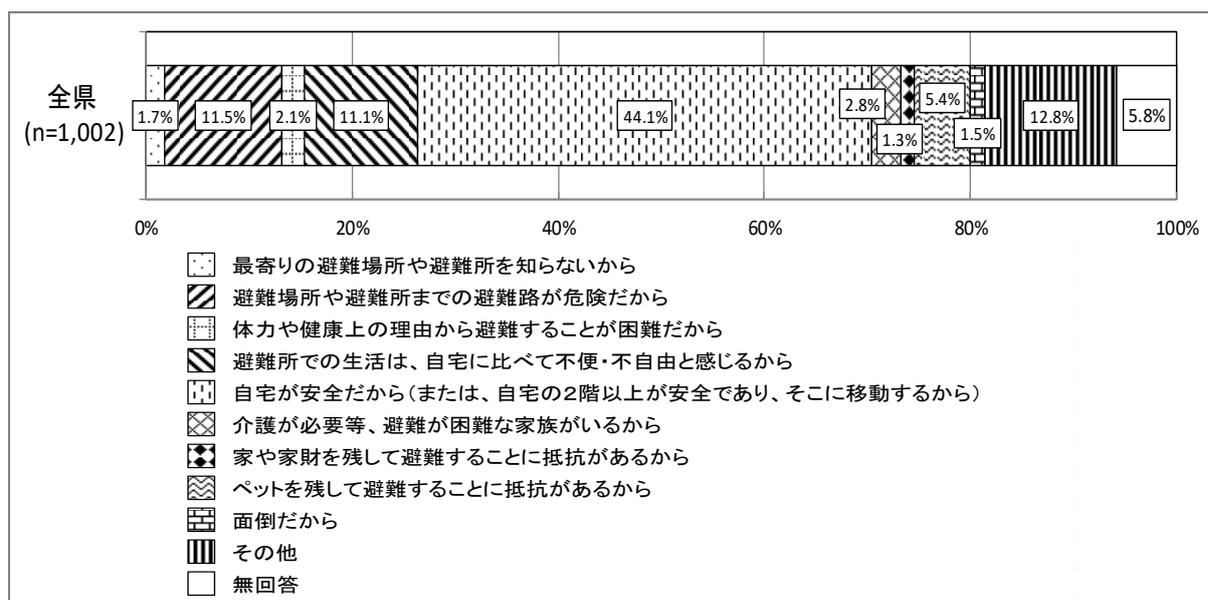
【問 10-1】 問 10 で、「2.避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。（一つだけ〇）

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから
5. 自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
8. ペットを残して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他 具体的に：

→問 11 へ

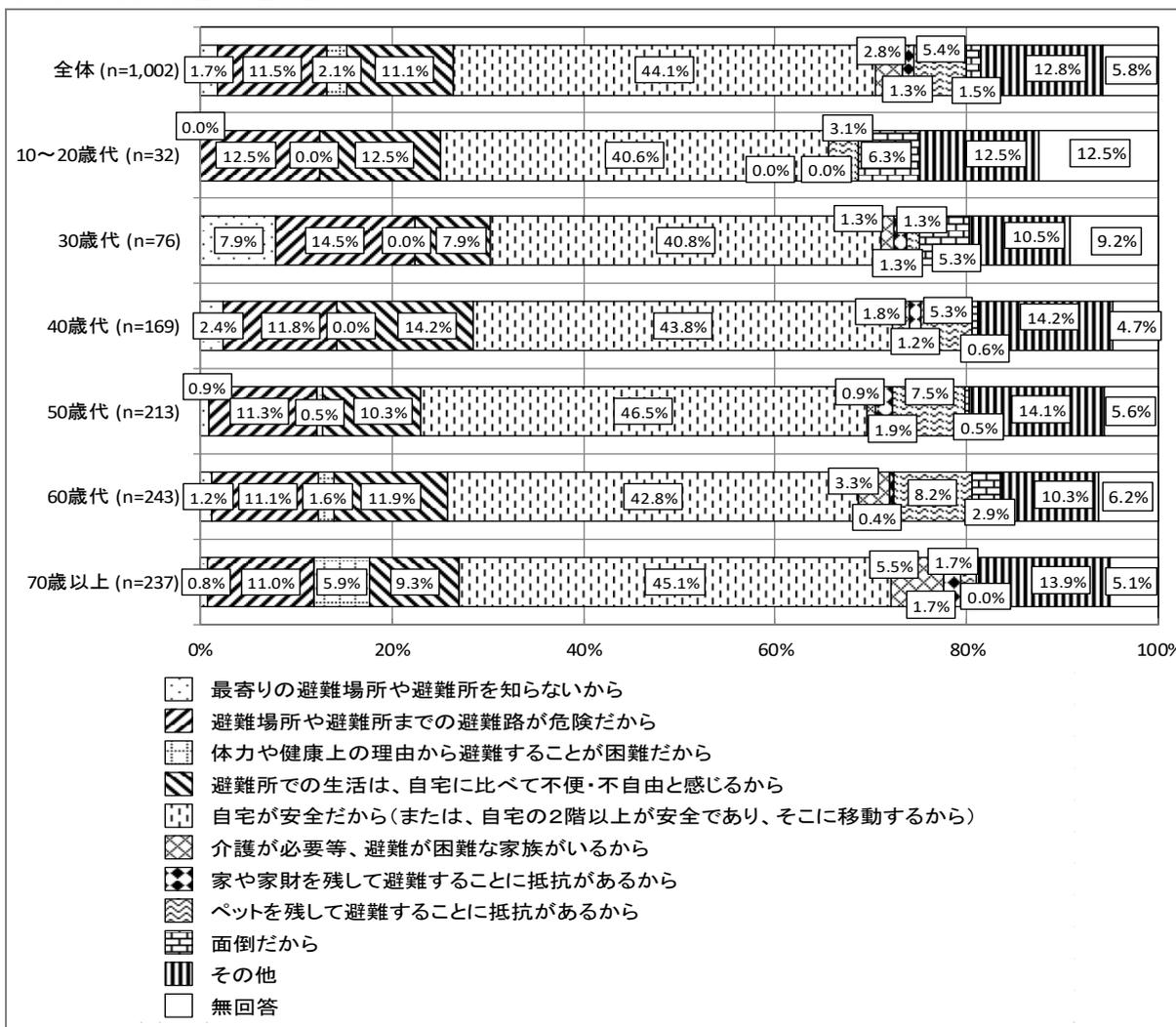
調査結果

(1) 集計結果



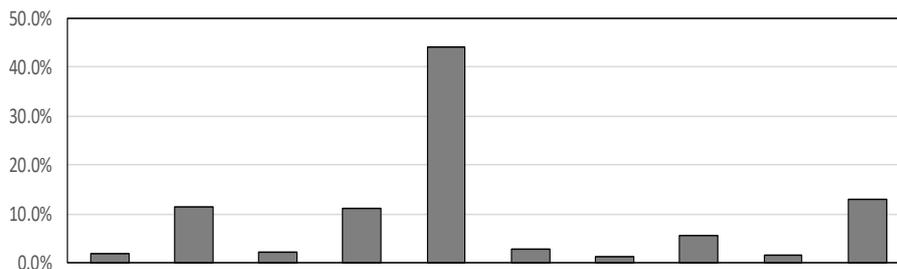
- 避難したことがない理由として、「自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）」と答えた方の割合は 44.1%と最も高くなっています。
- 次に、「避難場所や避難所までの避難路が危険だから」が 11.5%、「避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから」が 11.1%となっています。

(2) 「年代別」集計結果



- 30歳代では、「最寄りの避難場所や避難所を知らないから」と答えた方の割合が、全体の1.7%より6.2ポイント高い7.9%となっています。
- 70歳以上では、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」と答えた方の割合が、全体の2.1%から3.8ポイント高い5.9%となっています。

(3)「要配慮者の有無別」集計結果



	全体	最寄りの避難場所や避難所を知らないから	避難場所や避難所までの避難路が危険だから	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由とを感じるから	自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）	介護が必要等、避難が困難な家族がいるから	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	ペットを残して避難することに抵抗があるから	面倒だから	その他	無回答
全体	n=1,002	1.7%	11.5%	2.1%	11.1%	44.1%	2.8%	1.3%	5.4%	1.5%	12.8%	5.8%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=608	2.6%	12.7%	0.8%	10.9%	44.6%	0.2%	1.5%	6.9%	1.5%	12.5%	5.9%
75歳以上の方がある	n=235	0.4%	10.2%	3.8%	11.1%	46.4%	5.5%	0.9%	2.6%	1.7%	12.3%	5.1%
介護・介助が必要な方がいる	n=88	1.1%	8.0%	9.1%	10.2%	28.4%	25.0%	1.1%	4.5%	1.1%	6.8%	4.5%

- 要配慮者の有無にかかわらず、「自宅が安全だから（または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから）」と回答した方が最も高くなっています。
- 家族に介護・介助が必要な方がいる方で、避難しない理由として「介護が必要等、避難が困難な家族がいるから」と回答した方の割合が全体の2.8%から22.2ポイント高い25.0%となっています。

2. 4 防災全般について

2. 4. 1 家庭での防災対策の状況

【問 11】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。
(いくつでも○)

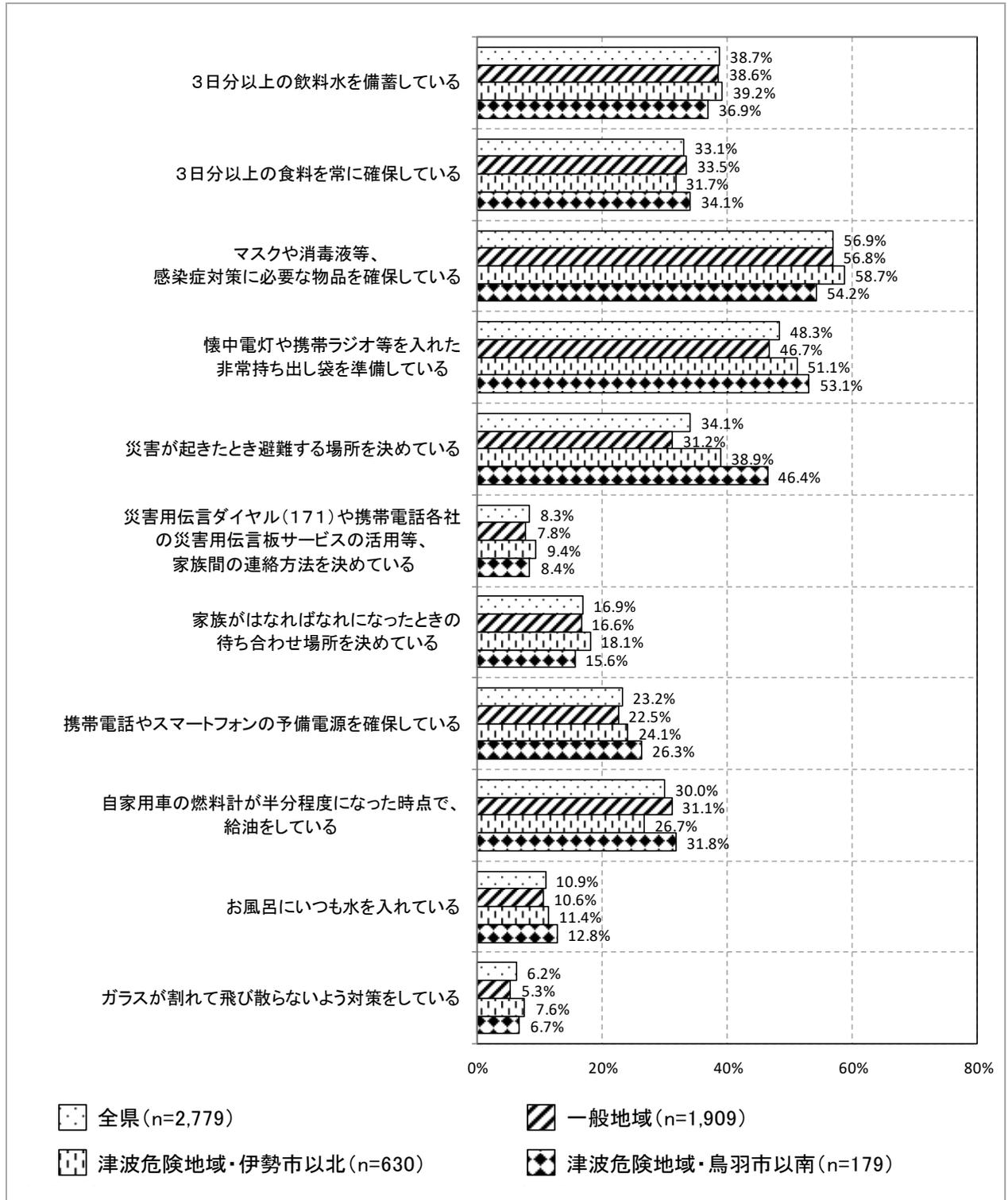
1. 3 日分以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり 3 リットルとして計算してください）
2. 3 日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル（171）や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォンの予備電源を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れている
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いている
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 感震ブレーカーを設置している
20. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
21. その他 具体的に：
22. 特に対策をとっていない

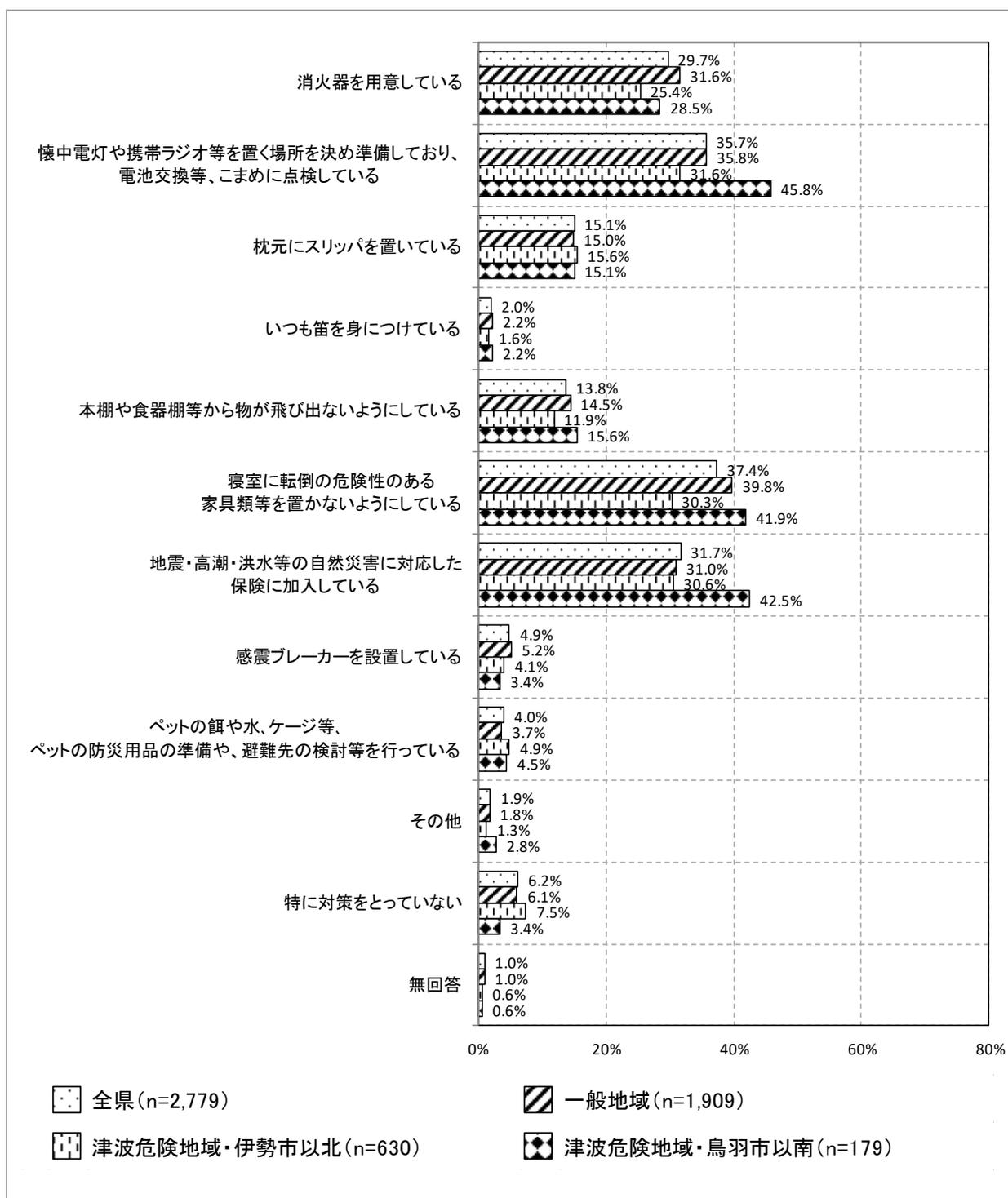
※感震ブレーカー：地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→問 12 へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)





- 家庭での防災対策の状況として、「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」と答えた方の割合が56.9%と最も高くなっています。次いで、「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」が48.3%、「3日分以上の飲料水を備蓄している（ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください）」が38.7%、「寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている」が37.4%となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「災害が起きたとき避難する場所を決めている」46.4%、「地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している」42.5%などの項目が他の地域よりも高い結果となっています。

(2) 直近5年間の経年変化 (複数回答)

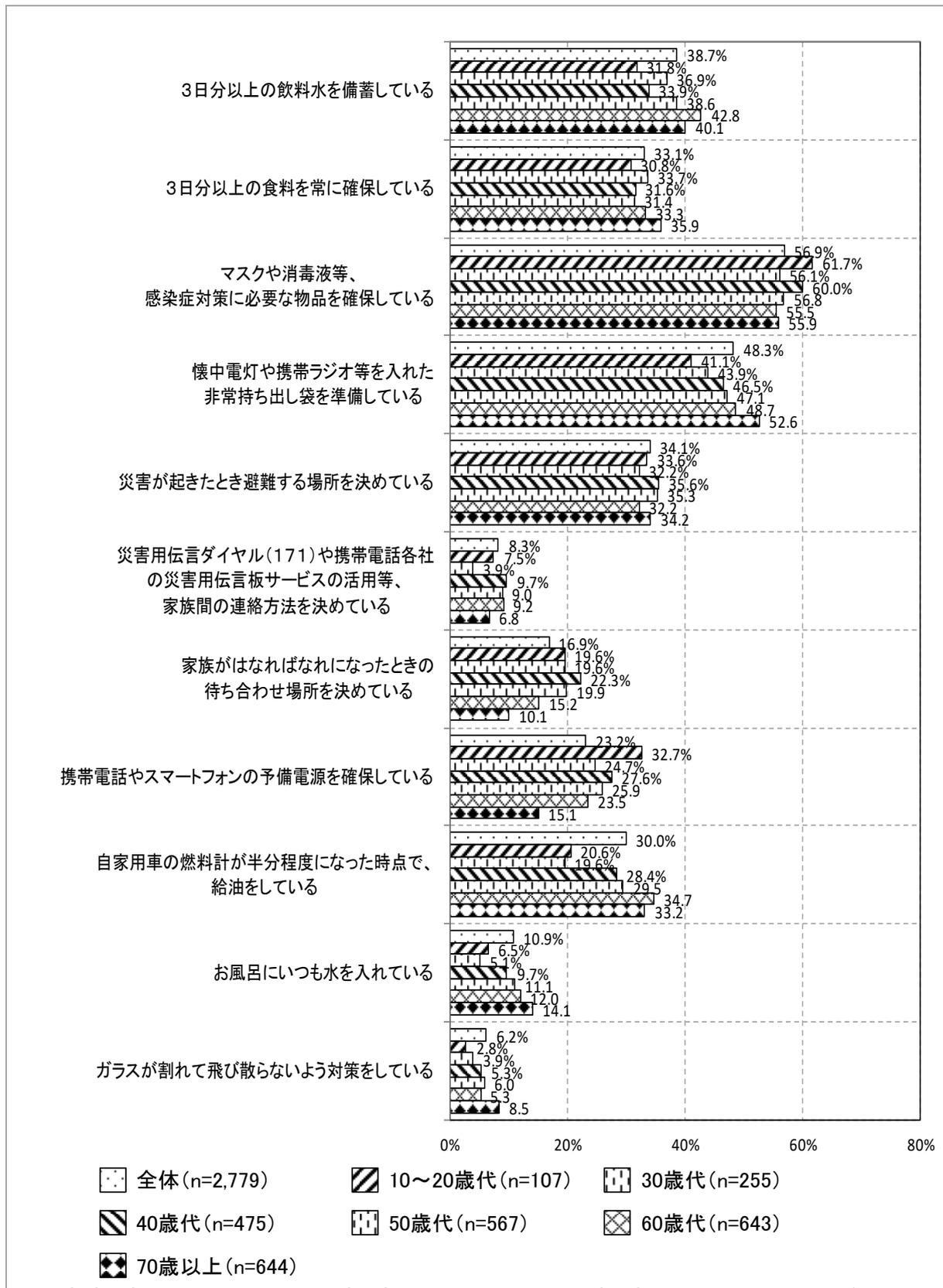
(%)

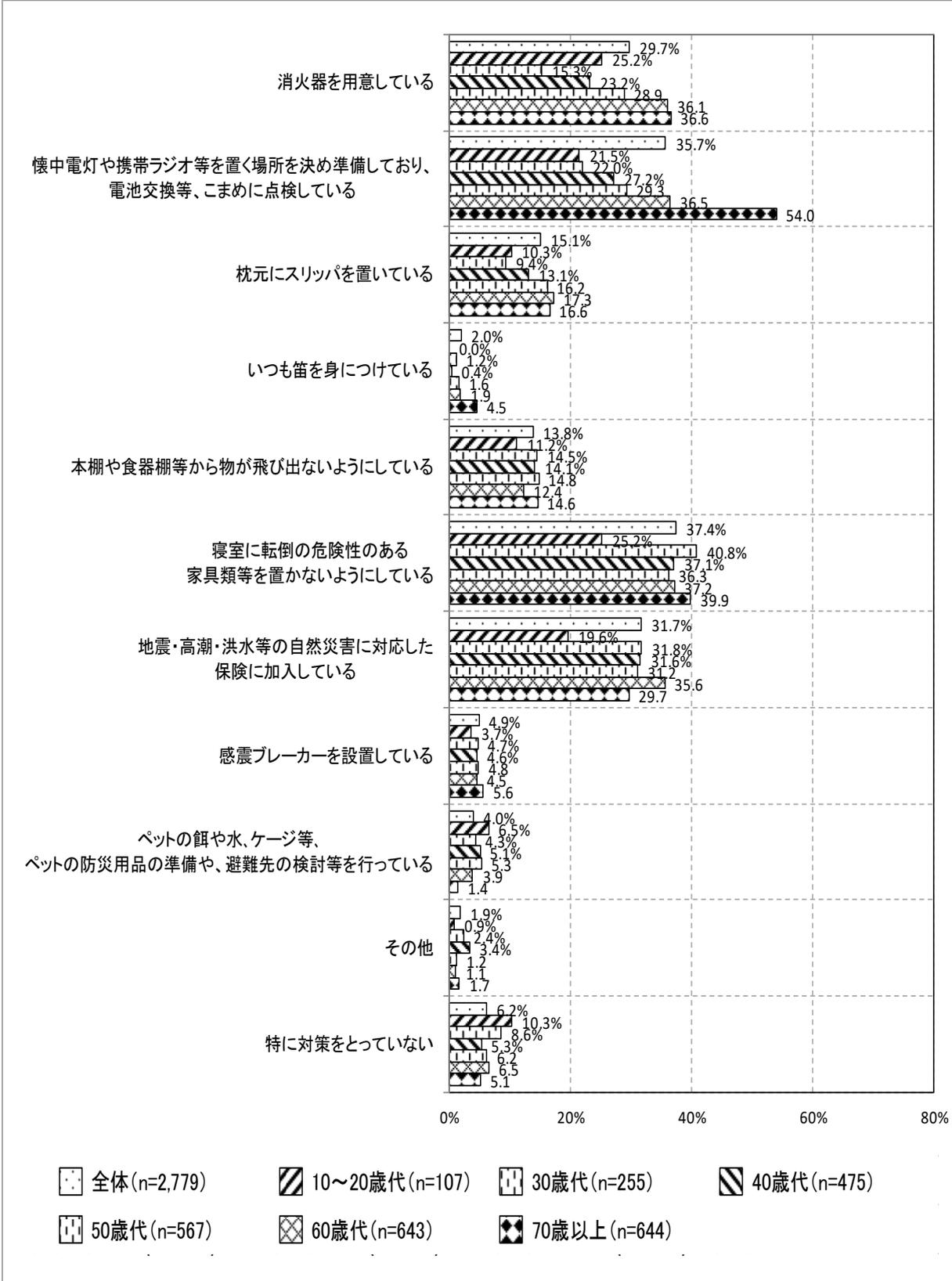
	3日分以上の飲料水を備蓄している	3日分以上の食料を常に確保している	マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している	懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している	災害が起きたとき避難する場所を決めている	災害用伝言ダイヤル(171)や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている	家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている	携帯電話やスマートフォン等の予備電源を確保している	自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている	お風呂にいつも水を入れている	ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
R3	38.7	33.1	56.9	48.3	34.1	8.3	16.9	23.2	30.0	10.9	6.2
R2	41.4	35.2	58.0	51.5	33.3	8.6	15.7	26.4	29.6	11.3	7.1
R1	39.1	28.3	-	50.4	32.8	9.7	16.9	26.4	28.9	13.1	7.1
H30	36.9	26.7	-	50.3	35.1	10.9	18.7	25.1	26.2	12.1	7.7
H29	33.7	26.4	-	47.3	36.6	10.5	18.7	15.3	24.0	11.4	5.3

	消火器を用意している	懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している	枕元にスリッパを置いている	いつも笛を身につけている	本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている	寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている	地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している	感震ブレーカーを設置している	ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている	その他	特に対策をとっていない
R3	29.7	35.7	15.1	2.0	13.8	37.4	31.7	4.9	4.0	1.9	6.2
R2	28.9	38.5	12.7	2.0	13.6	36.7	31.2	4.3	4.1	2.3	6.0
R1	29.5	40.4	14.2	2.0	13.3	34.9	31.0	4.1	3.6	2.1	6.4
H30	31.7	46.0	13.9	2.2	13.2	37.9	31.4	3.9	3.5	2.4	8.8
H29	33.4	36.2	13.3	3.0	14.2	35.9	27.9	3.6	2.5	2.5	11.8

- 家庭での防災対策として、「マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している」「懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している」「3日分以上の飲料水を備蓄している」「寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている」と答えた方の割合は、直近3年間では、取り組んでいる方が多い項目に変化はありません。

(3) 「年代別」集計結果





2. 4. 2 家具固定の状況

【問 12】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ○)

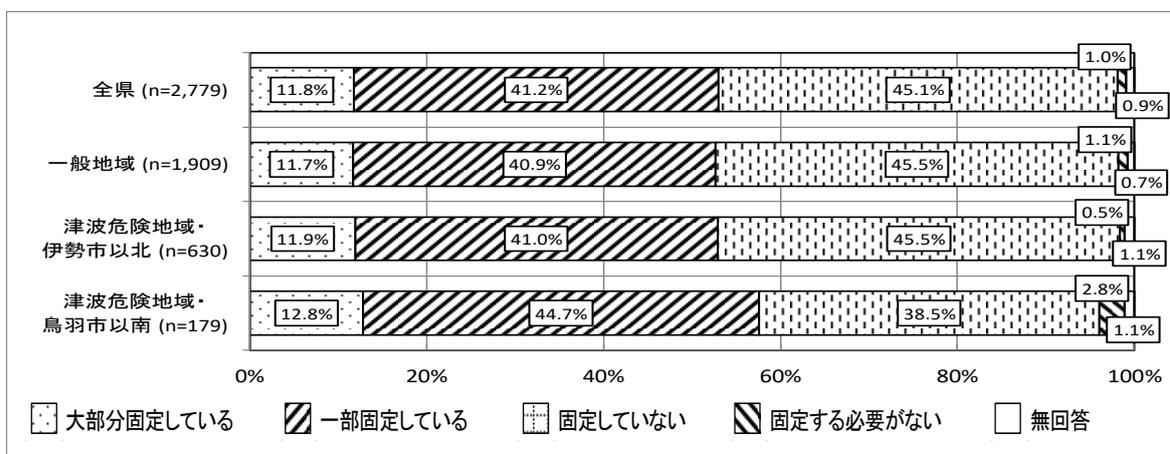
1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問13へ

→問12-1へ

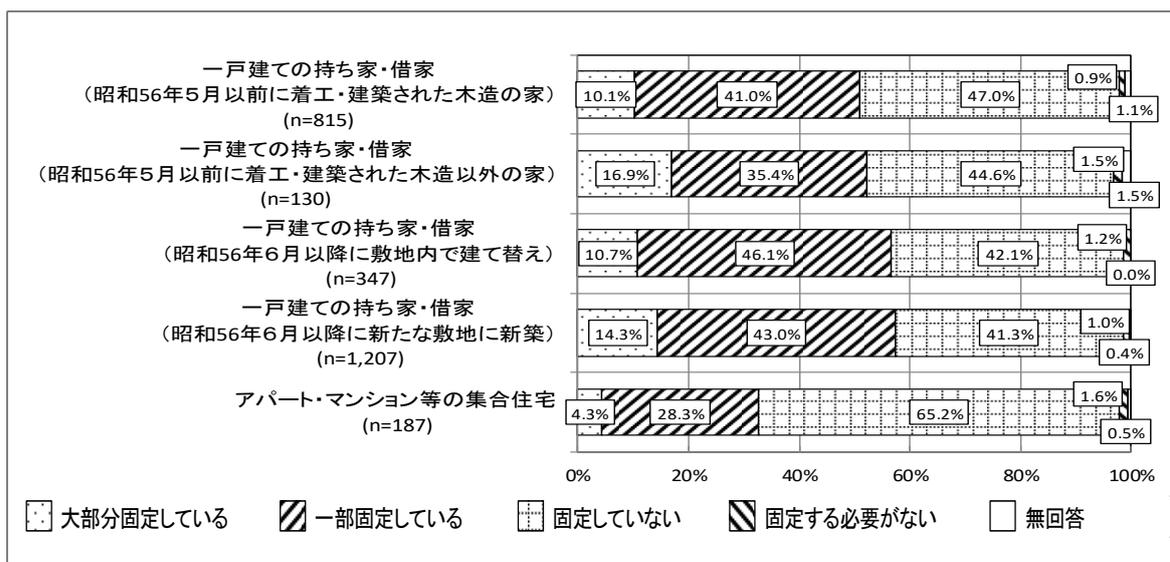
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- ・「大部分固定している」と答えた方の割合は、11.8%と2割未満にとどまった一方、「固定していない」と答えた方の割合は45.1%と多くの方が家具固定をしていない状況となっています。

(2) 「問 30 住まいの状況」とのクロス集計



- ・「問 30 住まいの状況」とのクロス集計では、「アパート・マンション等の集合住宅」では「固定していない」と答えた方の割合が、全体の47.0%より18.2ポイント高い65.2%となっています。

2. 4. 3 家屋からの脱出

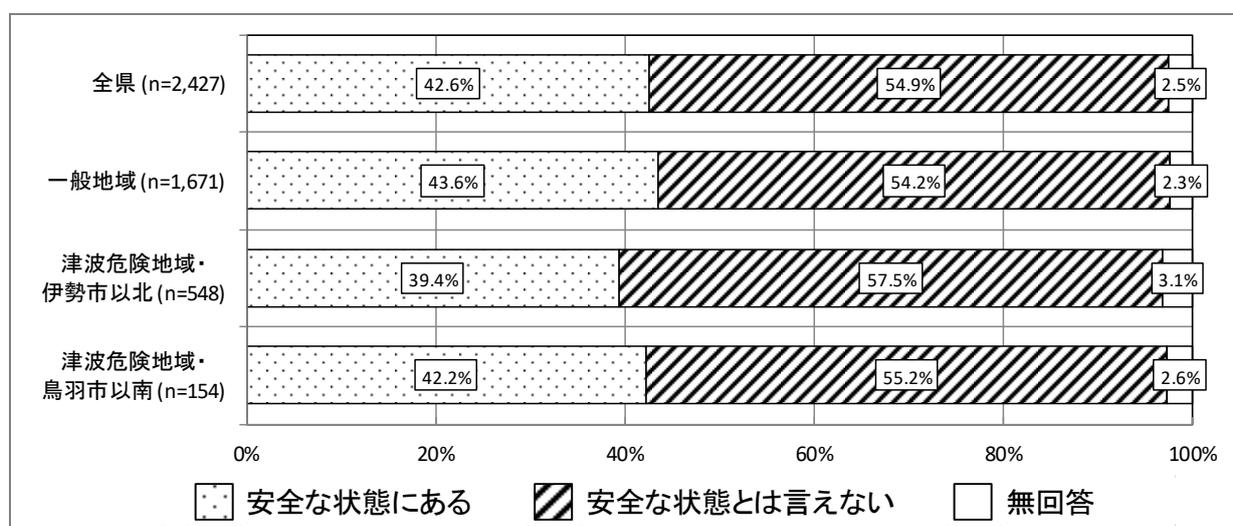
【問 12-1】 問 12 で、「2.一部固定している」、「3.固定していない」、「4.固定する必要がない」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家屋から脱出できなくなることはない等、安全な状態にありますか。

(一つだけ〇)

- | | |
|----------------|---------|
| 1. 安全な状態にある | →問13へ |
| 2. 安全な状態とは言えない | →問12-2へ |

調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- 全県で「安全な状態にある」と答えた方の割合が 42.6%に対し、「安全な状態とは言えない」が 54.9%となっています。

2. 4. 4 家具固定をしない理由

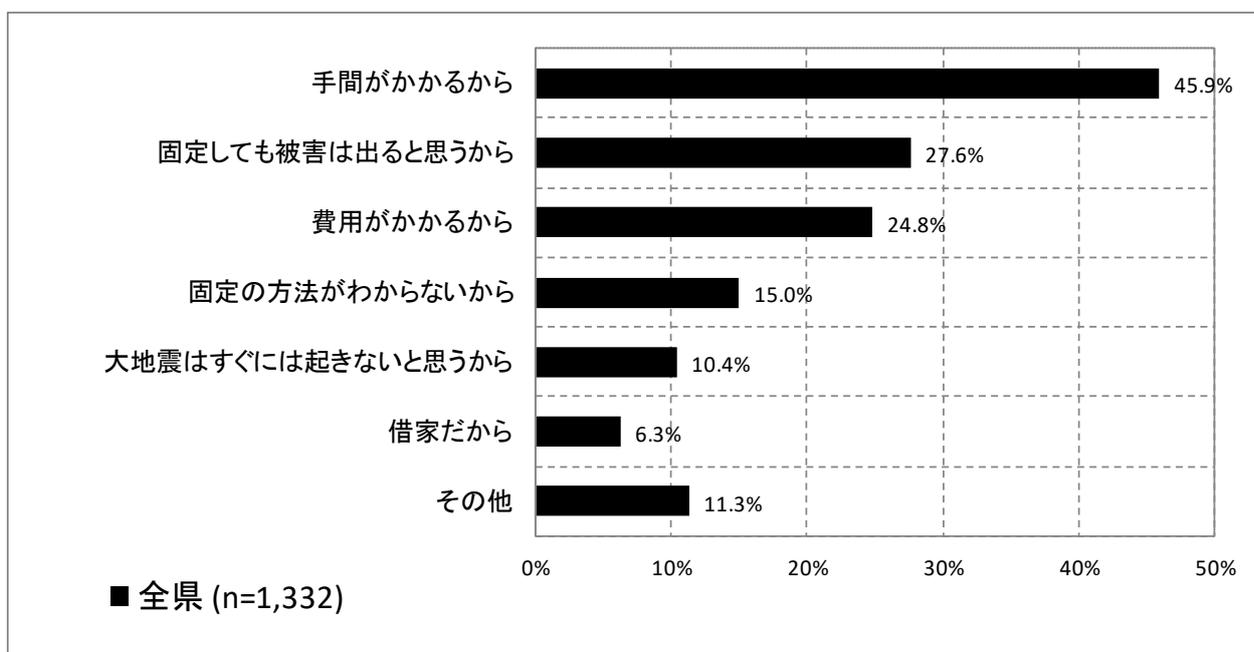
【問 12-2】 問 12-1 で、「2.安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他 具体的に：

→問13へ

調査結果

(1) 集計結果 (複数回答)



- 家具固定をしない理由として、「手間がかかるから」と答えた方の割合が最も高く45.9%となり、次いで「固定しても被害は出ると思うから」が27.6%、「費用がかかるから」が24.8%となっています。

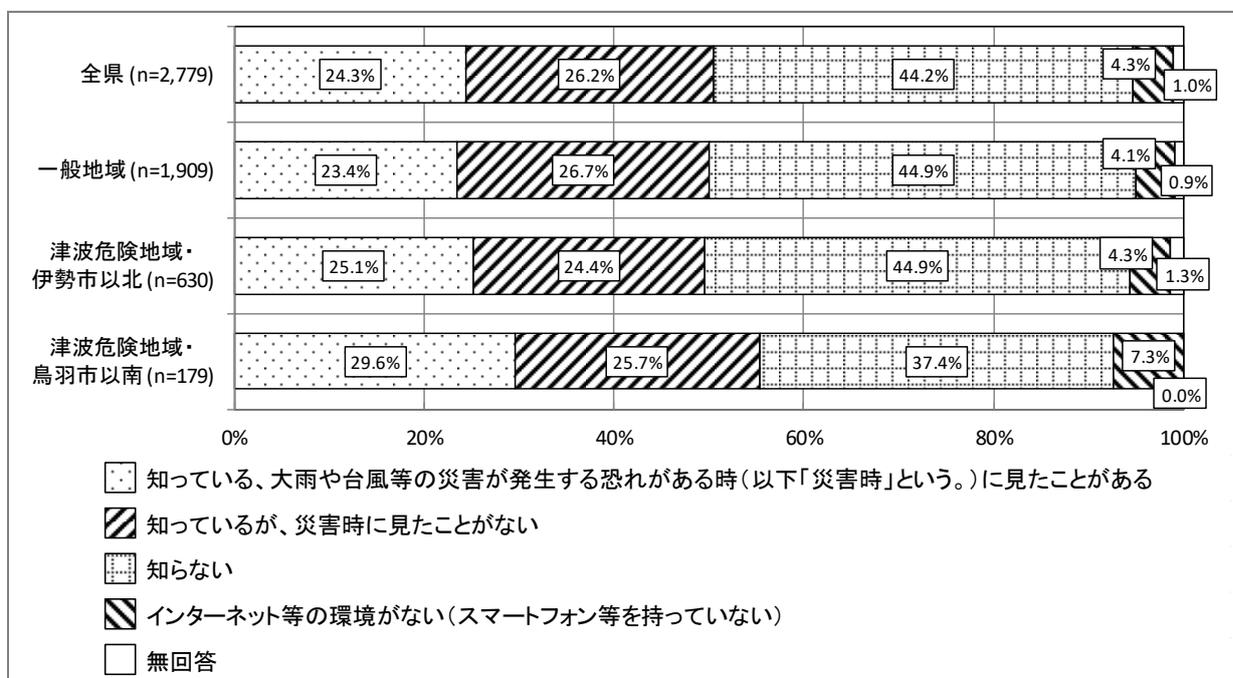
2. 4. 5 防災みえ.jpの認知度

【問 13】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。（一つだけ〇）

- | | |
|--|-----------|
| 1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある | →問 14 へ |
| 2. 知っているが、災害時に見たことがない | →問 14-1 へ |
| 3. 知らない | →問 15 へ |
| 4. インターネット等の環境がない（スマートフォン等を持っていない） | →問 17 へ |

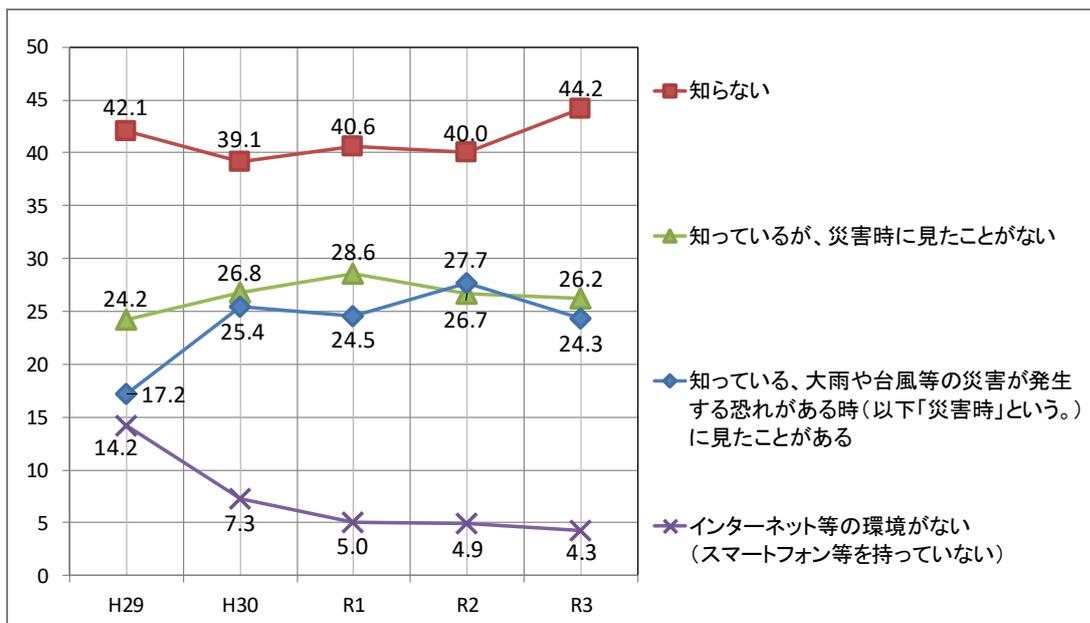
調査結果

（1）「地域別」集計結果



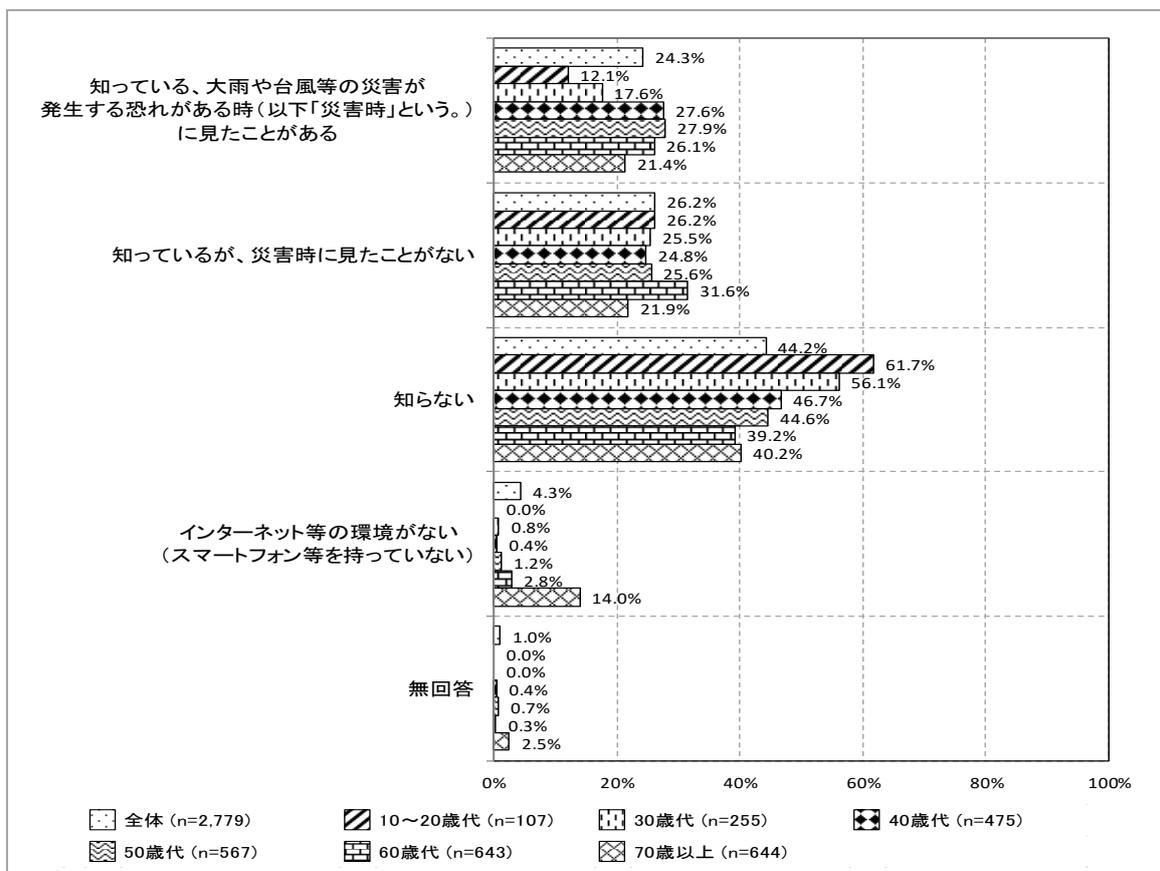
- 全県では、「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある」と答えた方の割合は24.3%となっています。一方、「知らない」と答えた方の割合が44.2%となっています。
- 地域別にみると、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある」と答えた方の割合が、全体の24.3%より5.3ポイント高い29.6%となり、他の地域よりも高い結果となっています。

(2) 直近5年間の経年変化



- 「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある」と答えた方の割合は24.3%となり、前年度より減少しています。

(3) 「年代別」集計結果



- 年代別では、10~20歳代の「知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時（以下「災害時」という。）に見たことがある」と答えた方の割合は、全体の24.3%より12.2ポイント低い12.1%となっています。

2. 4. 6 防災みえ.jpで見ている情報

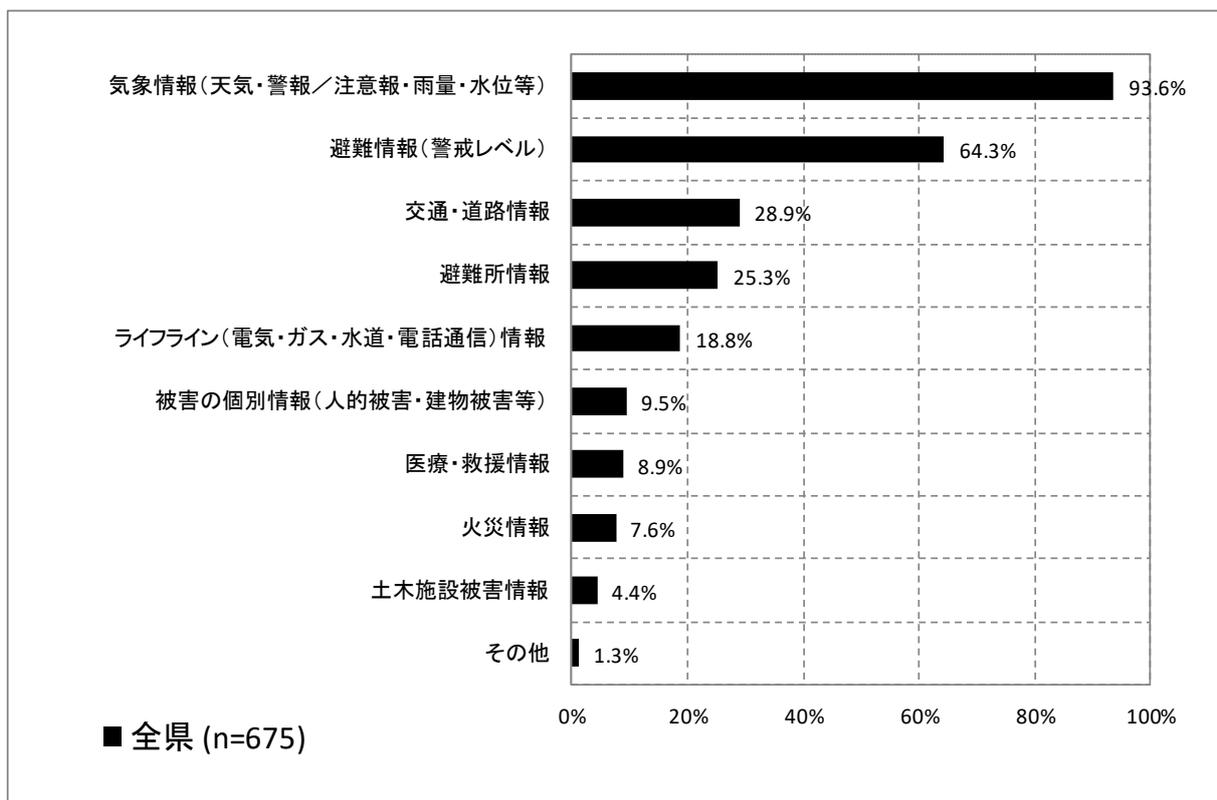
【問 14】 問 13 で、「1. 知っている、災害時に見たことがある」と回答された方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見えていますか。（いくつでも〇）

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（警戒レベル）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害の個別情報（人的被害・建物被害等）
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他 具体的に：

→問15へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果（複数回答）



- ・「気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）」と答えた方の割合が最も高く、93.6%となっています。
- ・次いで、「避難情報（警戒レベル）」64.3%、「交通・道路情報」28.9%、「避難所情報」25.3%となっています。

2. 4. 7 防災みえ.jpを活用しない理由

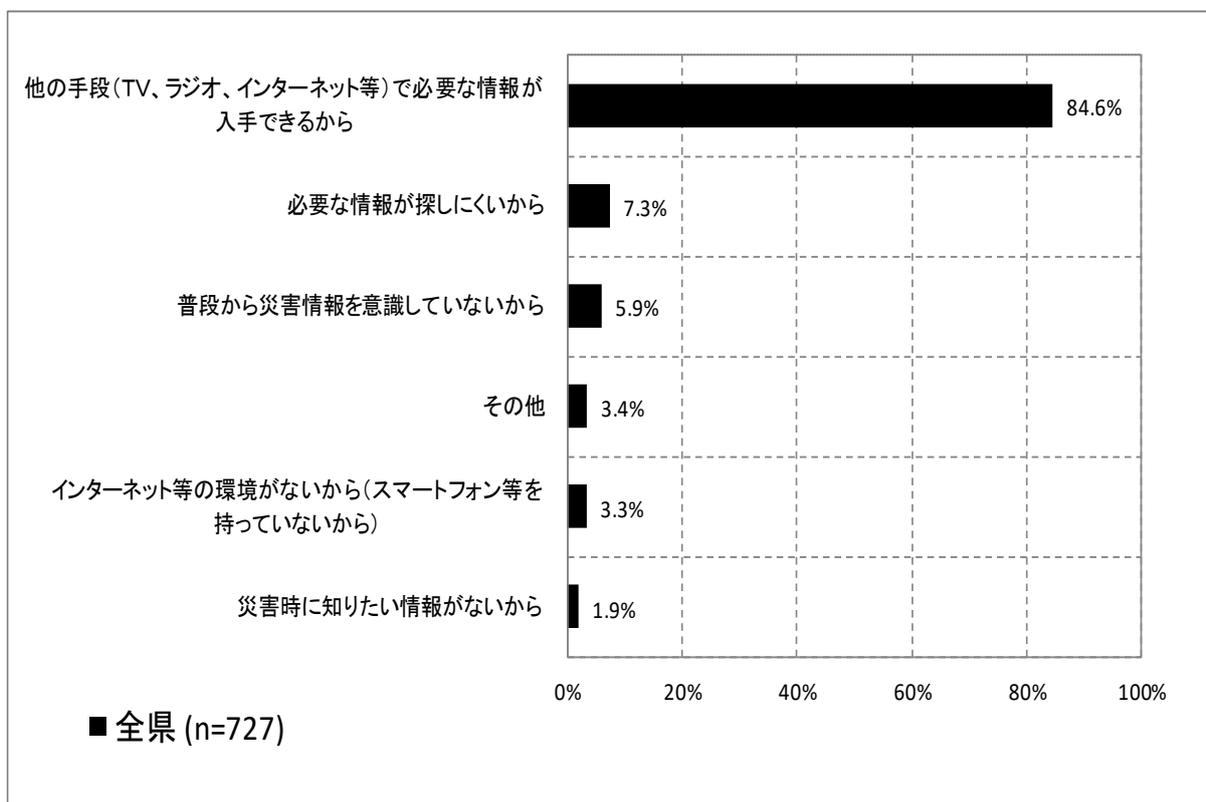
【問 14-1】 問 13 で、「2.知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。（いくつでも〇）

1. 他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できるから
2. 災害時に知りたい情報がないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. インターネット等の環境がないから（スマートフォン等を持っていないから）
5. 普段から災害情報を意識していないから
6. その他 具体的に：

→問15へ

調査結果

(1) 集計結果（複数回答）



- ・「他の手段（TV、ラジオ、インターネット等）で必要な情報が入手できるから」と答えた方の割合が84.6%と最も高く、他の理由についてはすべて1割未満となっています。

2. 4. 8 災害時にインターネットで知りたい情報

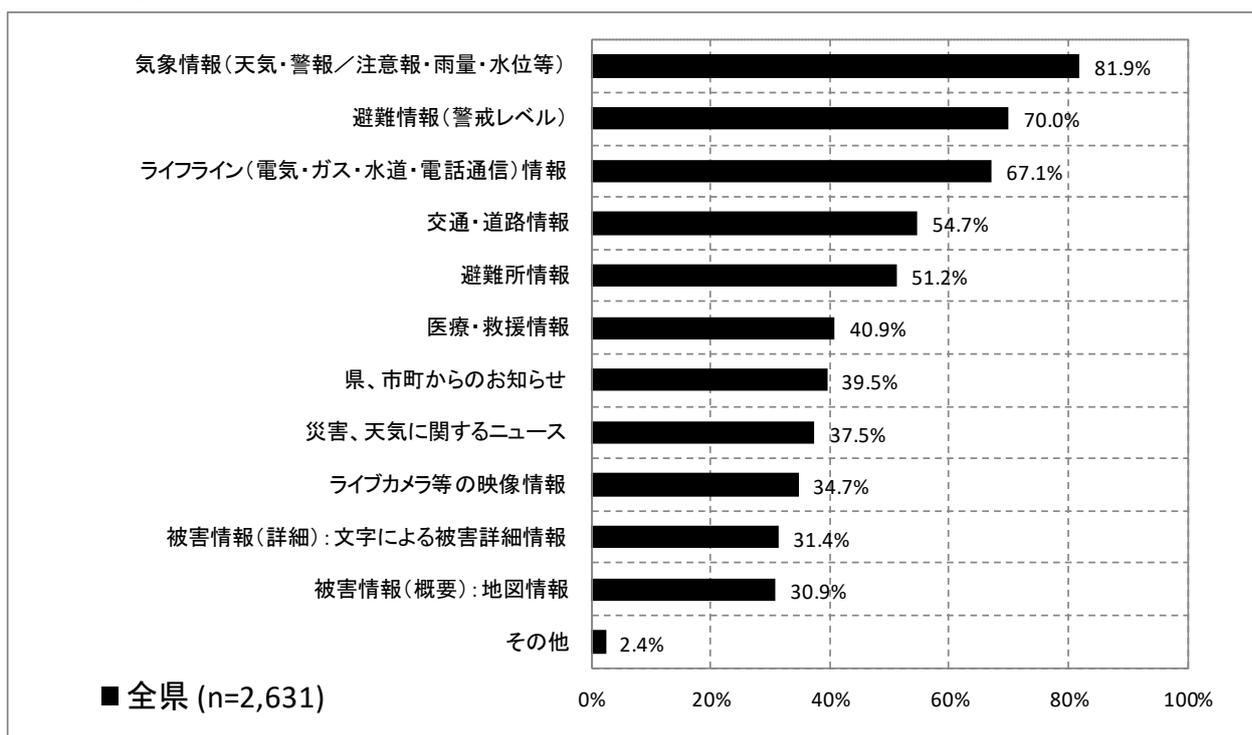
【問 15】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいか
お答えください。(いくつでも○)

1. 気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）
2. 避難情報（警戒レベル）
3. 避難所情報
4. 医療・救援情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報
7. 被害情報（詳細）：文字による被害詳細情報
8. 被害情報（概要）：地図情報
9. ライブカメラ等の映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町からのお知らせ
12. その他 具体的に：

→問16へ

調査結果

(1) 集計結果（複数回答）



- ・「気象情報（天気・警報/注意報・雨量・水位等）」と答えた方の割合が81.9%と最も高く、次いで「避難情報（警戒レベル）」70.0%、「ライフライン（電気・ガス・水道・電話通信）情報」67.1%となっています。

2. 4. 9 防災みえメール配信サービスの認知度

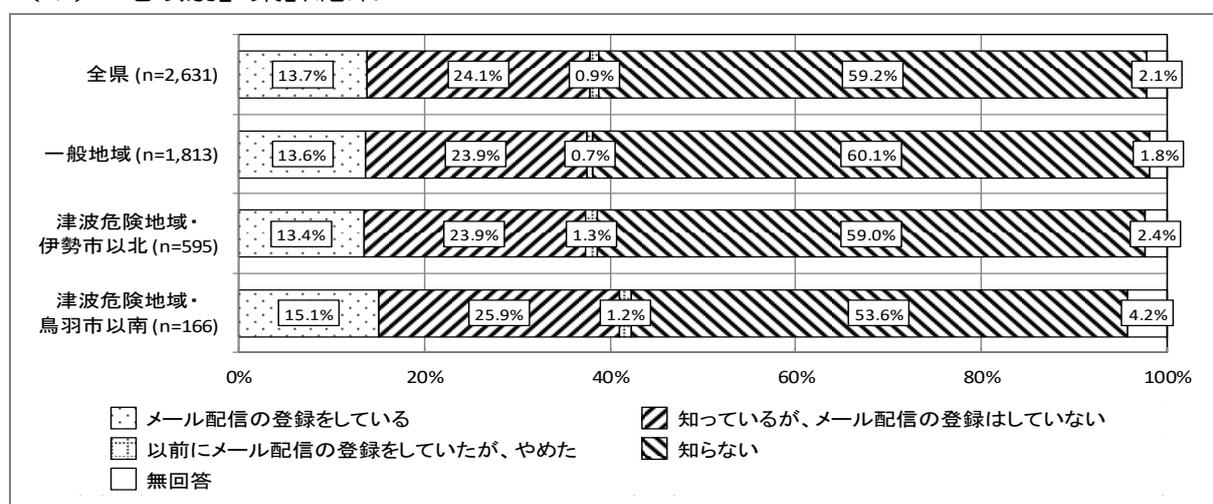
【問 16】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。（一つだけ〇）

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. 知らない

→問16-1へ

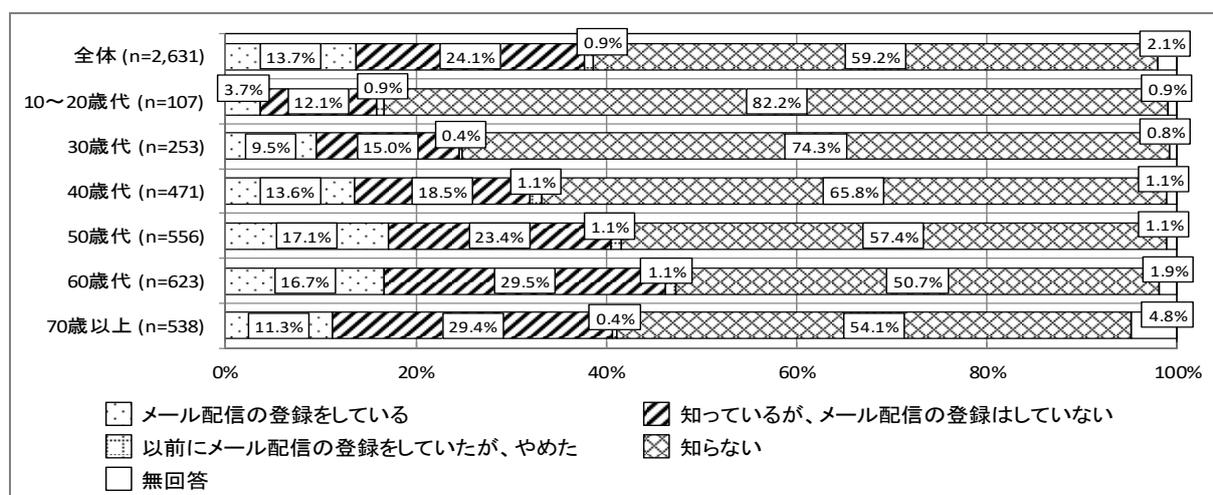
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



・「メール配信の登録をしている」と答えた方の割合は、全県で13.7%となり、地域別で大きな違いはみられませんでした。

(2) 「年代別」集計結果



・「知らない」と答えた方の割合は、10～20歳代が最も高く、全体の59.2%より23.0ポイント高い82.2%となっています。

2. 4. 10 県公式「防災みえ」Twitter や LINE の認知度

【問 16-1】 県では、台風の接近に伴う注意喚起等を Twitter (ツイッター) や LINE (ライン) で発信しています。あなたは、このことをご存知ですか。(いくつでも○)

1. ツイッターのフォロワーになっている
2. ツイッターでの発信について知っているが、フォロワーになっていない
3. 以前にツイッターのフォロワーになっていたが、やめた
4. ツイッターでの発信について知らない
5. ラインの友だち登録をしている
6. ラインでの発信について知っているが、友だちの登録をしていない
7. 以前にラインの友だち登録をしていたが、やめた
8. ラインでの発信について知らない

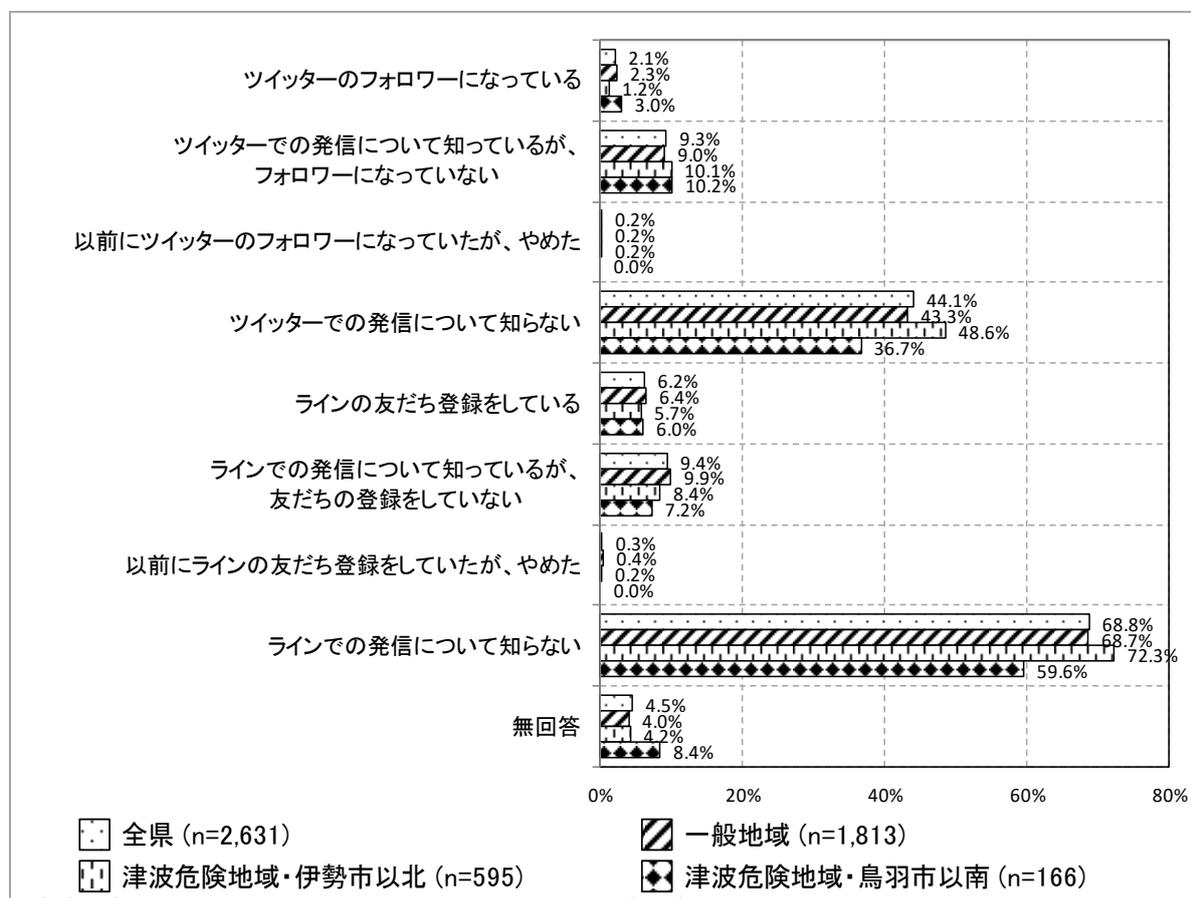
→問17へ

※Twitter (ツイッター)：1 回 1 4 0 字までの文章を、他の人が読んだり、返信をしたりするインターネット上のサービス。また、特定の利用者の更新状況を手軽に把握できるようにした人がフォロワーとよばれます。

※LINE (ライン)：インターネット上でメッセージの交換や通話をおこなうことができるサービス。ラインで発信する情報を見るには、友だち登録が必要になります。

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



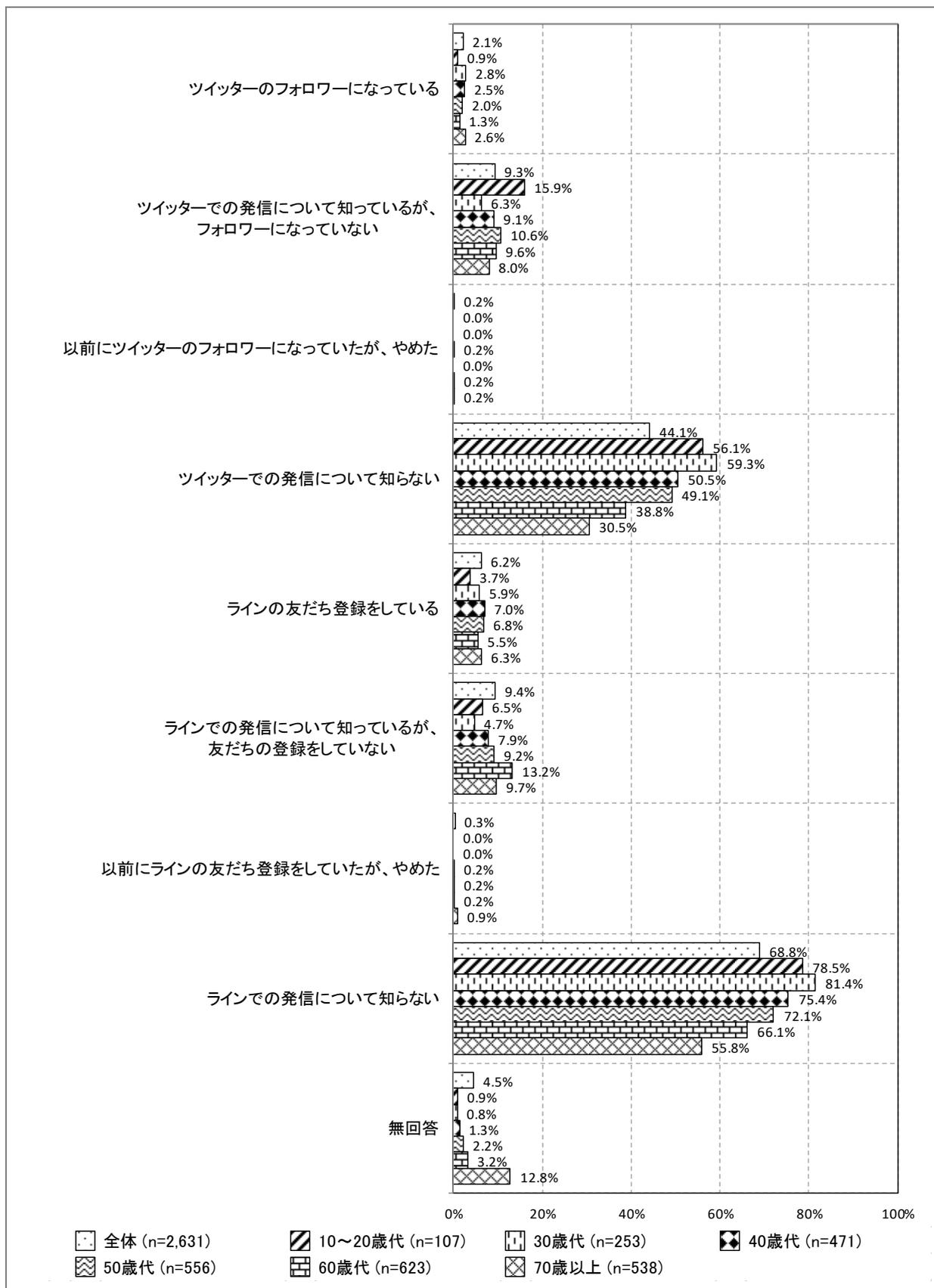
<Twitter（ツイッター）>

- 「ツイッターのフォロワーになっている」と答えた方の割合は、全県で 2.1%となり、いずれの地域でも 3%以下となっています。
- 「ツイッターでの発信について知らない」と答えた方の割合は、全県で 44.1%となり、地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）が全県より 7.4 ポイント低い結果となっています。

<LINE（ライン）>

- 「ラインの友だち登録をしている」と答えた方の割合は、全県で 6.2%となり、いずれの地域でも 10%以下となっています。
- 「ラインでの発信について知らない」と答えた方の割合は、全県で 68.8%となり、地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）が全県より 9.2 ポイント低い結果となっています。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 年代別では、Twitter (ツイッター)、LINE (ライン) の両方とも、「知らない」と答えた方の割合は 30 歳代が最も高く、次いで 10~20 歳代が多い結果となっています。

2. 4. 11 気象や災害情報の入手先

【問17】 気象や災害についての情報の入手先についてお尋ねします。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 市町の防災行政無線
5. 県や市町の広報誌、冊子
6. インターネット（県の防災ホームページ「防災みえ.jp」）
7. インターネット（「防災みえ.jp」以外）
8. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」）
9. 携帯メール（「防災みえメール配信サービス」以外）
10. 県公式 SNS（「防災みえ Twitter/LINE」）
11. SNS（Twitter/LINE/Facebook 等）（「防災みえ Twitter/LINE」以外）
12. 防災アプリ（Yahoo!防災速報、NHK ニュース防災 等）
13. 街頭の電光掲示板
14. 家族から
15. 友人、知人から
16. 町内会・自治会を通じて
17. 消防署・消防団を通じて
18. その他（現在、入手している方法）（今後、入手したい方法）
19. （現在）どこからも入手していない（今後）特に入手したいと思わない

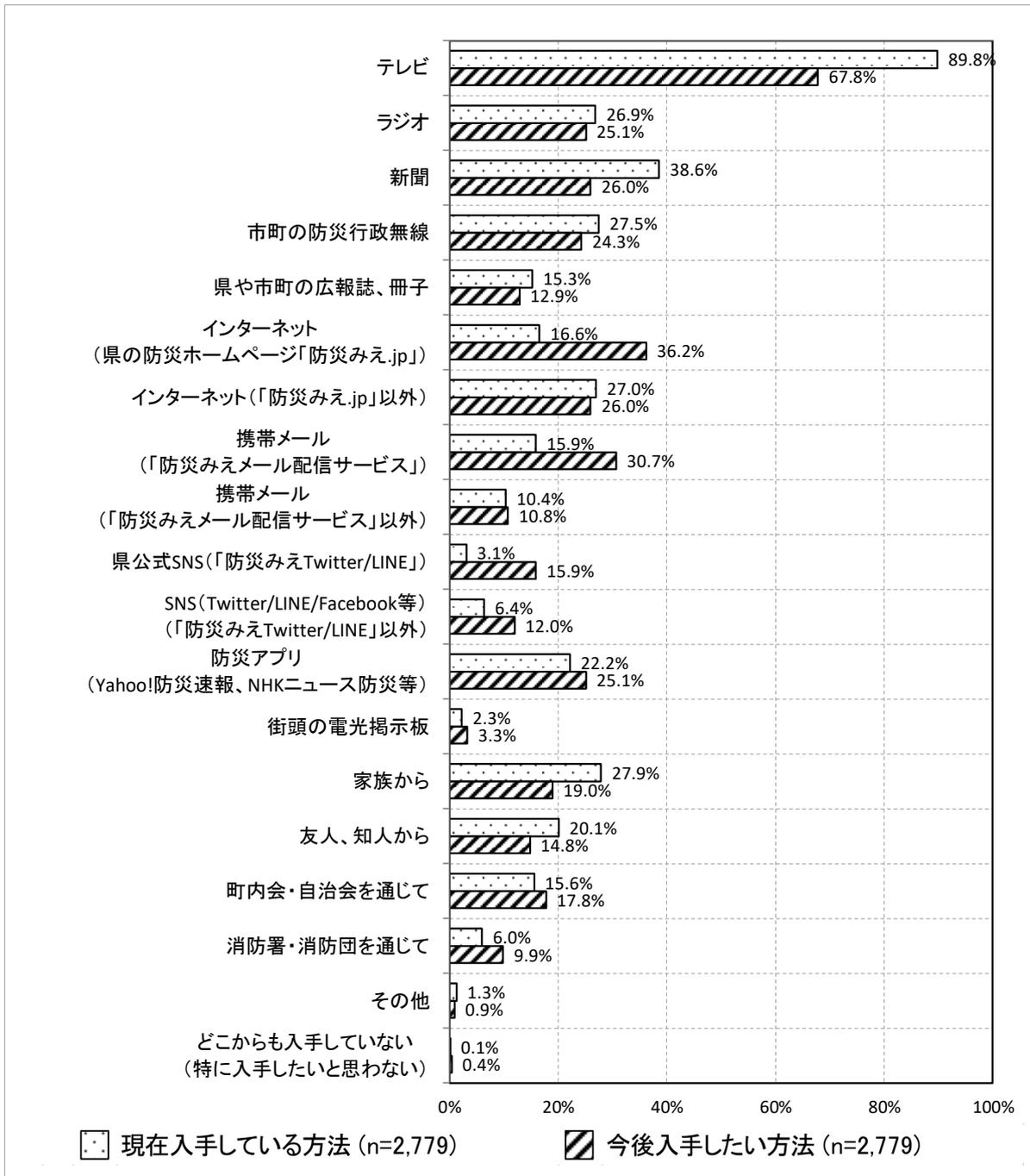
【問17-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。

【問17-2】 今後どこから入手したいかお答えください。

→問18へ

調査結果

(1) 現在と今後の入手先の比較（複数回答）



- 気象や災害情報について、「現在どこから入手することが多いか」については、「テレビ」と答えた方の割合が89.8%と最も高くなり、次いで「新聞」が38.6%、「家族から」が27.9%、「市町の防災行政無線」が27.5%となっています。
- 気象や災害情報について、「今後どこから入手したいか」については、「テレビ」と答えた方の割合が67.8%と最も高くなり、次いで「インターネット（県の防災ホームページ『防災みえ.jp』）」が36.2%、「携帯メール（『防災みえメール配信サービス』）」が30.7%となっています。

(2) 直近5年間の経年変化

【問 17-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。

(%)

	テレビ	ラジオ	新聞	市町の防 災行政無 線	県や市町 の広報 誌、冊子	インター ネット (県の防 災ホーム ページ 「防災み え.jp」)	インター ネット (「防災 みえ.jp」 以外)	携帯メー ル(「防 災みえ メール配 信サービ ス」)	携帯メー ル(「防 災みえ メール配 信サービ ス」以 外)	県公式 SNS (「防災 みえ Twitter/ LINE」)
R3	89.8	26.9	38.6	27.5	15.3	16.6	27.0	15.9	10.4	3.1
R2	91.5	26.0	37.8	28.5	13.4	16.1	30.1	18.1	12.8	3.2
R1	92.5	26.6	38.3	28.3	12.7	14.8	26.9	20.4	15.3	1.9
H30	94.3	32.4	42.8	33.2	14.0	13.8	28.3	23.8	17.3	1.6
H29	95.7	30.2	46.5	30.3	13.7	12.2	25.8	20.6	17.6	0.8

	SNS (Twitt er/LINE /Faceb ook等) (「防災 みえ Twitter/ LINE」 以外)	防災アプ リ (Yaho o防災速 報、 NHK ニュース 防災等)	街頭の電 光掲示板	家族から	友人、知 人から	町内会・ 自治会を 通じて	消防署・ 消防団を 通じて	その他	どこから も入手し ていない
R3	6.4	22.2	2.3	27.9	20.1	15.6	6.0	1.3	0.1
R2	7.1	23.0	1.8	29.6	21.1	12.7	5.6	1.5	0.3
R1	4.9	21.4	1.2	25.3	17.4	13.2	5.9	3.0	0.0
H30	5.0	-	1.6	25.4	17.9	14.5	5.6	4.5	1.5
H29	3.8	-	1.8	25.9	16.8	17.4	7.3	3.3	1.1

【問 17-2】 今後どこから入手したいかお答えください。

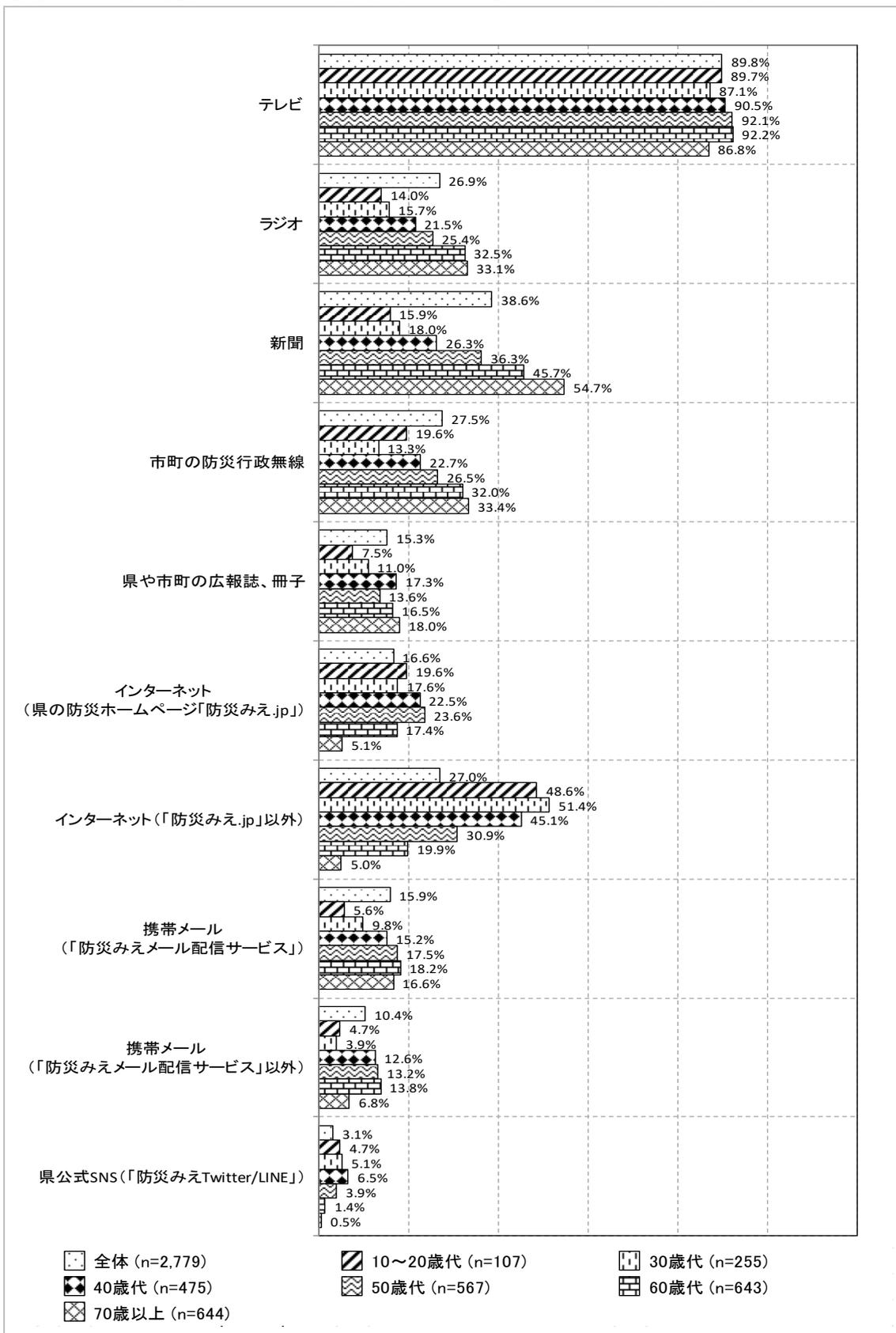
(%)

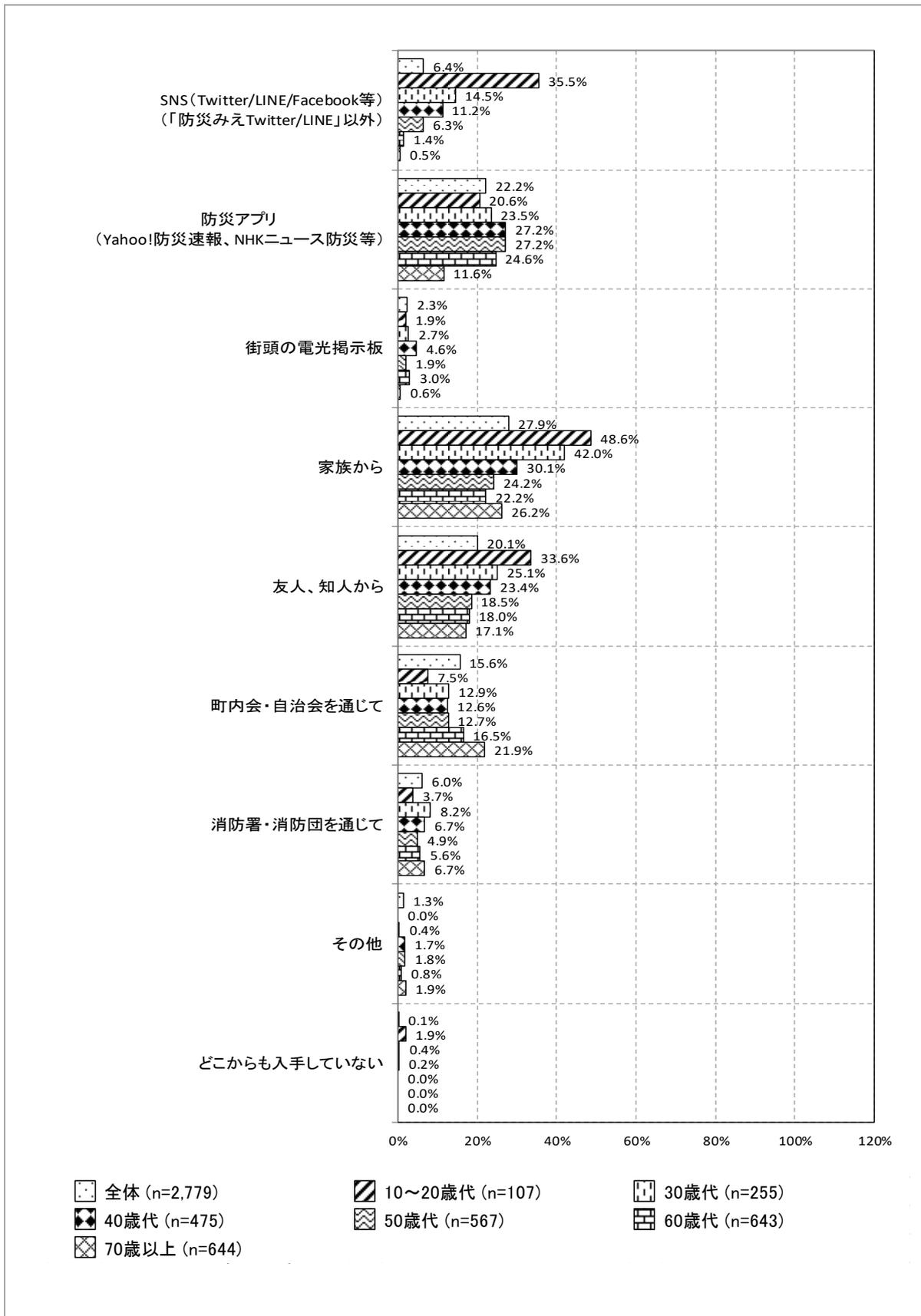
	テレビ	ラジオ	新聞	市町の防 災行政無 線	県や市町 の広報 誌、冊子	インター ネット (県の防 災ホーム ページ 「防災み え.jp」)	インター ネット (「防災 みえ.jp」 以外)	携帯メー ル(「防 災みえ メール配 信サービ ス」)	携帯メー ル(「防 災みえ メール配 信サービ ス」以 外)	県公式 SNS (「防災 みえ Twitter/ LINE」)
R3	67.8	25.1	26.0	24.3	12.9	36.2	26.0	30.7	10.8	15.9
R2	70.6	25.3	26.4	25.4	11.0	35.7	27.9	31.3	13.1	16.4
R1	69.0	26.2	25.6	25.4	10.4	35.4	25.2	33.4	13.8	13.2
H30	66.5	30.3	27.6	26.9	12.3	32.4	25.4	33.0	15.8	11.9
H29	71.5	28.9	31.3	30.1	12.3	33.0	24.4	37.0	17.0	6.4

	SNS (Twitt er/LINE /Faceb ook等) (「防災 みえ Twitter/ LINE」 以外)	防災アプ リ (Yaho o防災速 報、 NHK ニュース 防災等)	街頭の電 光掲示板	家族から	友人、知 人から	町内会・ 自治会を 通じて	消防署・ 消防団を 通じて	その他	特に入手 したいと 思わない
R3	12.0	25.1	3.3	19.0	14.8	17.8	9.9	0.9	0.4
R2	12.7	26.2	3.1	22.0	17.0	15.1	8.6	0.8	0.4
R1	9.6	22.6	2.0	17.8	13.8	16.9	10.8	2.1	0.2
H30	8.5	-	2.3	17.4	12.7	17.2	10.3	2.4	0.6
H29	6.6	-	3.8	16.5	11.7	22.0	14.6	1.9	0.9

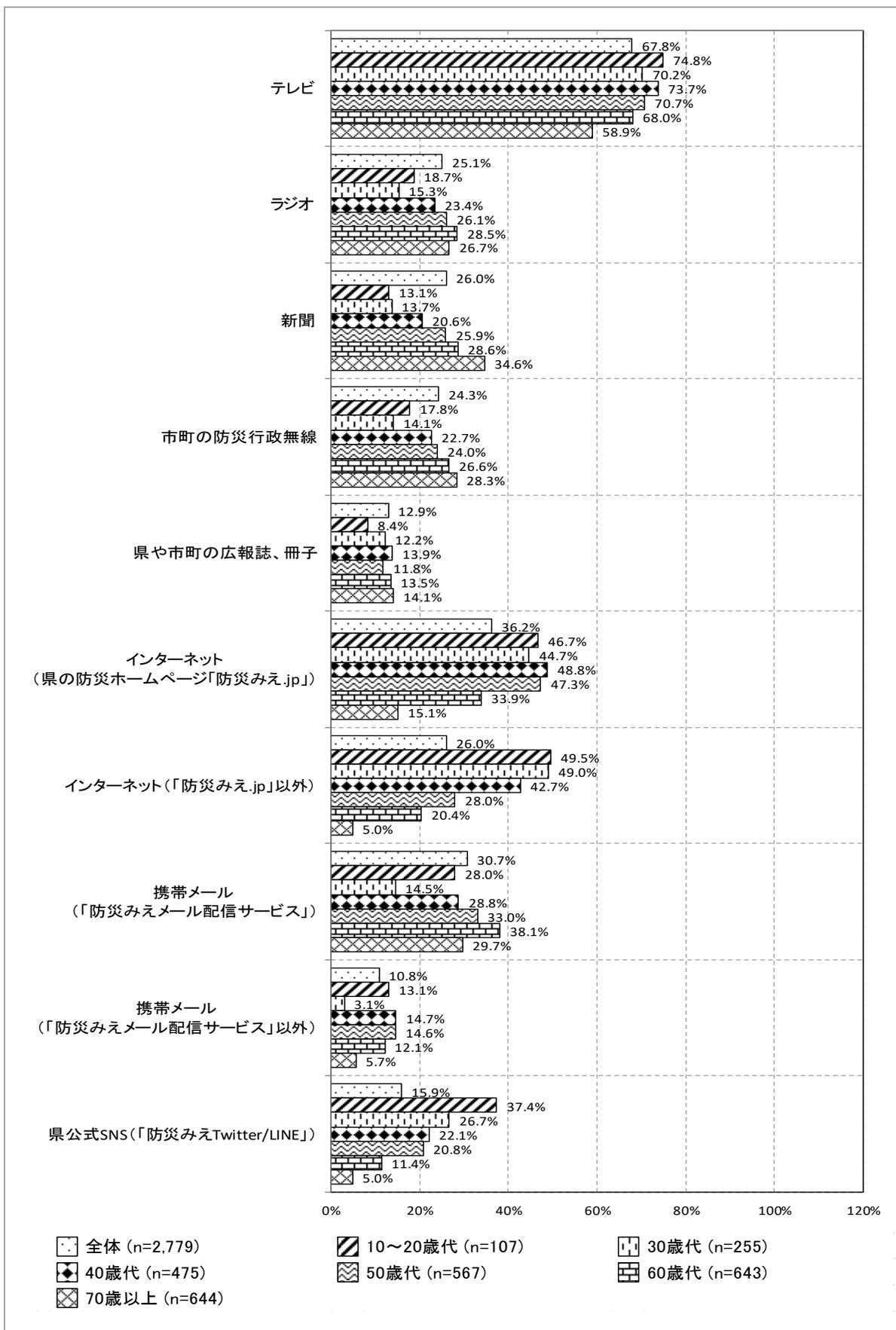
(3) 「年代別」集計結果 (複数回答)

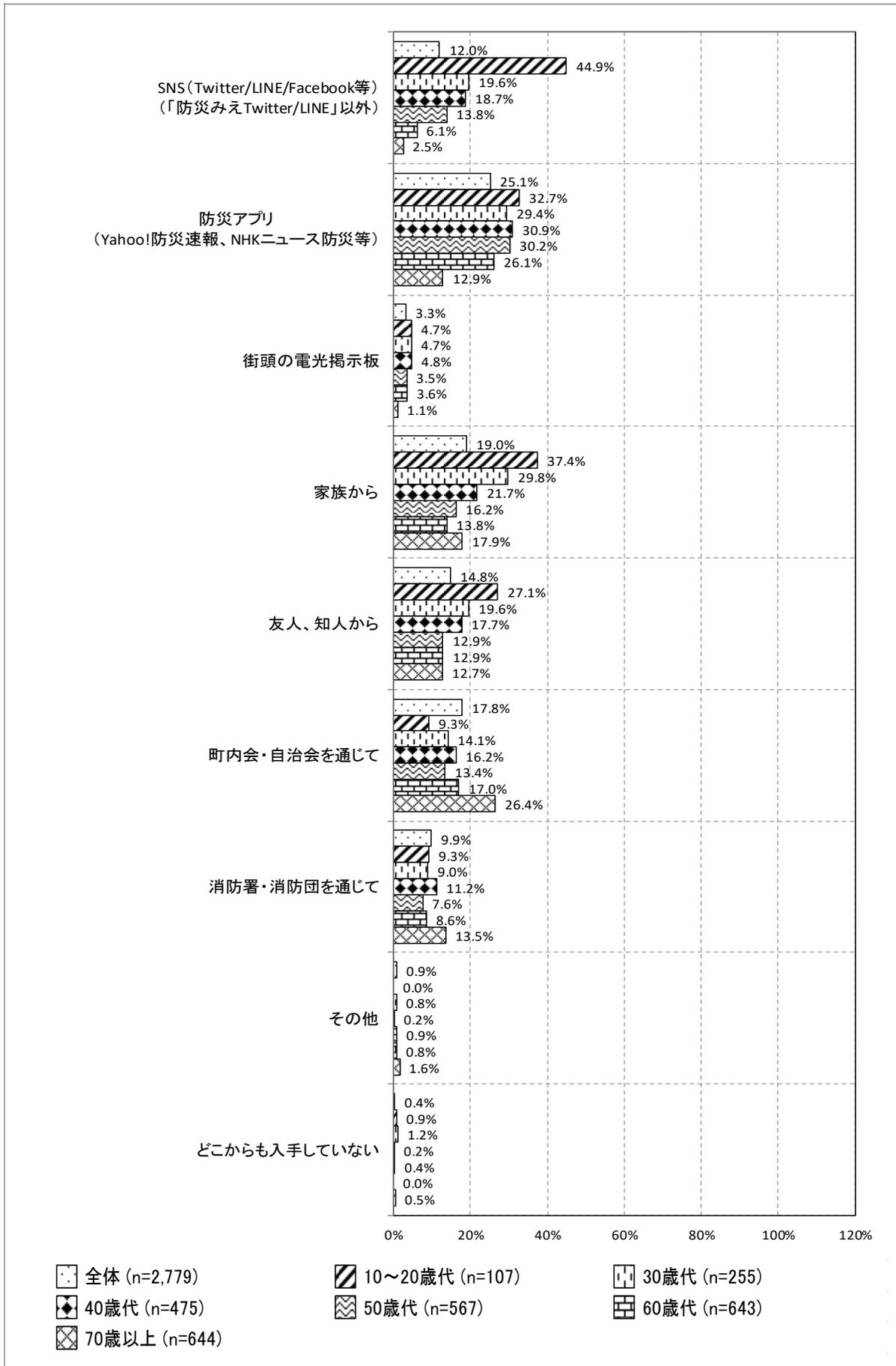
【問 17-1】 現在どこから入手することが多いかお答えください。





【問 17-2】 今後どこから入手したいかお答えください。





- 年代別では、10～20 歳代の「今後どこから入手したいか」については、「テレビ」と答えた方の割合が74.8%と最も高くなり、次いで「インターネット(『防災みえ.jp』以外)」が49.5%、「インターネット(県の防災ホームページ『防災みえ.jp』)」が46.7%となっています。また、「県公式 SNS(『防災みえ Twitter/LINE』)」と答えた方の割合は、全体の15.9%より21.5ポイント高い37.4%となっています。
- 70 歳以上の「今後どこから入手したいか」については、「テレビ」と答えた方の割合が58.9%と最も高くなり、次いで「新聞」が34.6%、「携帯メール(『防災みえメール配信サービス』)」が29.7%となっています。また、「町内会・自治会を通じて」と答えた方の割合は、全体の17.8%より8.6ポイント高い26.4%、「消防署・消防団を通じて」が、全体の9.9%より3.6ポイント高い13.5%となっています。

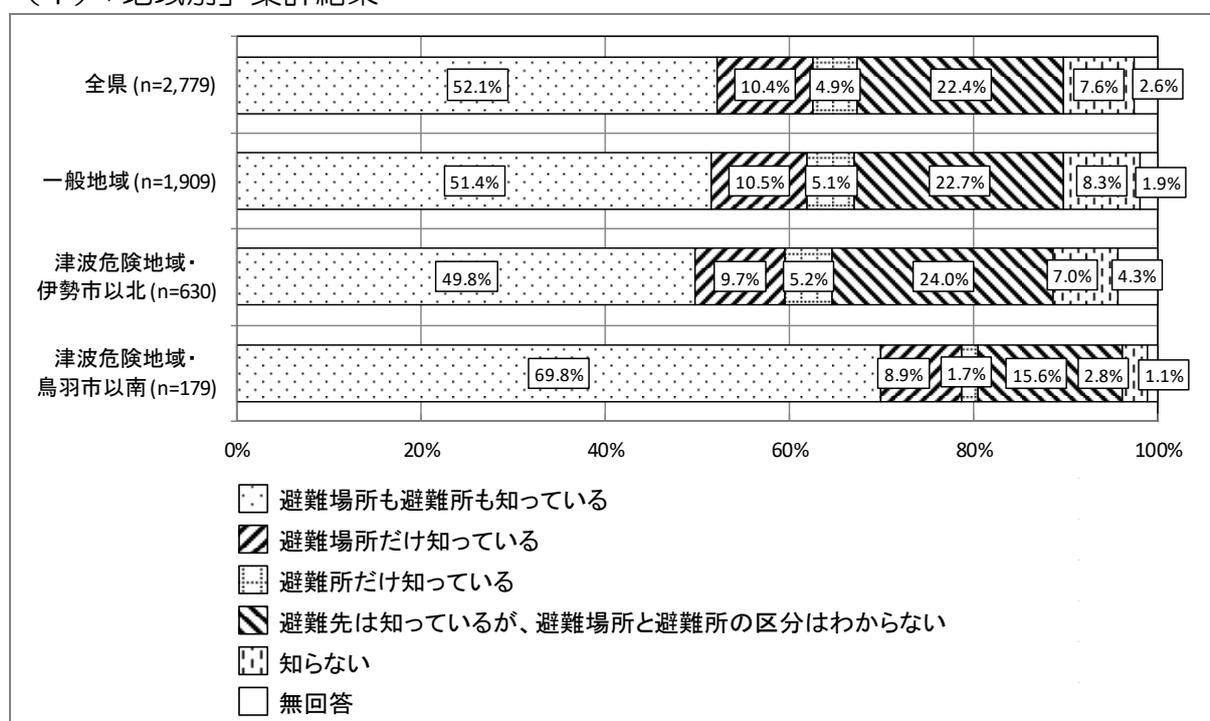
2. 4. 12 避難場所や避難所の認知度

【問 18】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。
(一つだけ○)

- | | | |
|---------------------------------|---|---------|
| 1. 避難場所も避難所も知っている | } | →問18-1へ |
| 2. 避難場所だけ知っている | | |
| 3. 避難所だけ知っている | | |
| 4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない | } | →問19へ |
| 5. 知らない | | |

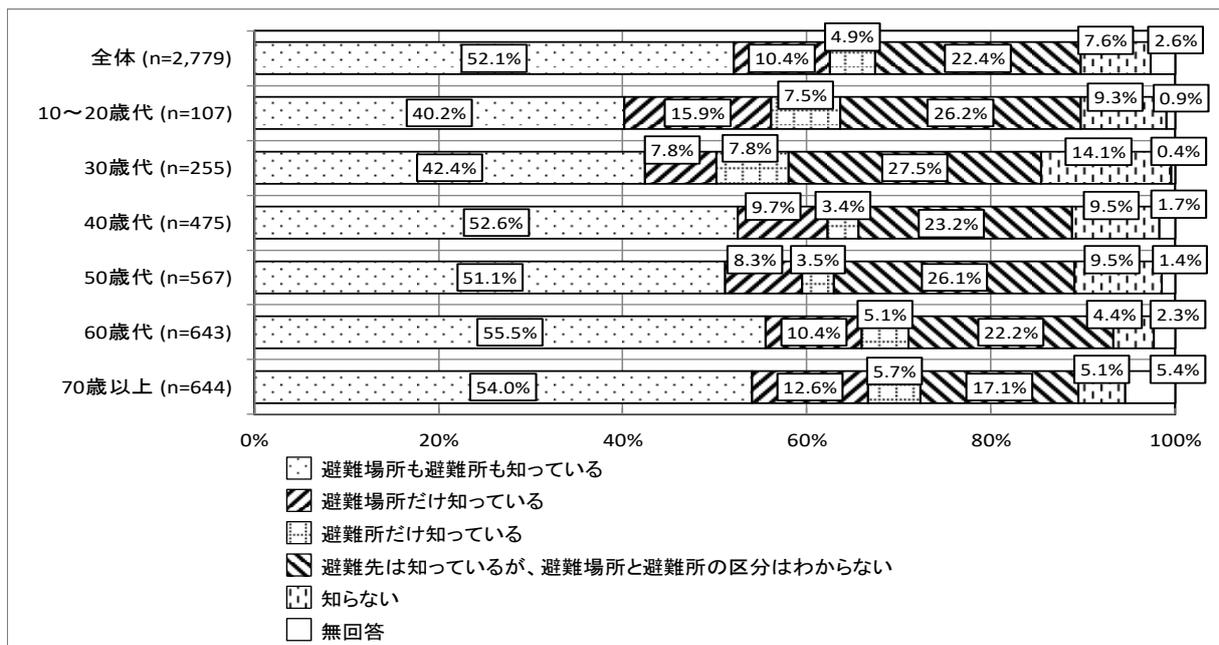
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



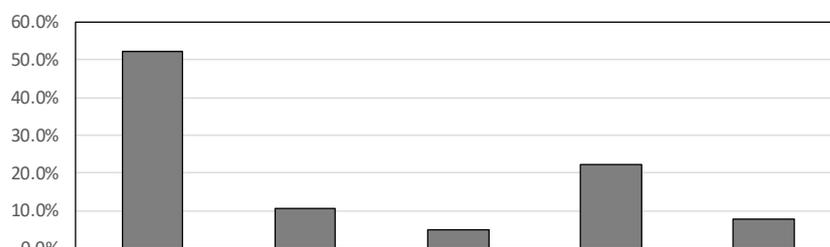
- 全県では、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合は、52.1%と半数以上の方が認知している結果となっています。一方、「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と答えた方の割合が 22.4%となっています。
- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）では「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が 69.8%と、他の地域にくらべ高くなっています。

(2) 「年代別」集計結果



- 年代別では、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が、10~20歳代と30歳代が他の世代より低く、それぞれ40.2%、42.4%となっています。
- また、10~20歳代では、「避難場所だけ知っている」と答えた方の割合が、他の世代よりも高く、30歳代では「知らない」と答えた方の割合が、他の年代よりも高くなっています。

(3) 「要配慮者の有無別」集計結果



	全体	避難場所も避難所も知っている	避難場所だけ知っている	避難所だけ知っている	避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない	知らない	無回答
全体	n=2,779	52.1%	10.4%	4.9%	22.4%	7.6%	2.6%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=1,660	51.9%	9.9%	4.8%	23.0%	8.1%	2.3%
75歳以上の方がいる	n=677	52.7%	10.2%	5.9%	22.3%	5.8%	3.1%
介護・介助が必要な方がいる	n=238	49.2%	16.0%	2.5%	23.5%	5.5%	3.4%

- 要配慮者の有無に関わらず、「避難場所も避難所も知っている」と答えた方の割合が最も高くなり、次いで「避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない」と答えた方の割合が高くなっています。

2. 4. 13 避難場所や避難所までの経路についての認知度

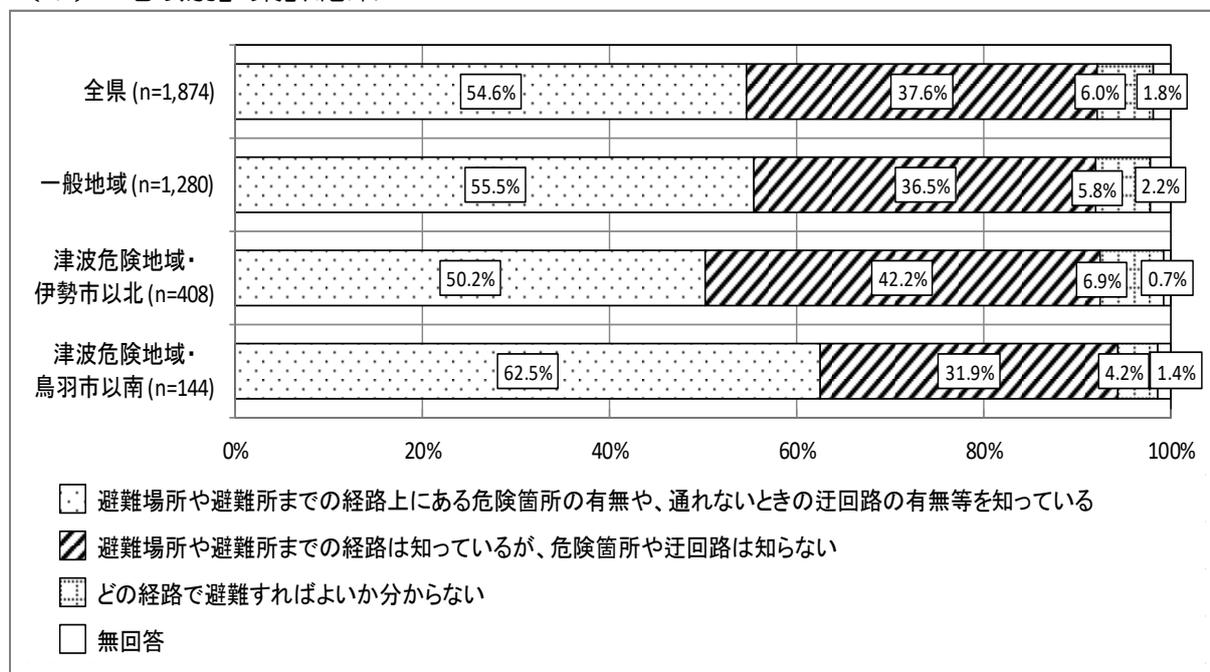
【問 18-1】 問 18 で、「1.避難場所も避難所も知っている」、「2.避難場所だけ知っている」、「3.避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。（一つだけ〇）

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

→問19へ

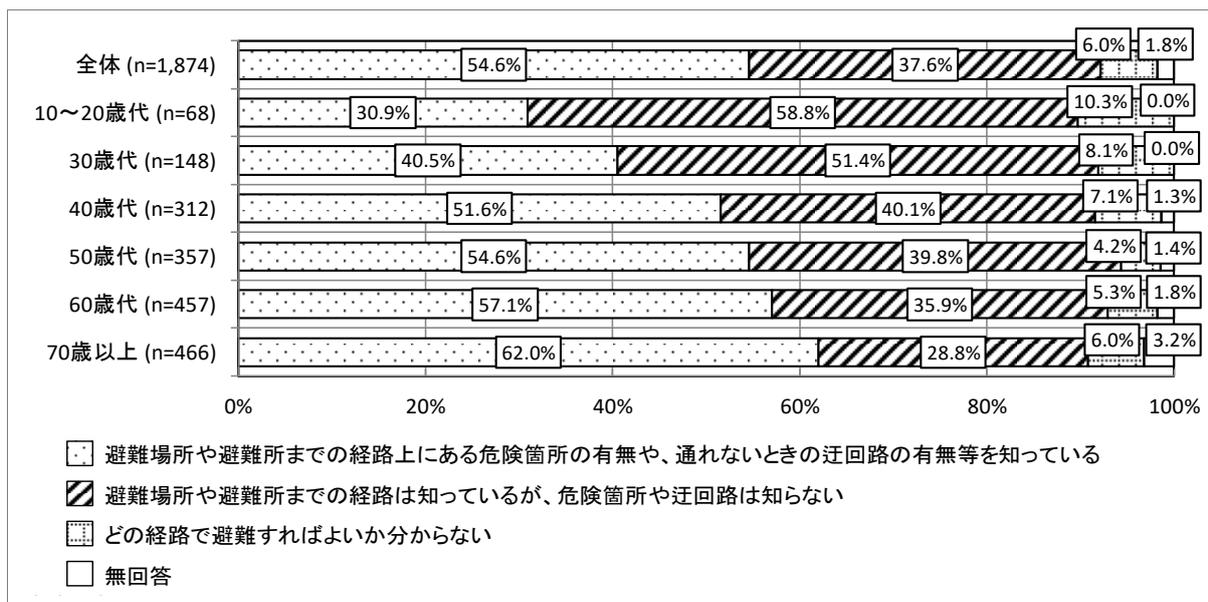
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



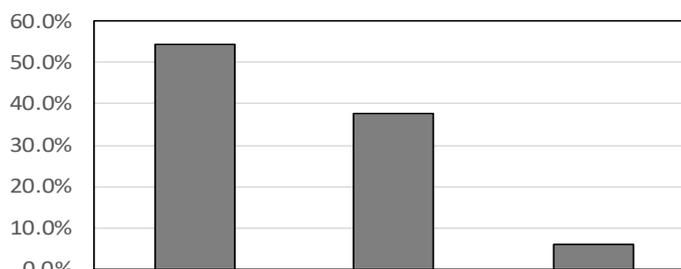
- 全県で「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が 54.6%と半数以上となっています。
- 「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」と答えた方の割合が 37.6%となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）で、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が 62.5%と他の地域にくらべて高くなっています。
- 一方、津波危険地域（伊勢市以北）で、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合が 50.2%と他の地域にくらべて低くなっています。

(2) 「年代別」集計結果



- 年代別では、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と答えた方の割合は、10～20歳代で30.9%と最も低くなっています。

(3) 「要配慮者の有無別」集計結果



	全体	避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている	避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない	どの経路で避難すればよいか分からない	無回答
全体	n=1,874	54.6%	37.6%	6.0%	1.8%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=1,106	53.3%	38.7%	6.7%	1.3%
75歳以上の方がいる	n=466	59.9%	32.8%	4.1%	3.2%
介護・介助が必要な方がいる	n=161	54.0%	39.8%	4.3%	1.9%

- 要配慮者の有無に関わらず、「避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている」と「避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない」と答えた方の割合の合計は、9割以上となっています。

2. 4. 14 感染リスクを考慮した避難所以外の避難先

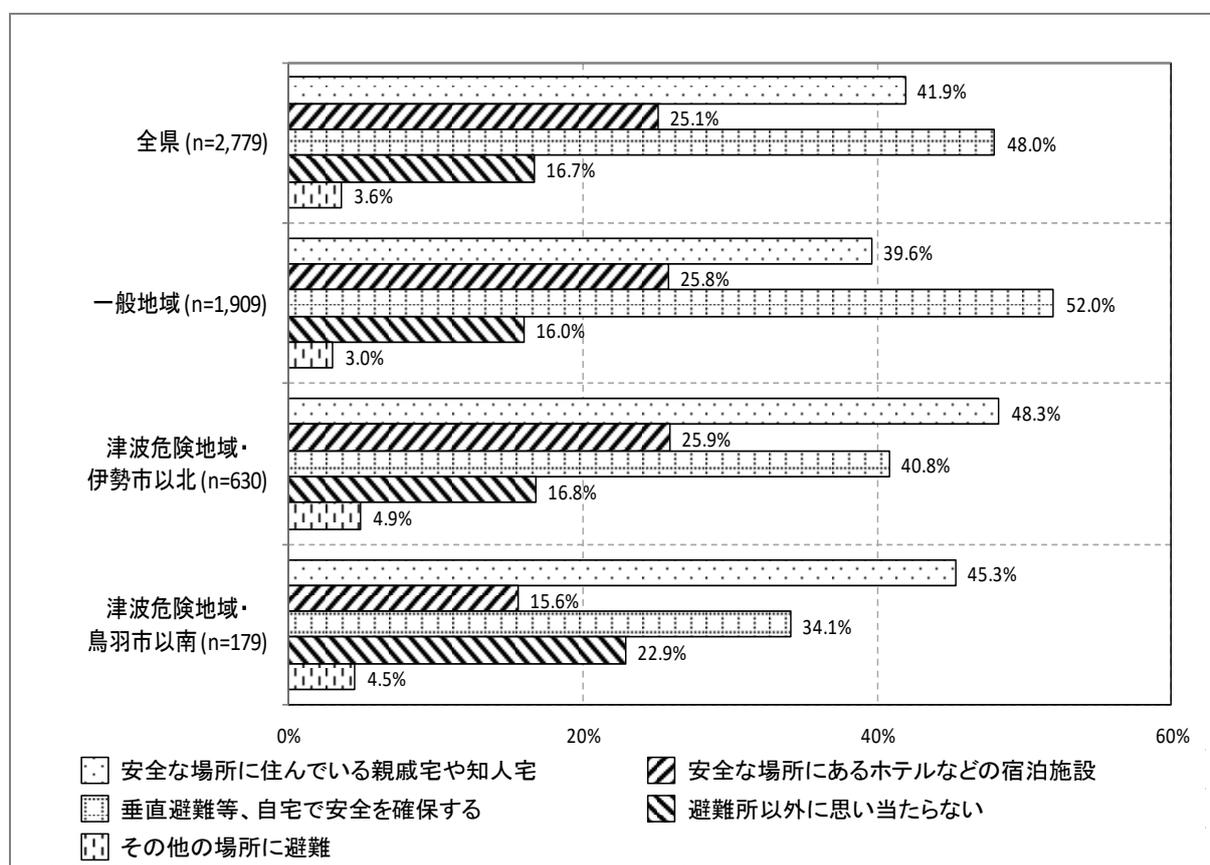
【問 19】 感染症の感染リスクなどを考慮した場合、避難所以外に避難することも選択肢として考えられます。地震や風水害発生時、避難所に代わる安全な場所（被災する可能性の低い他県・他市町、同じ市町内のハザードマップの浸水想定区域外地域など）に避難する必要がある場合、どのような場所へ避難しますか？（いくつでも○）

1. 安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅
2. 安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設
3. 垂直避難等、自宅で安全を確保する
4. 避難所以外に思い当たらない
5. その他の場所に避難 具体的に：

→問20へ

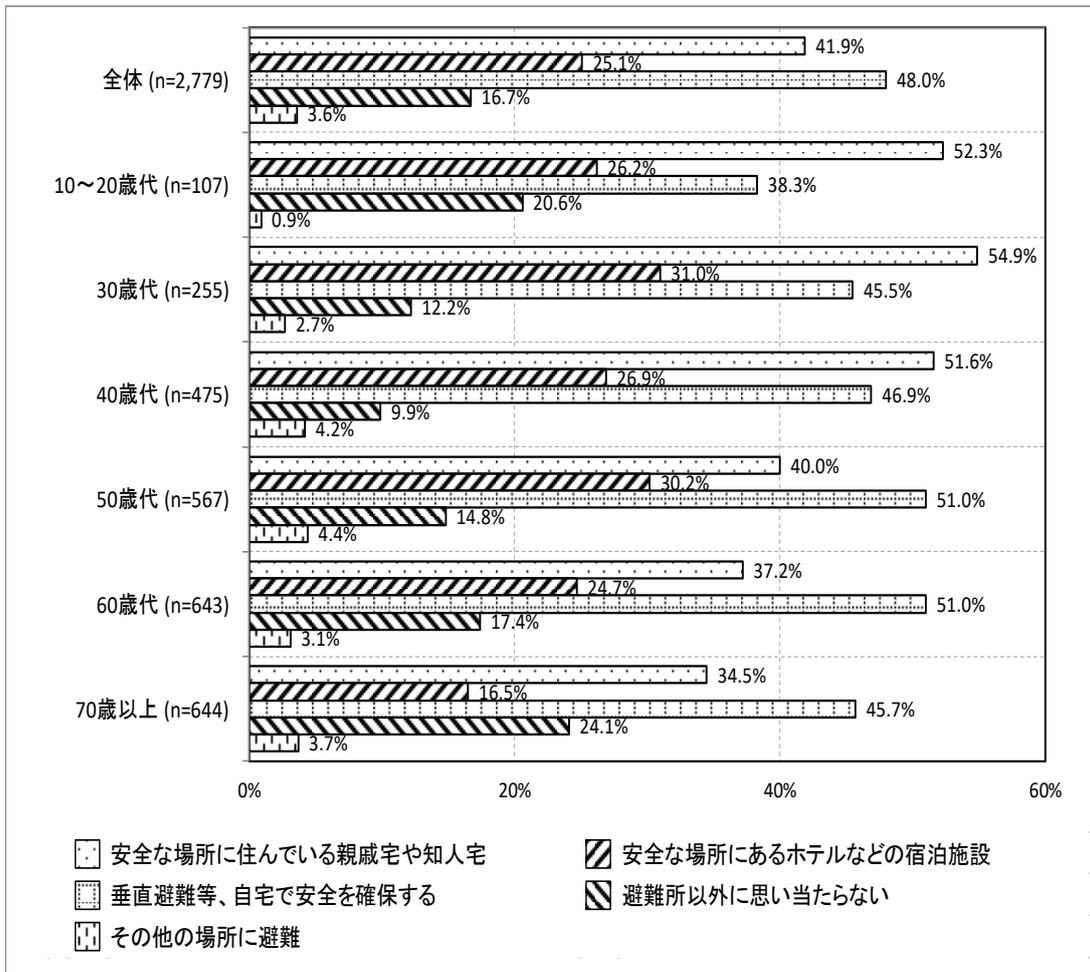
調査結果

(1) 「地域別」集計結果（複数回答）



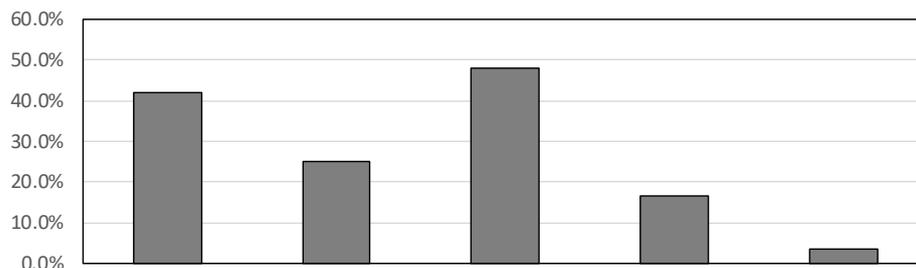
- ・全県では、「垂直避難等、自宅で安全を確保する」と答えた方の割合が48.0%と最も高くなり、次いで「安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅」と答えた方の割合が41.9%となっています。
- ・地域別では、一般地域では「垂直避難等、自宅で安全を確保する」と答えた方の割合が最も高くなった一方、津波危険地域（伊勢市以北、鳥羽市以南）では、「安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅」と答えた方の割合が最も高くなっています。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 年代別では、70歳以上、60歳代、50歳代では「垂直避難等、自宅で安全を確保する」と答えた方の割合が最も高くなった一方、40歳代、30歳代、10~20歳代では「安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅」と答えた方の割合が最も高くなっています。

(3)「要配慮者の有無別」集計結果 (複数回答)



	全体	安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅	安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設	垂直避難等、自宅で安全を確保する	避難所以外に思い当たらない	その他の場所に避難
全体	n=2,779	41.9%	25.1%	48.0%	16.7%	3.6%
要配慮者が同居家族の中にいない	n=1,660	41.4%	25.7%	48.0%	15.7%	4.4%
75歳以上の方がいる	n=677	40.9%	25.3%	47.6%	18.6%	2.2%
介護・介助が必要な方がいる	n=238	34.5%	21.8%	50.0%	21.4%	2.5%

- 要配慮者の有無に関わらず、「垂直避難等、自宅で安全を確保する」と答えた方の割合が最も高くなっています。

2. 4. 15 地域や職場の防災活動への参加状況

【問 20】 あなたは、過去 1 年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 21 の選択肢参照）に参加したことがありますか。（一つだけ〇）

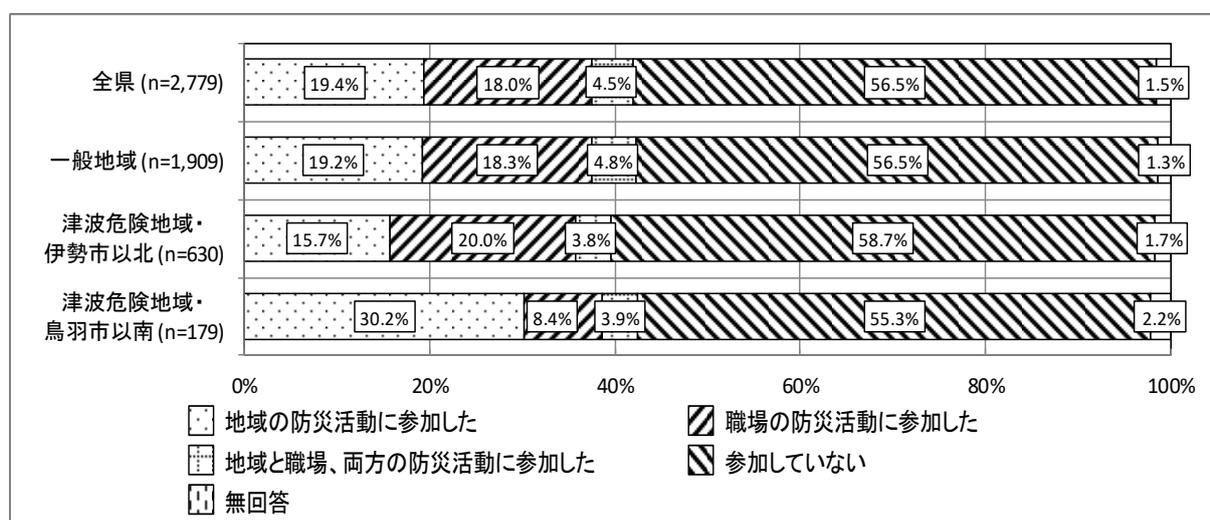
※ 直近で開催される地域や職場の研修会や防災訓練等へ参加する予定がある場合は 1～3 に〇をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない

} →問 21 へ
→問 22 へ

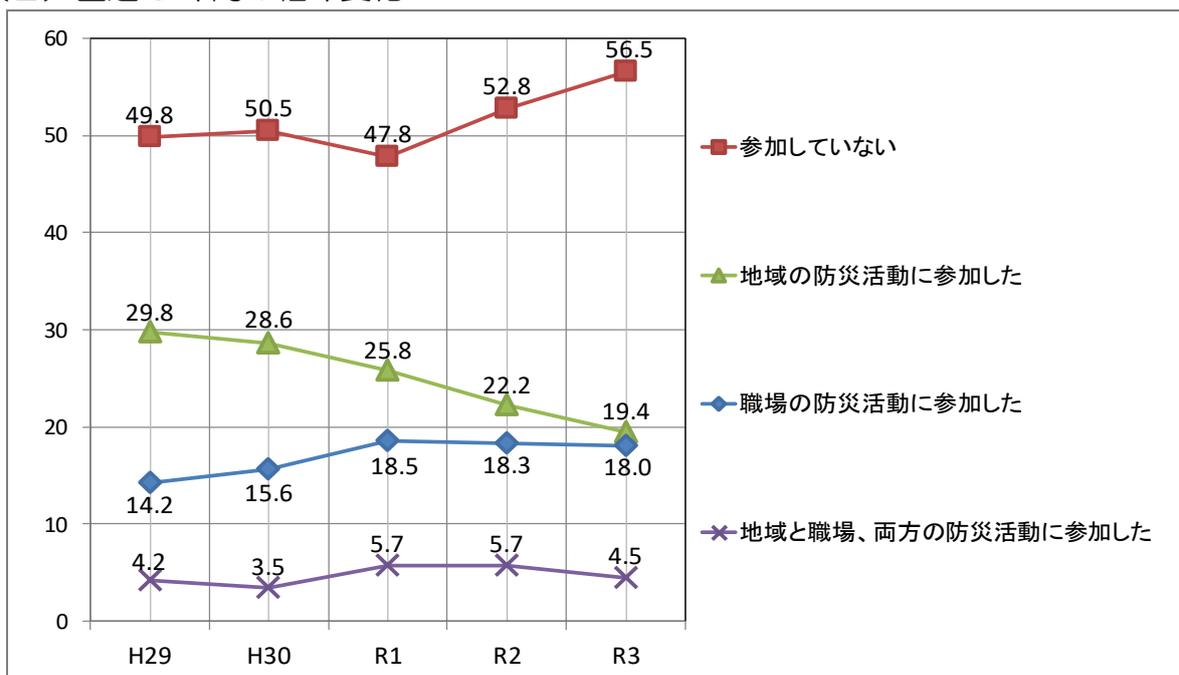
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



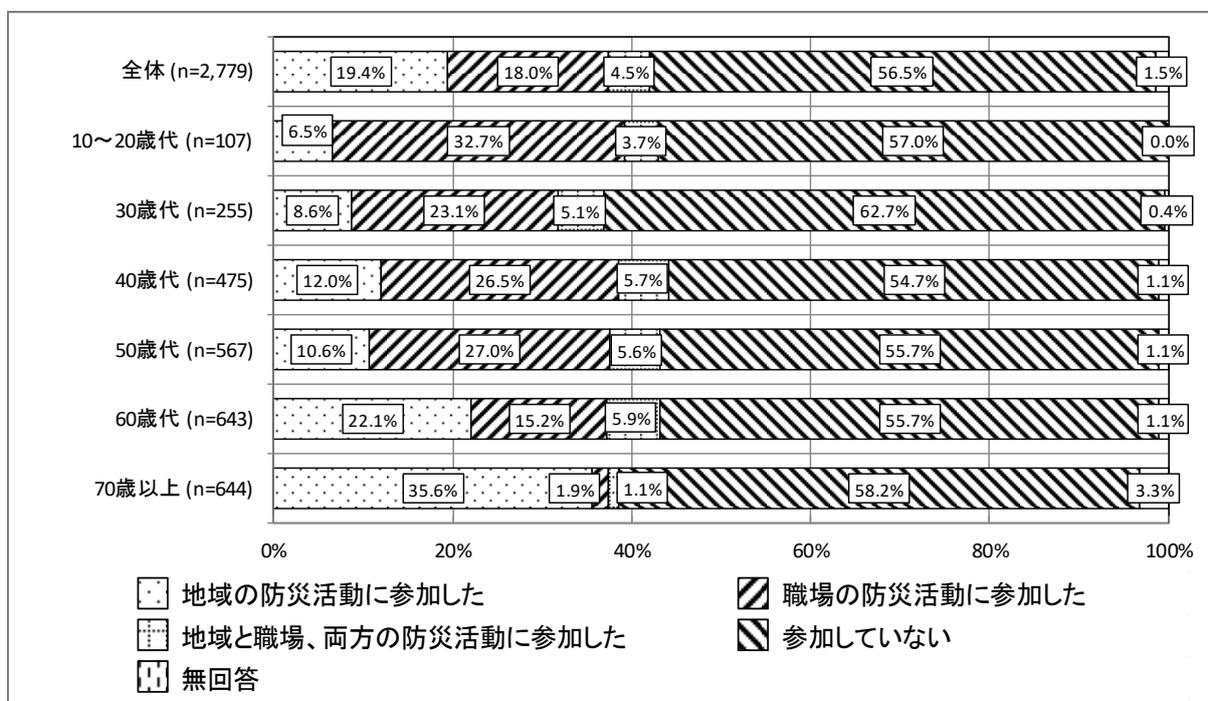
- 全県では、「地域の防災活動に参加した」「職場の防災活動に参加した」「地域と職場、両方の防災活動に参加した」と答えた方の割合の合計（以下、「防災活動に参加したと答えた方の割合」という。）は、41.9%となっています。
- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）で、「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合が全県の 19.4%より 10.8 ポイント高い 30.2%となった一方、「職場での防災活動に参加した」と答えた方の割合は、全体の 18.0%より 9.6 ポイント低い 8.4%となっています。

(2) 直近5年間の経年変化



- ・「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合は19.4%となり、直近3年間では減少しています。
- ・「職場の防災活動に参加した」と答えた方の割合は18.0%となり、直近3年間では大きな変化はありません。

(3) 「年代別」集計結果



- ・年代別では、10～20歳代の「地域の防災活動に参加した」と答えた方の割合は、全体の19.4%より12.9ポイント低い6.5%となっています。

2. 4. 16 参加した防災活動の内容

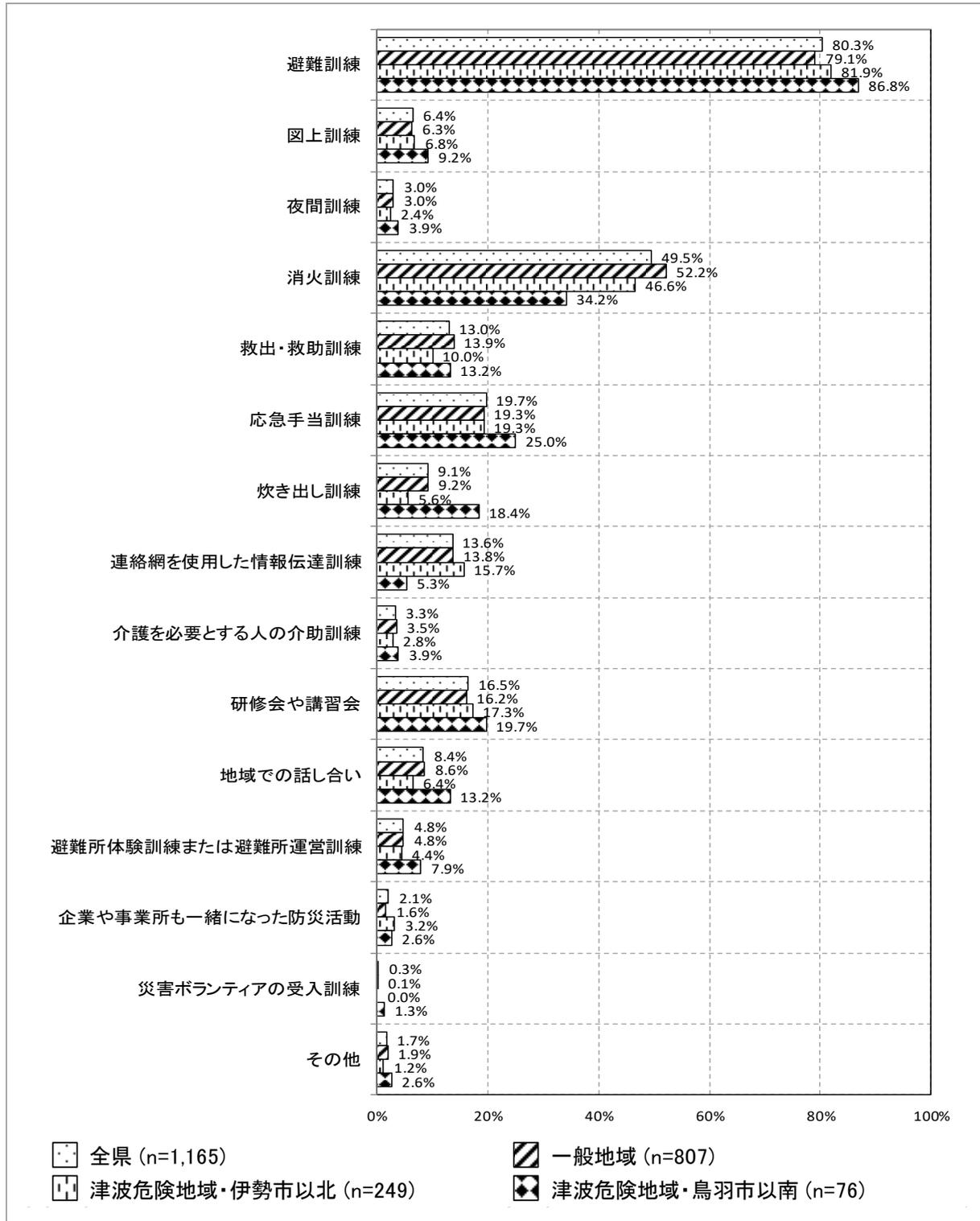
【問 21】 問 20 で、「1.地域の防災活動に参加した」、「2.職場の防災活動に参加した」、「3.地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。（いくつでも〇）

1. 避難訓練
2. 図上訓練
3. 夜間訓練
4. 消火訓練
5. 救出・救助訓練
6. 応急手当訓練
7. 炊き出し訓練
8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
9. 介護を必要とする人の介助訓練
10. 研修会や講習会
11. 地域での話し合い
12. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
14. 災害ボランティアの受入訓練
15. その他 具体的に：

→問21-1へ

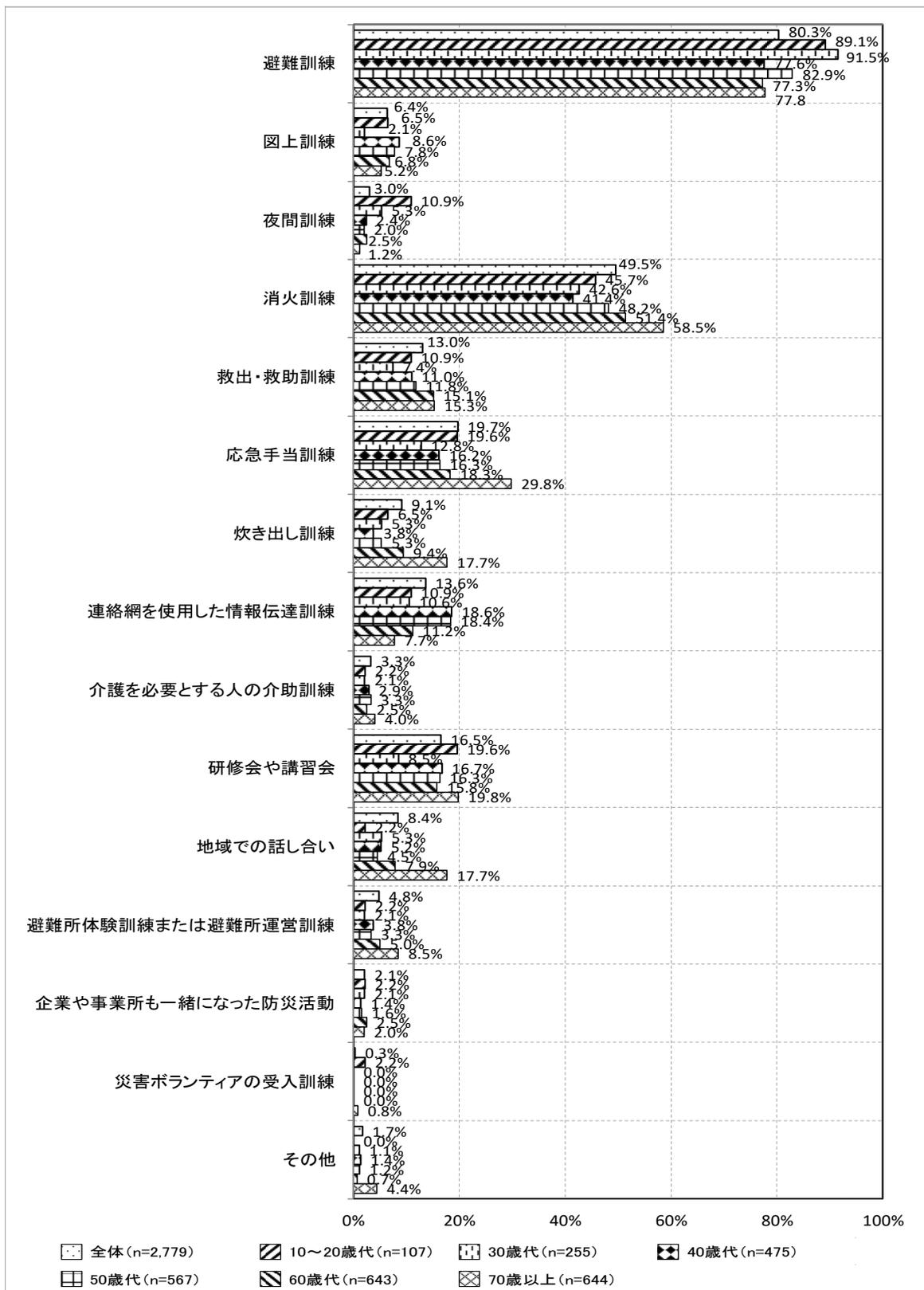
調査結果

(1) 「地域別」集計結果（複数回答）



- 全ての地域で、「避難訓練」と答えた方の割合が最も多くなり、次いで「消火訓練」と答えた方の割合が多くなりました。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「応急手当訓練」や「炊き出し訓練」、「地域での話し合い」「避難所体験訓練または避難所運営訓練」と答えた方の割合が、他の地域よりも多い結果となりました。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 全ての年代で、「避難訓練」と答えた方の割合が最も高くなり、次いで「消火訓練」と答えた方の割合が高くなっています。
- 70歳以上では、「消火訓練」や「応急手当訓練」、「炊き出し訓練」、「地域での話し合い」、「避難所体験訓練または避難所運営訓練」と答えた方の割合が、他の年代よりも高くなっています。

2. 4. 17 参加した防災活動の防災意識向上への貢献度

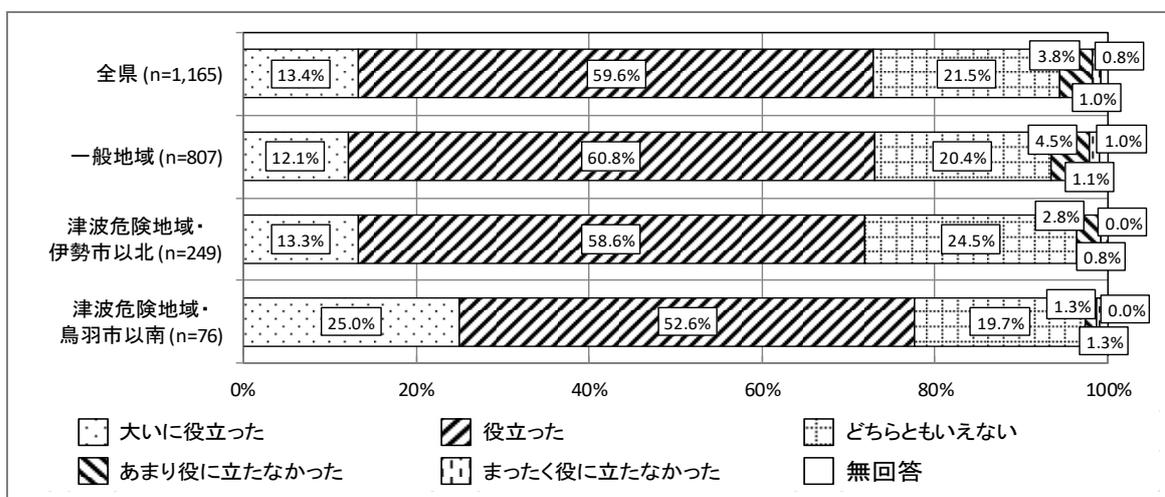
【問 21-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問23へ

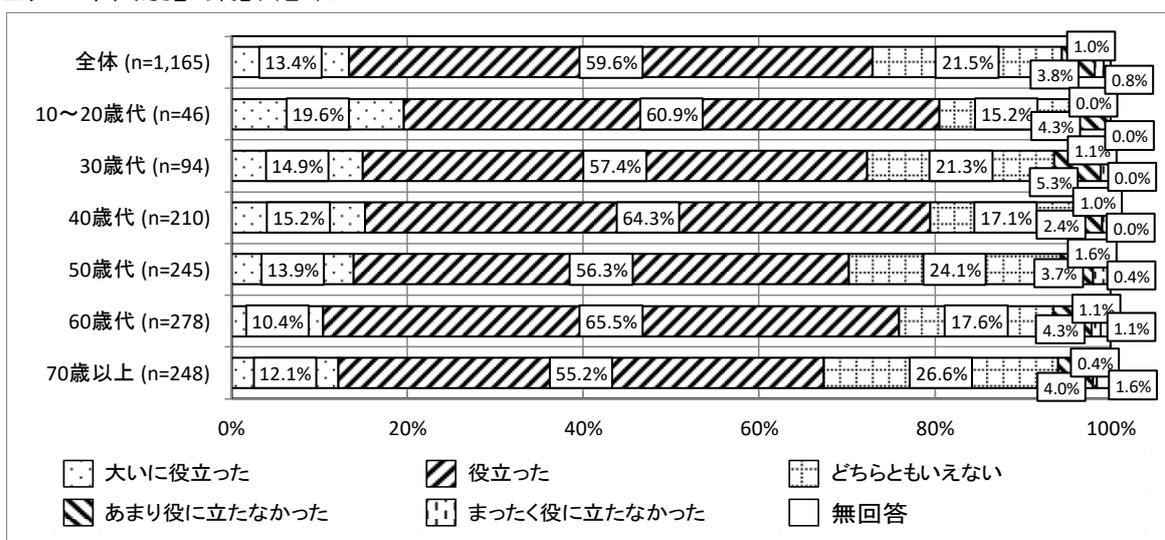
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- 全ての地域で、「大いに役立った」と「役立った」と答えた方の割合の合計は、7割以上となっています。

(2) 「年代別」集計結果



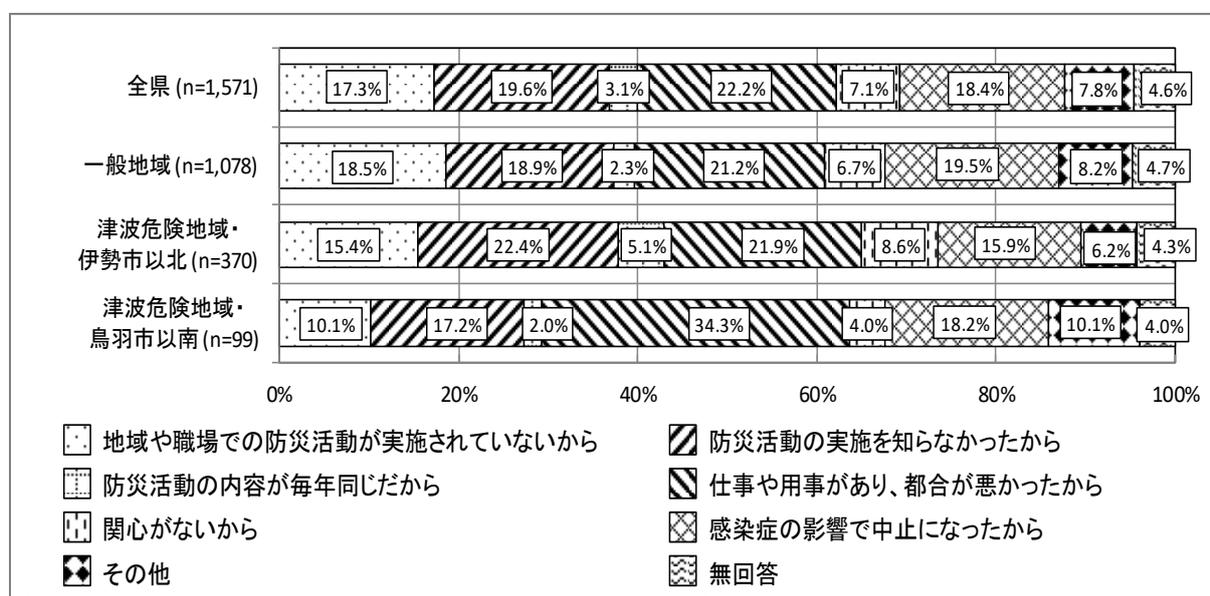
- 年代別では、「大いに役立った」と答えた方の割合は、10～20歳代が最も高くなっています。

2. 4. 18 防災活動に参加しなかった理由

- 【問 22】 問 20 で、「4.参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。（一つだけ〇）
1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
 2. 防災活動の実施を知らなかったから
 3. 防災活動の内容が毎年同じだから
 4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
 5. 関心がないから
 6. 感染症の影響で中止になったから
 7. その他 具体的に：
- 問 23へ

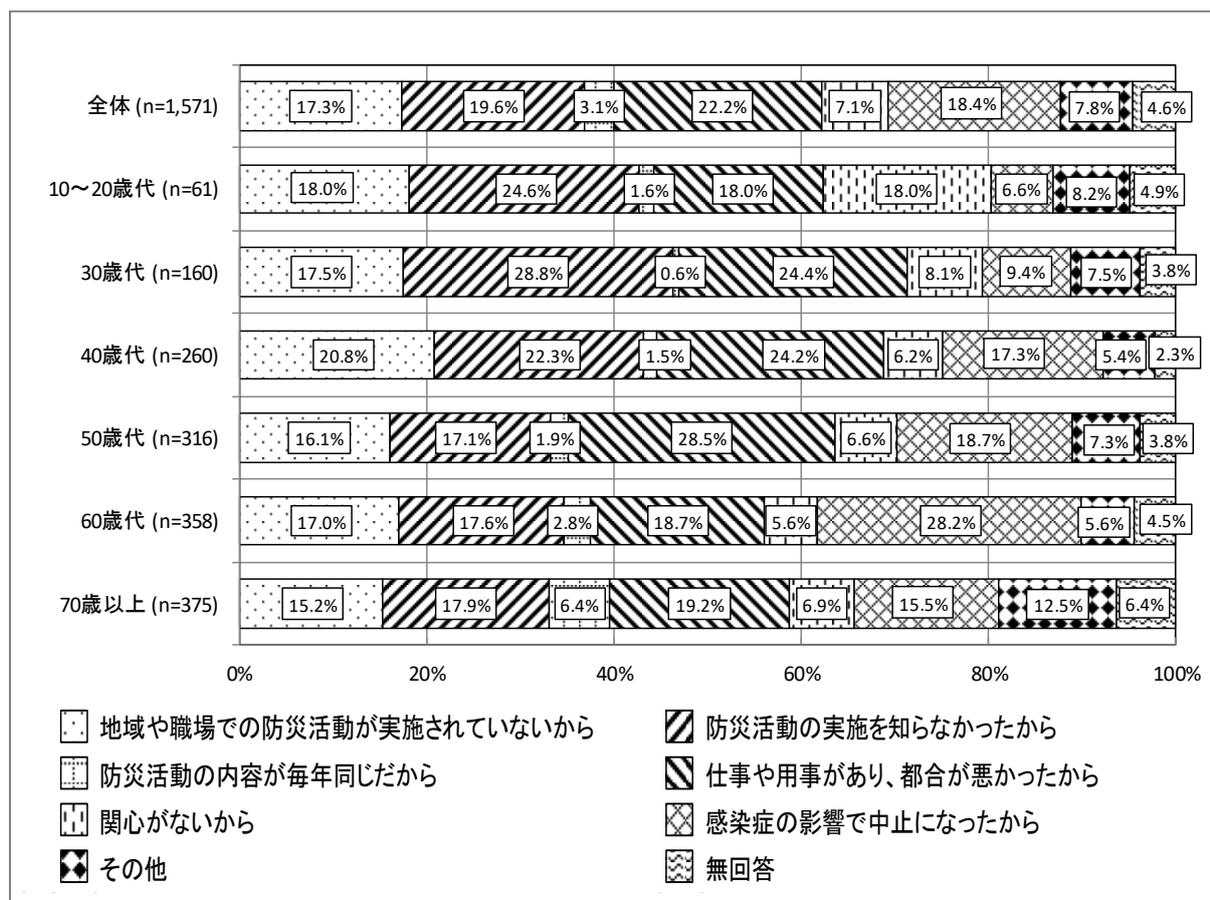
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



- 全県では、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合は 22.2% と最も高く、次いで「防災活動の実施を知らなかったから」が 19.6%、「感染症の影響で中止になったから」が 18.4% となっています。
- 「地域や職場での防災活動が実施されていないから」と答えた方の割合は、一般地域で最も高く 18.5% に、「防災活動の実施を知らなかったから」と答えた方の割合は、津波危険地域（伊勢市以北）で最も高く 22.4% に、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合は、津波危険地域（鳥羽市以南）で最も高く 34.3% になっています。

(2) 「年代別」集計結果



- 10～20歳代では、「防災活動の実施を知らなかったから」と答えた方の割合が最も高く24.6%となり、次いで、「地域や職場での防災活動が実施されていないから」と「仕事や用事があり、都合が悪かったから」、「関心がないから」が、いずれも18.0%となっています。特に、「関心がないから」と答えた方の割合は、他の世代より高く、全体の7.1%より10.9ポイント高くなっています。
- 30歳代では、「防災活動の実施を知らなかったから」と答えた方の割合が最も高く28.8%となり、次いで、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」が24.4%となっています。
- 40歳代では、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も高く24.2%となり、次いで、「防災活動の実施を知らなかったから」が22.3%となっています。
- 50歳代では、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も高く28.5%となり、次いで、「感染症の影響で中止になったから」が18.7%となっています。
- 60歳代では、「感染症の影響で中止になったから」と答えた方の割合が最も多く28.2%となり、次いで、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」が18.7%となっています。
- 70歳以上では、「仕事や用事があり、都合が悪かったから」と答えた方の割合が最も高く19.2%となり、次いで、「防災活動の実施を知らなかったから」が17.9%となっています。

2. 4. 19 地域・職場で必要と思う防災活動

【問 23】 あなたは、こういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いませんか。（いくつでも○）

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP（事業継続計画）の作成やそれに基づく訓練
7. その他 具体的に：

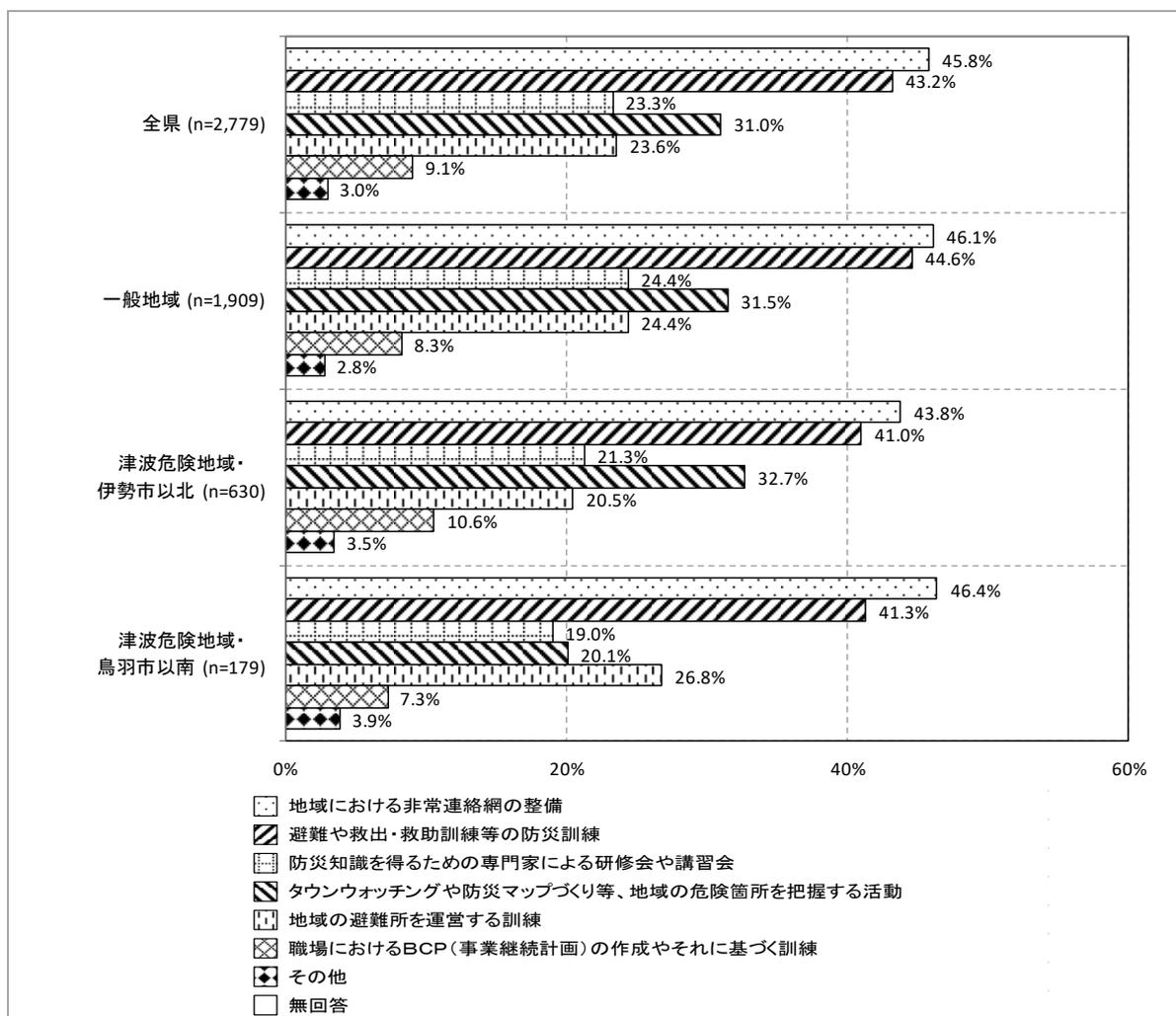
→問24へ

※BCP（事業継続計画）：

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

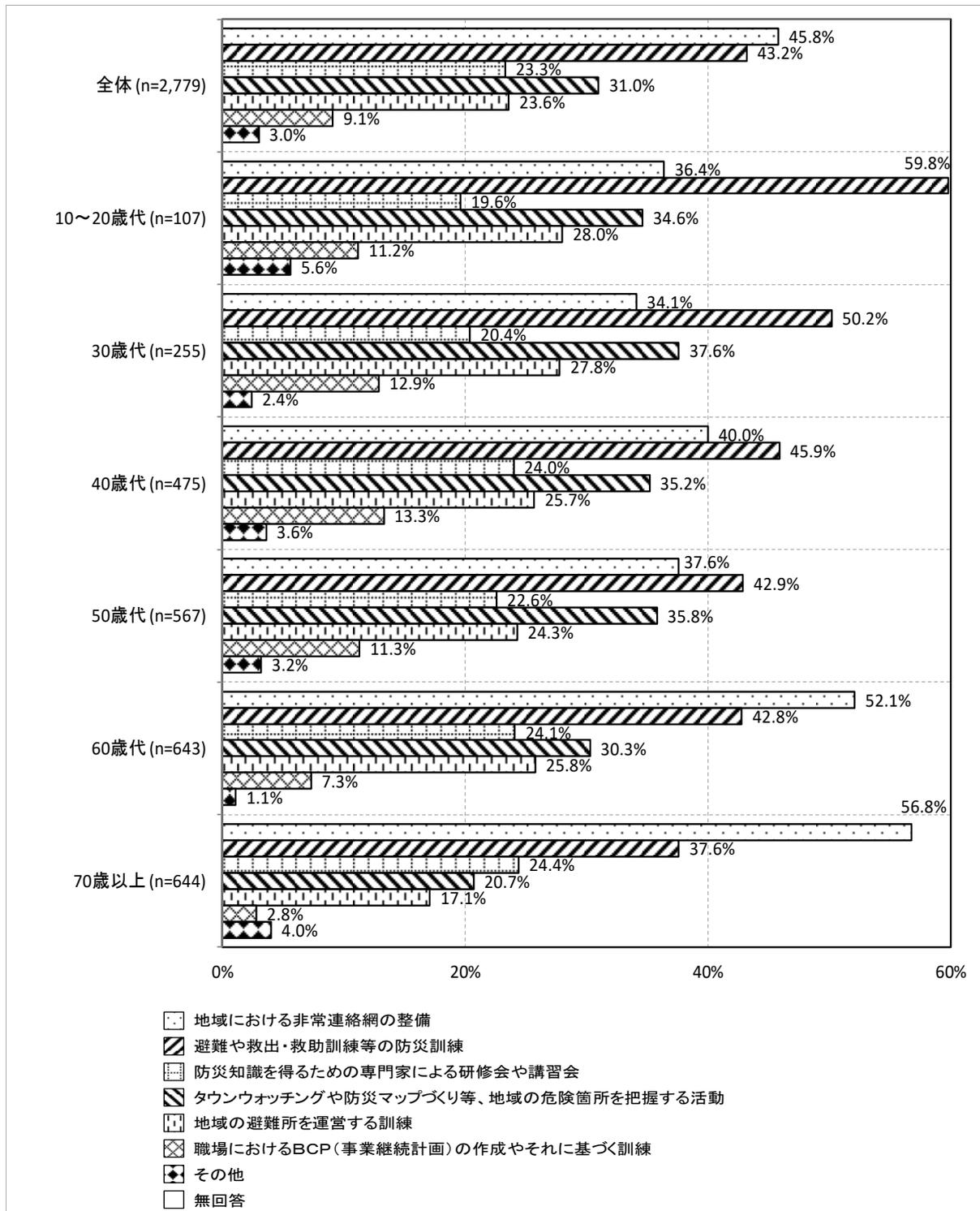
調査結果

(1) 「地域別」集計結果（複数回答）



- 全県では、「地域における非常連絡網の整備」が最も高く 45.8%となり、次いで、「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」が 43.2%、「タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動」が 31.0%となっています。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 50歳代以下では、「避難や救出・救助訓練等の防災訓練」と答えた方の割合が最も高くなりましたが、60歳代以上では、「地域における非常連絡網の整備」と答えた方の割合が最も高くなっています。

2. 4. 20 地域の企業・事業所に期待する防災活動・防災対策

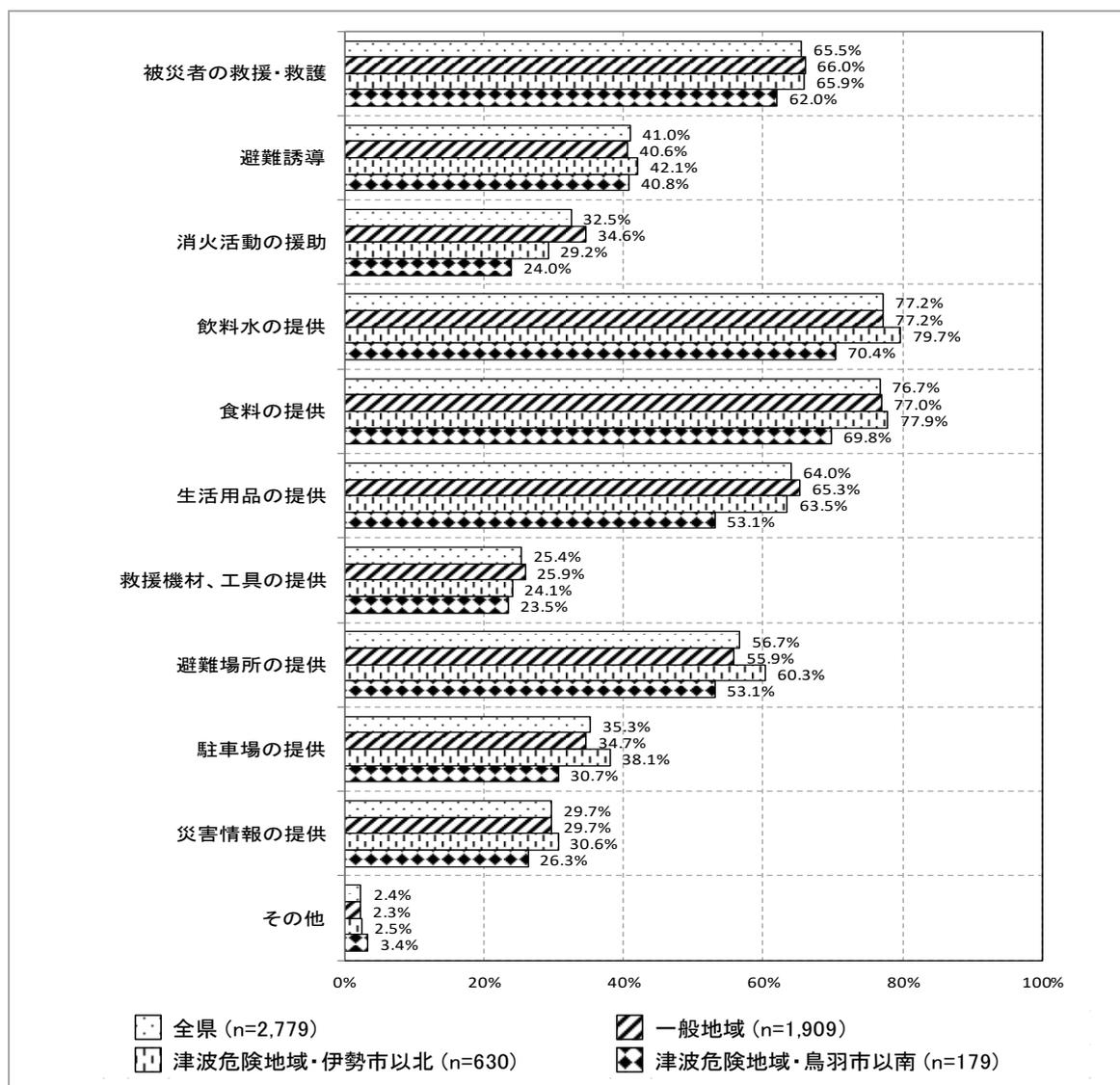
【問 24】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の救援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 具体的に：

→問25へ

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- 全県では、「飲料水の提供」と答えた方の割合が77.2%と最も高く、次いで、「食料の提供」が76.7%、「被災者の救援・救護」が65.5%、「生活用品の提供」が64.0%となっています。
- 津波危険地域（伊勢市以北）では、「避難場所の提供」や「駐車場の提供」と答えた方の割合が他の地域よりも3ポイント程度高くなっています。

2. 4. 21 地域の消防団に期待する活動

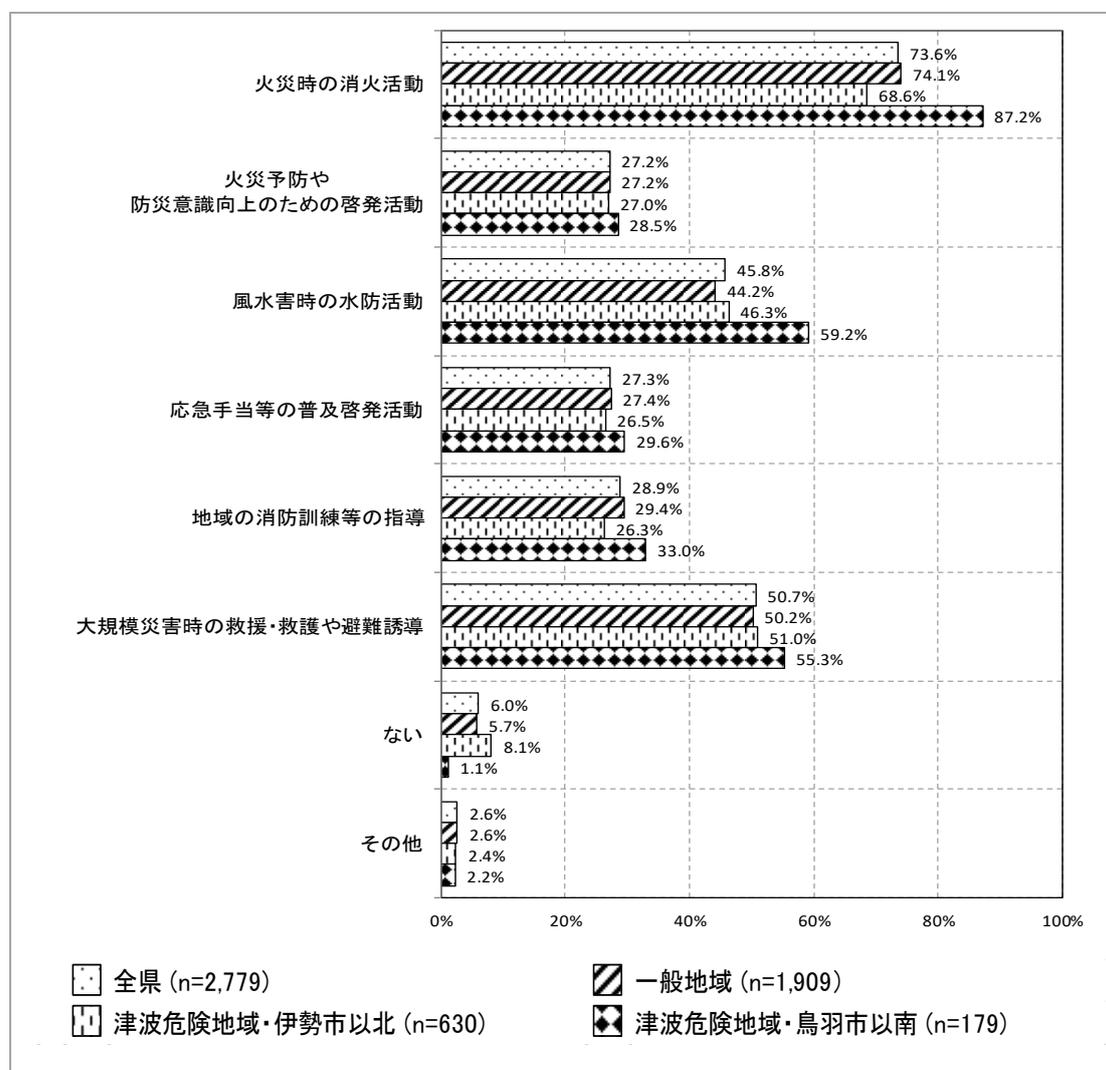
【問 25】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の防災訓練等の指導
6. 大規模災害時の救援・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 具体的に：

} →問26へ

調査結果

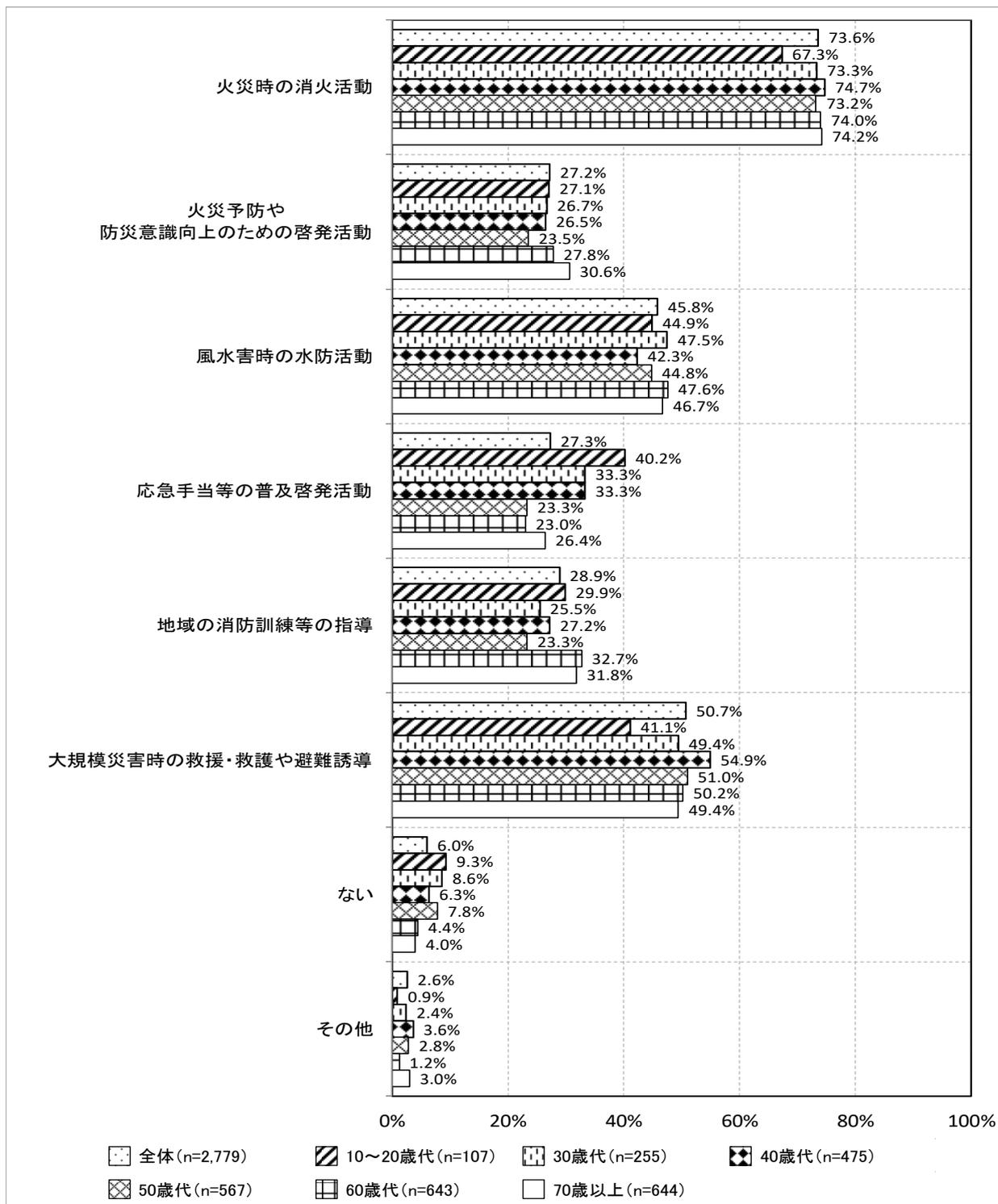
(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- ・全県では「火災時の消火活動」と答えた方の割合が最も高く 73.6%となっています。次いで「大規模災害時の救援・救護や避難誘導」が 50.7%、「風水害時の水防活動」が 45.8%となっています。

- 地域別では、津波危険地域（鳥羽市以南）では、「風水害時の水防活動」と答えた方の割合が、他地域よりも 12 ポイント以上高く、さらに「火災時の消火活動」と答えた方の割合も、他地域よりも 13 ポイント以上高い結果となっています。

(2) 「年代別」集計結果（複数回答）



- 年代別では、10~20歳代で、「応急手当等の普及啓発活動」と答えた方の割合が他の年代よりも 6 ポイント以上高い 40.2%となっています。

2. 4. 22 自主防災組織の有無と活動状況

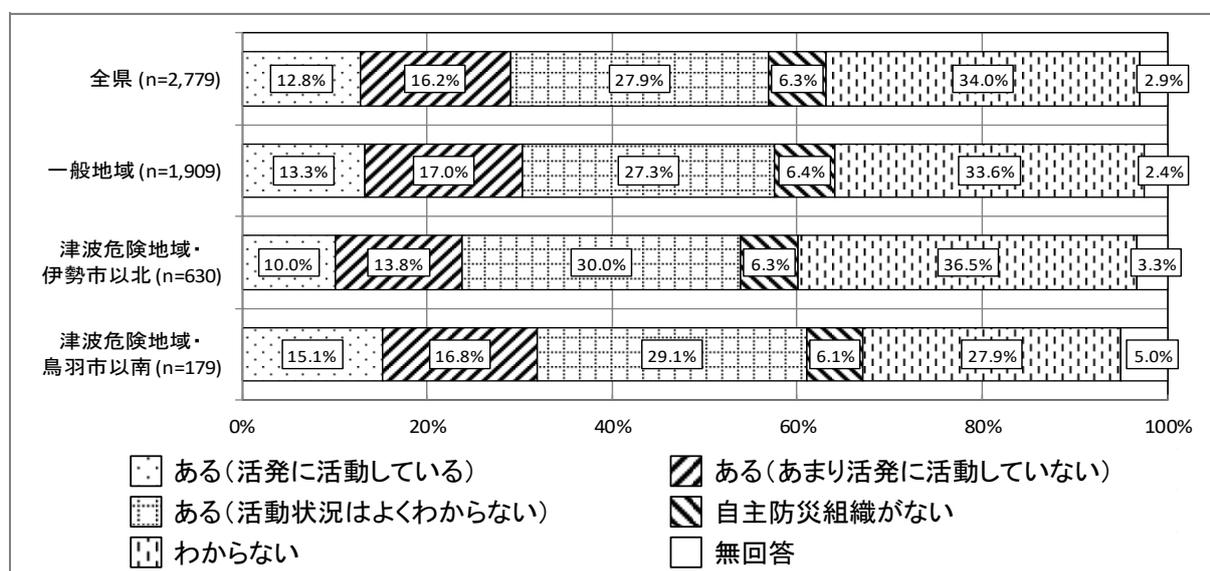
【問 26】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織（町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織）がありますか。また、活動状況はどうですか。（一つだけ〇）

1. ある（活発に活動している）
2. ある（あまり活発に活動していない）
3. ある（活動状況はよくわからない）
4. 自主防災組織がない
5. わからない

→問27へ

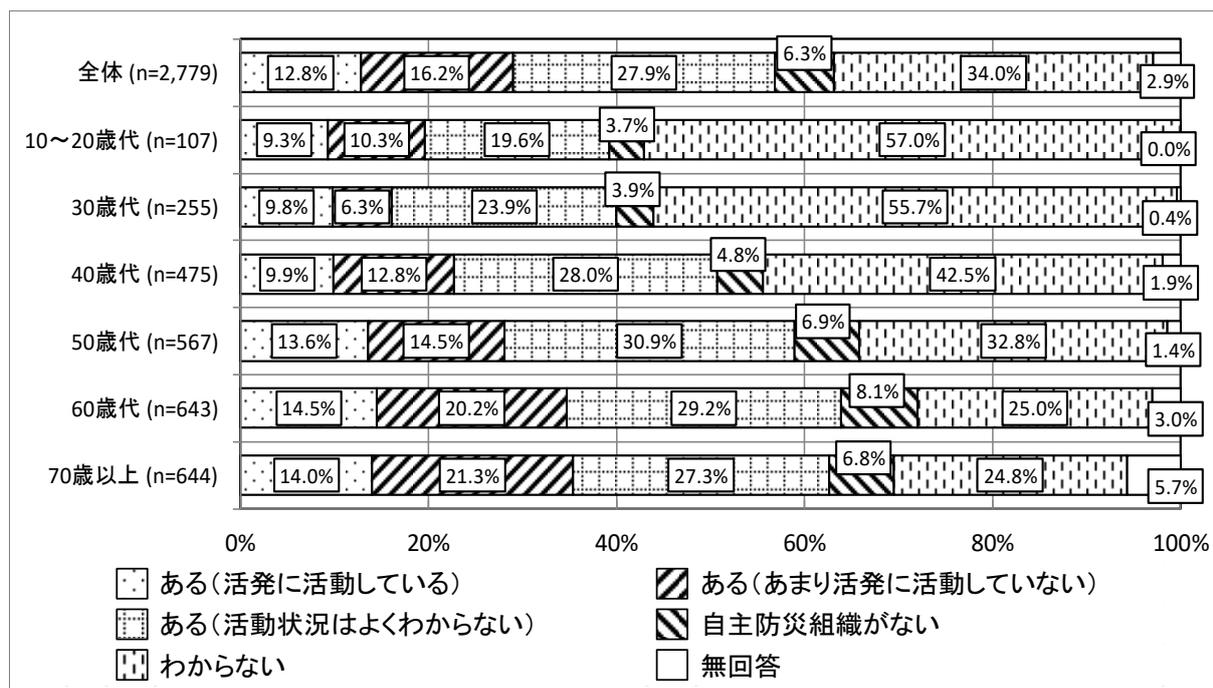
調査結果

（1）「地域別」集計結果



- 全県では、「ある（活発に活動している）」「ある（あまり活発に活動していない）」「ある（活動状況はよくわからない）」と答えた方の割合の合計は、56.9%となり、一般地域では57.6%、津波危険地域（鳥羽市以南）では61.0%と、全県よりも高くなった一方、津波危険地域（伊勢市以北）では53.8%と、全県よりも低い結果となっています。

(2) 「年代別」集計結果



- 年代別では、「わからない」と答えた方の割合は、10~20歳代で57.0%、30歳代で55.7%、40歳代で42.5%と、全体の34.0%よりも高い結果となっています。
- 一方、「ある(活発に活動している)」と答えた方の割合は、50歳代で13.6%、60歳代で14.5%、70歳以上で14.0%と、全体の12.8%よりも高い結果となっています。

2. 4. 23 学校の防災教育の家庭での認知度

【問 27】 同居している家族に就学している児童生徒がいる方にお尋ねします。三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し活用を促すなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。（一つだけ〇）

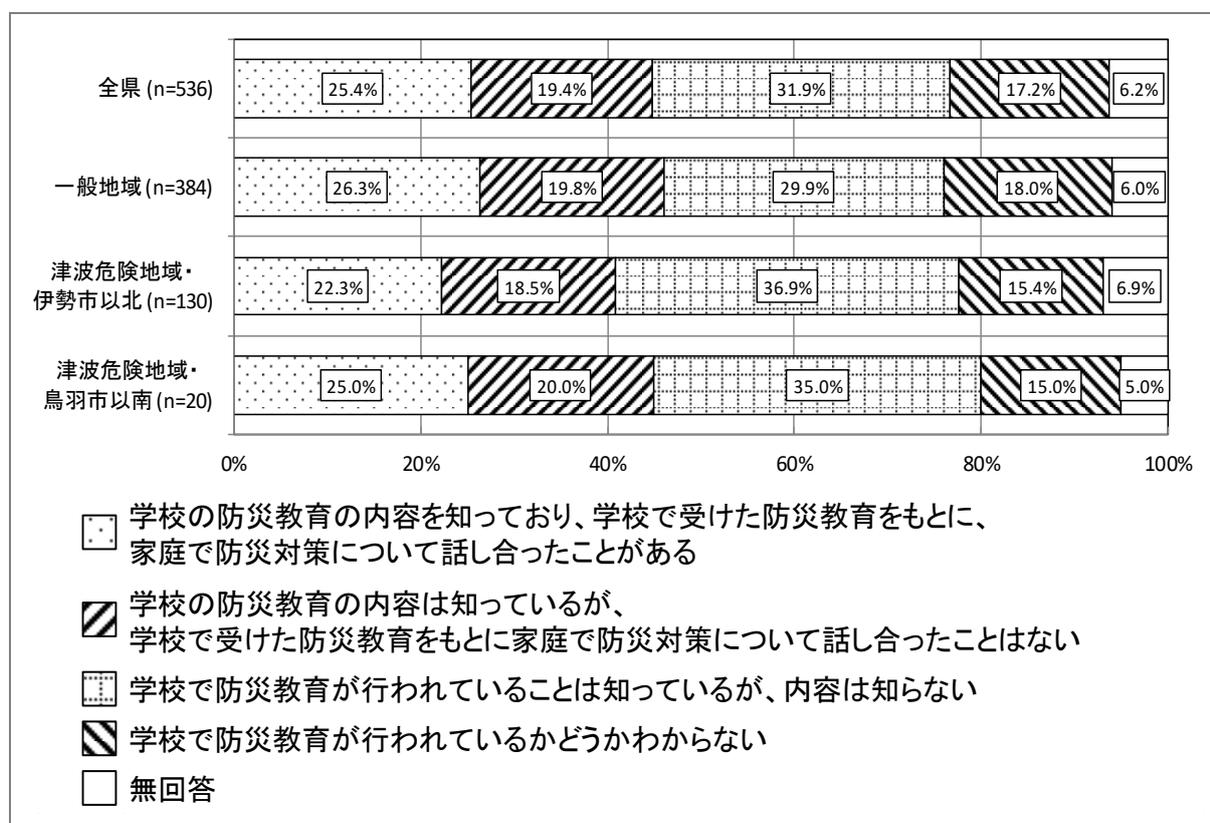
※ 複数の児童生徒がいる場合は、一番年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうか分からない

→問28へ

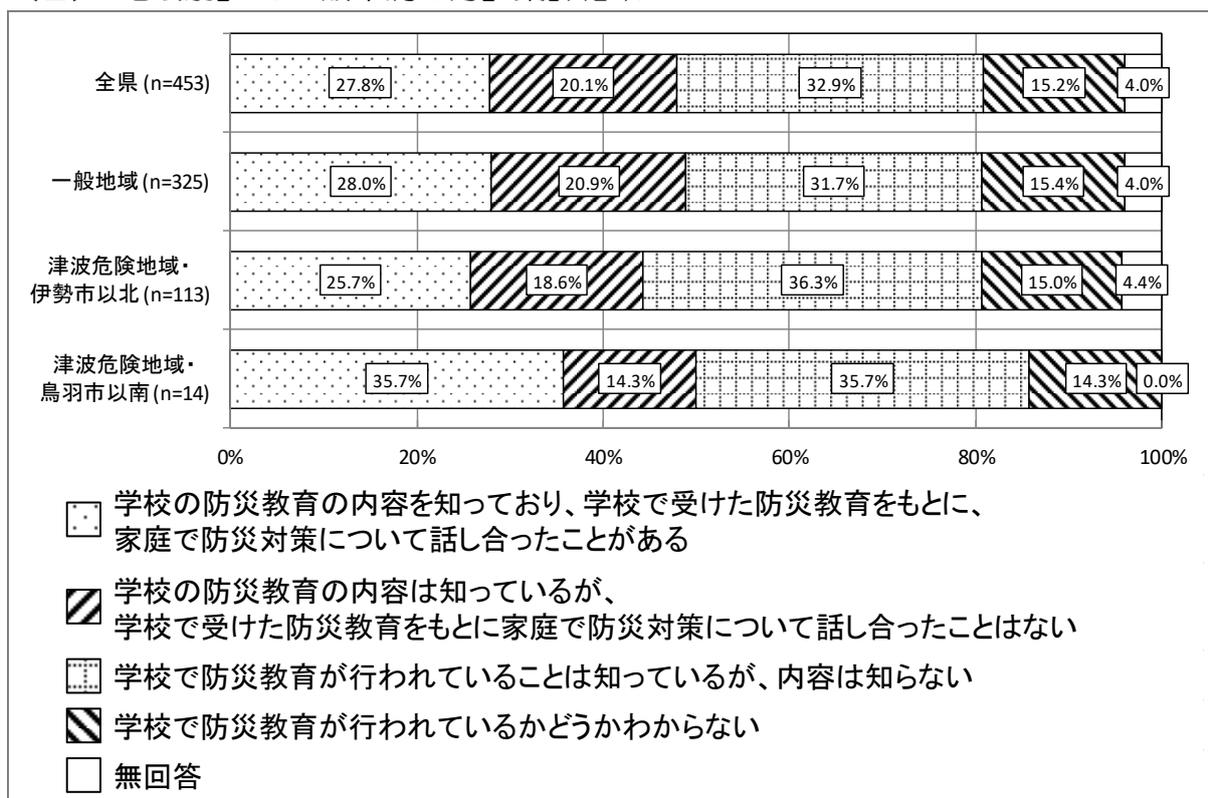
調査結果

(1) 「地域別」集計結果



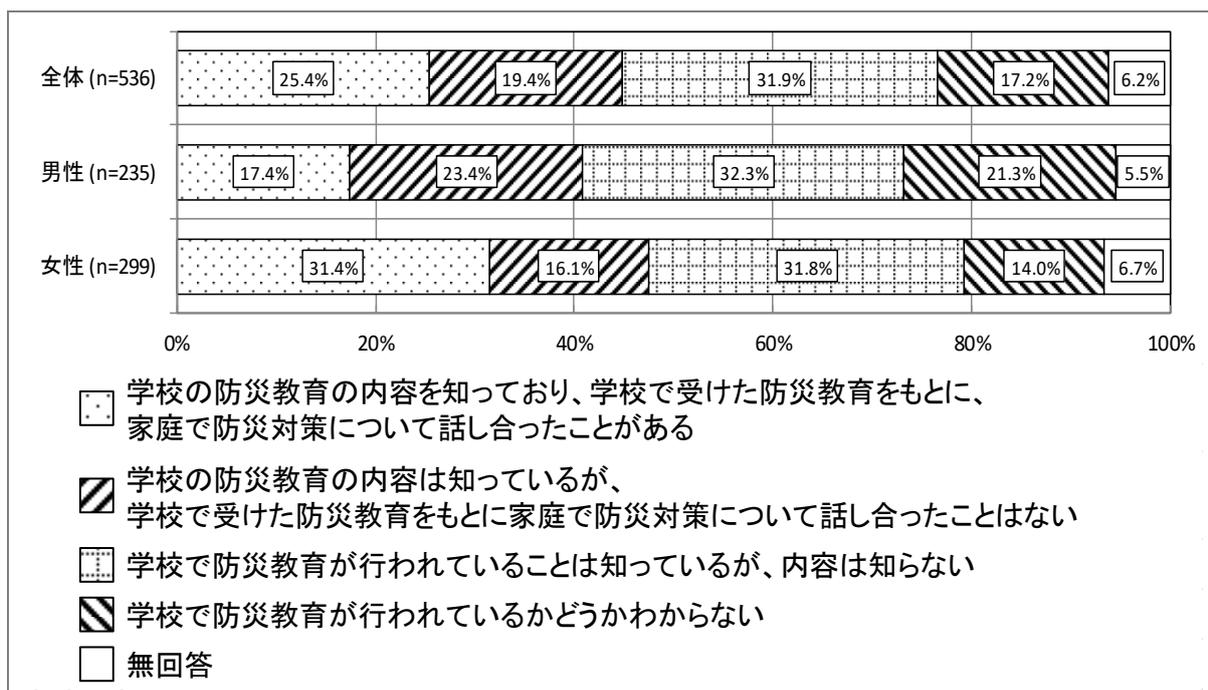
- 「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」、「学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない」、「学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない」と答えた方の割合の合計（以下、「学校の防災教育を知っていると答えた方の割合」という。）は、全県で76.7%となっています。
- 地域別では、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と答えた方の割合は、一般地域で26.3%と、全県の25.4%を上回っています。

(2) 「地域別」「60歳未満の方」集計結果



- 保護者である可能性が高い60歳未満の方のデータをみると、「学校の防災教育を知っていると答えた方の割合」は80.8%となるなど、全ての地域で8割以上の方が学校の防災教育を知っている結果となっています。

(3) 「性別」集計結果



- 性別では、「学校の防災教育を知っていると答えた方の割合」は、男性が73.1%、女性が79.3%と6.2ポイント女性が高い結果となっています。
- さらに、「学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある」と答えた方の割合は、男性が17.4%、女性が31.4%と14.0ポイント女性が高い結果となっています。

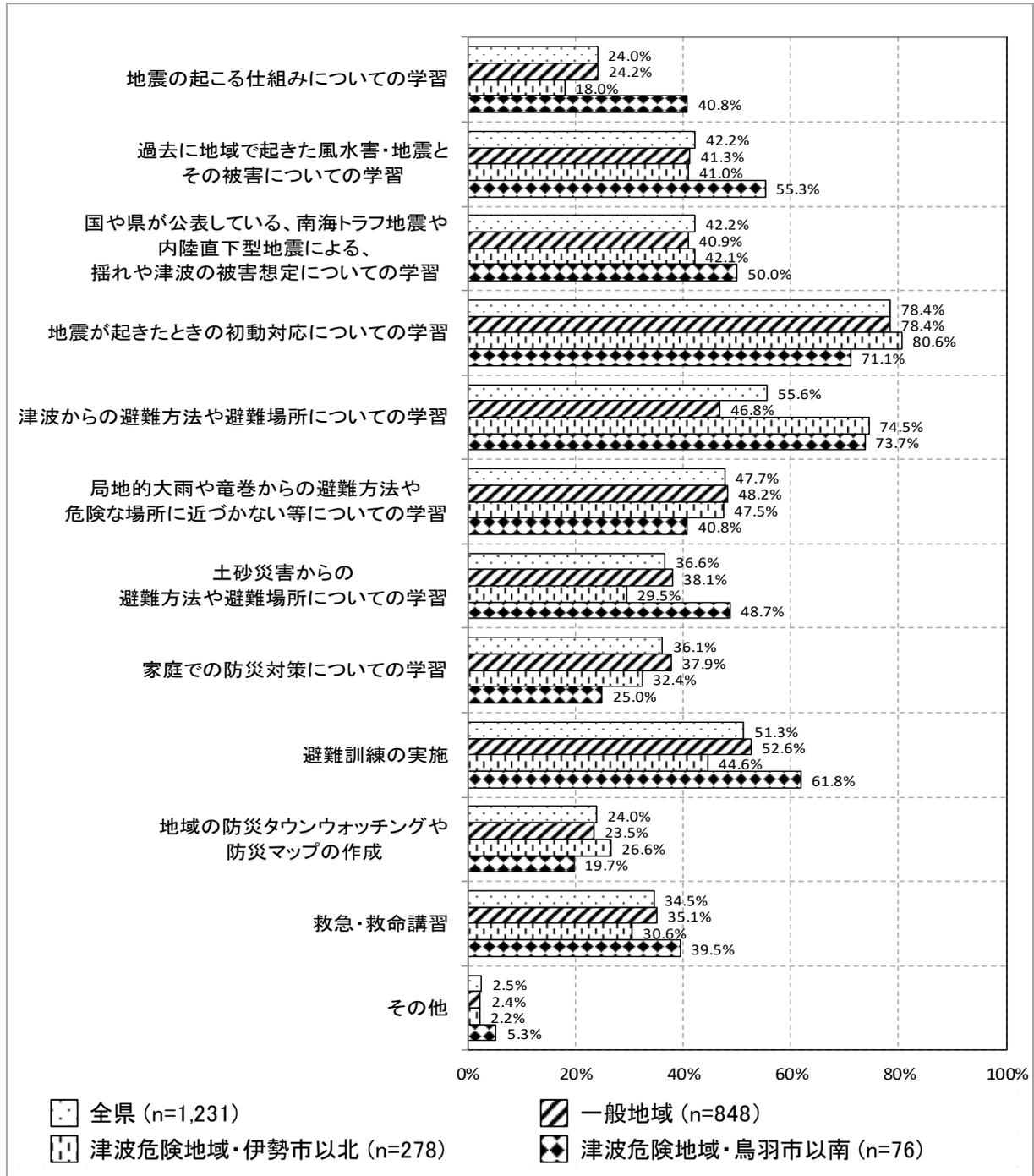
2. 4. 24 防災教育で学校に特に力を入れてほしいもの

【問28】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。
(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習 →問29へ
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他 具体的に：

調査結果

(1) 「地域別」集計結果 (複数回答)



- 全県では「地震が起きたときの初動対応についての学習」と答えた方の割合が78.4%と最も高くなり、次いで「津波からの避難方法や避難場所についての学習」が55.6%、「避難訓練の実施」が51.3%となっています。
- 津波危険地域（鳥羽市以南）では、「過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習」と答えた方の割合が、全県よりも13.1ポイント高く、「土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習」と答えた方の割合が、全県よりも12.1ポイント高く、「避難訓練の実施」と答えた方の割合が、全県よりも10.5ポイント高い結果となっています。

2. 4. 25 防災に関する啓発活動等の認知度

【問 29】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。（いくつでも○）

1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある
2. 地震体験車に乗ったことがある
3. みえ防災・減災センターが公開している「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある
4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴したことがある
5. 1959年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている
6. 1944年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震・津波対策の日(12月7日)」を知っている

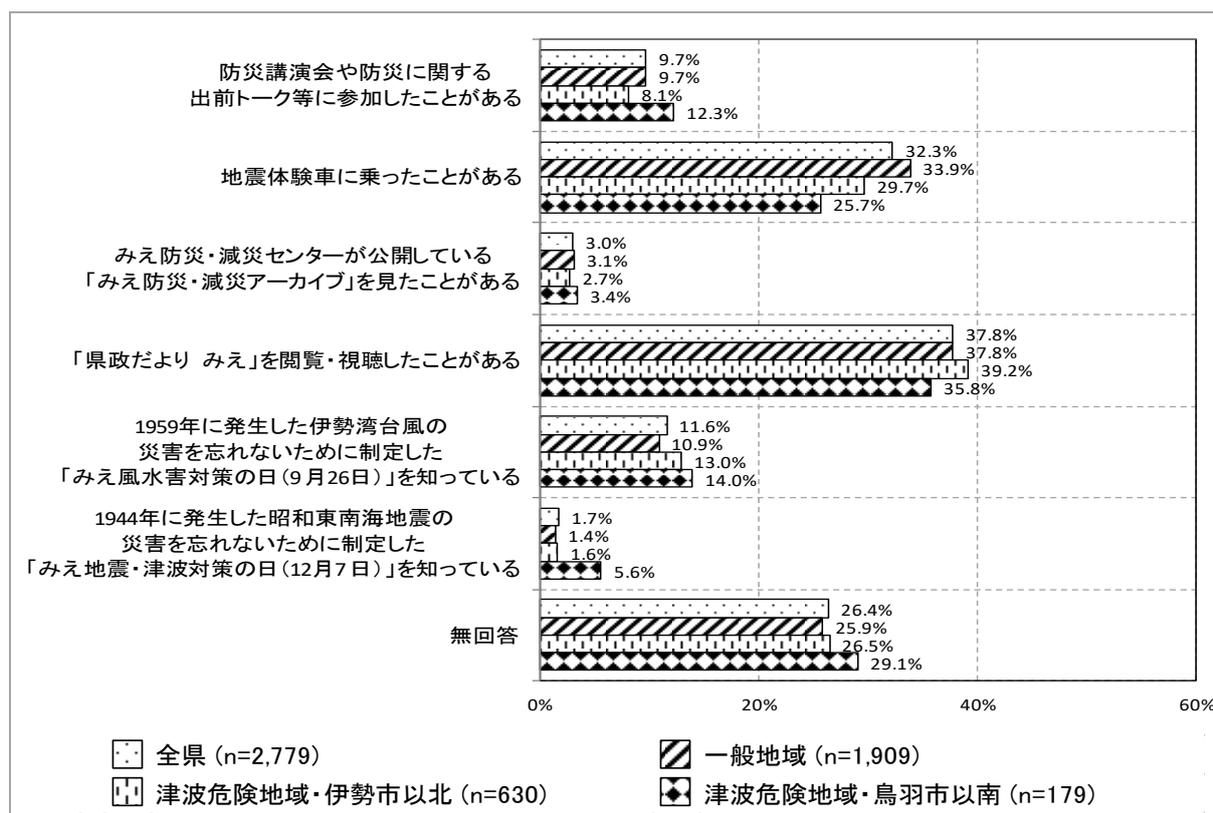
→問 29-1 へ

→問 29-2 へ

→問 30 へ

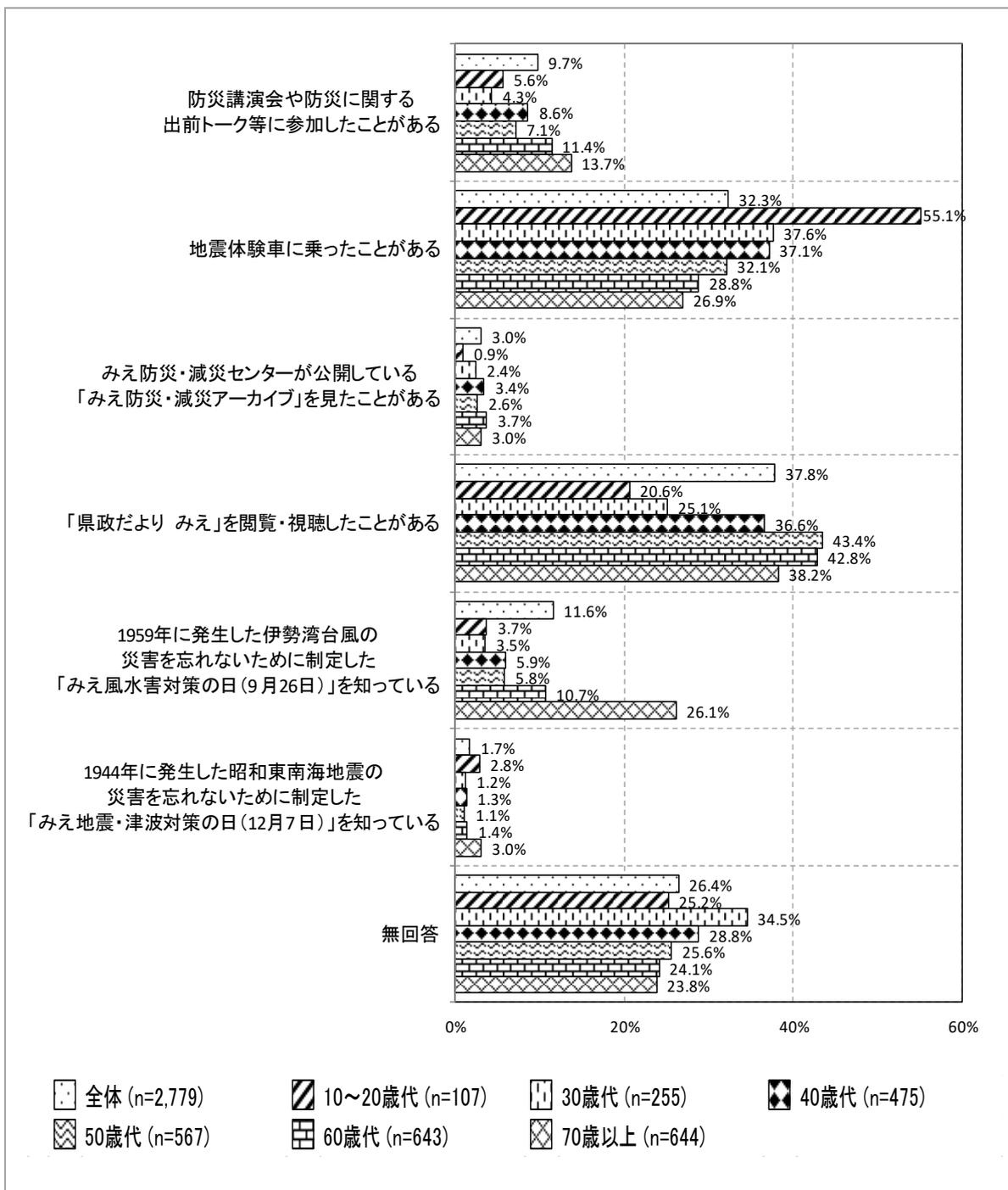
調査結果

(1) 「地域別」集計結果（複数回答）



- ・『「県政だより みえ」を閲覧・視聴したことがある』と答えた方の割合は37.8%と最も高くなっています。次いで「地震体験車に乗ったことがある」が32.3%となっています。

(2) 「年代別」集計結果 (複数回答)



- 10～20 歳代では、「地震体験車に乗ったことがある」と答えた方の割合が 55.1%と最も高くなり、全体の 32.3%より 22.8 ポイント高くなっています。一方、「『県政だより みえ』を閲覧・視聴したことがある」と答えた方の割合は 20.6%となり、全体の 37.8%より 17.2 ポイント低くなっています。
- 70 歳以上では、「1959 年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した『みえ風水害対策の日(9 月 26 日)』を知っている」と答えた方の割合は 26.1%となり、全体の 11.6%より 14.5 ポイント高くなった一方、「1944 年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した『みえ地震・津波対策の日(12 月 7 日)』を知っている」と答えた方の割合は 3.0%となっています。

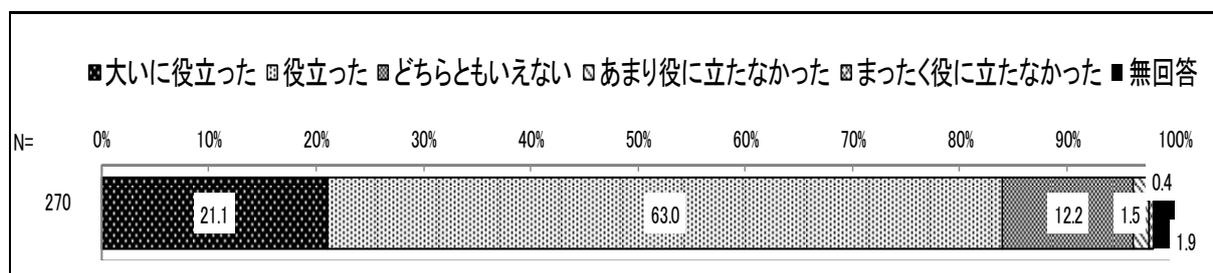
2. 4. 26 防災啓発の防災意識向上への貢献度

【問 29-1】 問 29 で、「1.防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある」と回答された方にお尋ねします。この防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ〇)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問30へ

調査結果



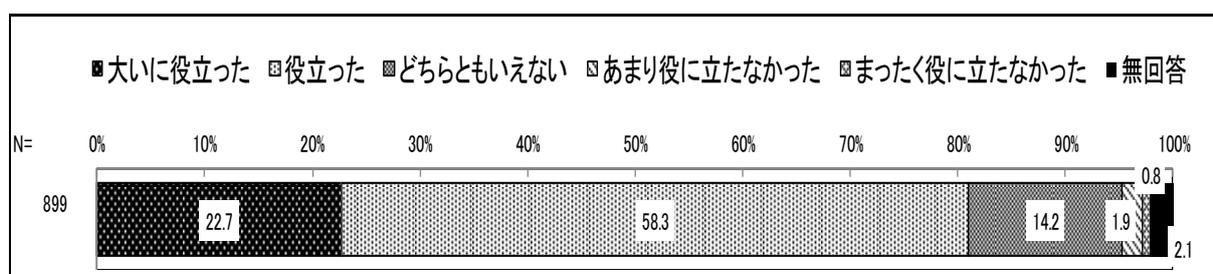
・「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、84.1%となっています。

【問 29-2】 問 29 で、「2.地震体験車に乗ったことがある」と回答された方にお尋ねします。この防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ〇)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問30へ

調査結果



・「大いに役立った」「役立った」と答えた方の割合の合計は、81.0%となっています。

2. 5 あなたのお住まいの耐震化について

2. 5. 1 住まいの状況

【問 30】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ〇)

※増築等がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）
2. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造以外の家）
3. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降に敷地内で建て替え）
4. 一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築）
5. アパート・マンション等の集合住宅

→問 31 へ

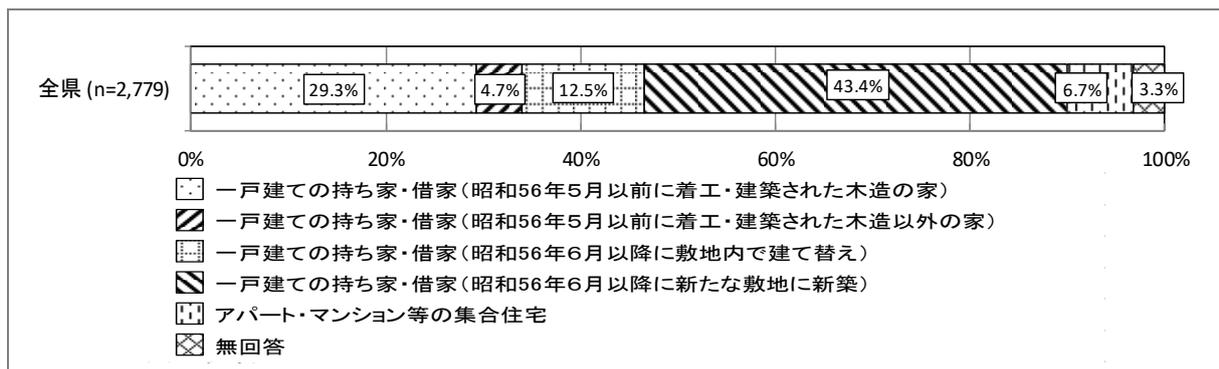
→問 32 へ

→質問終了です

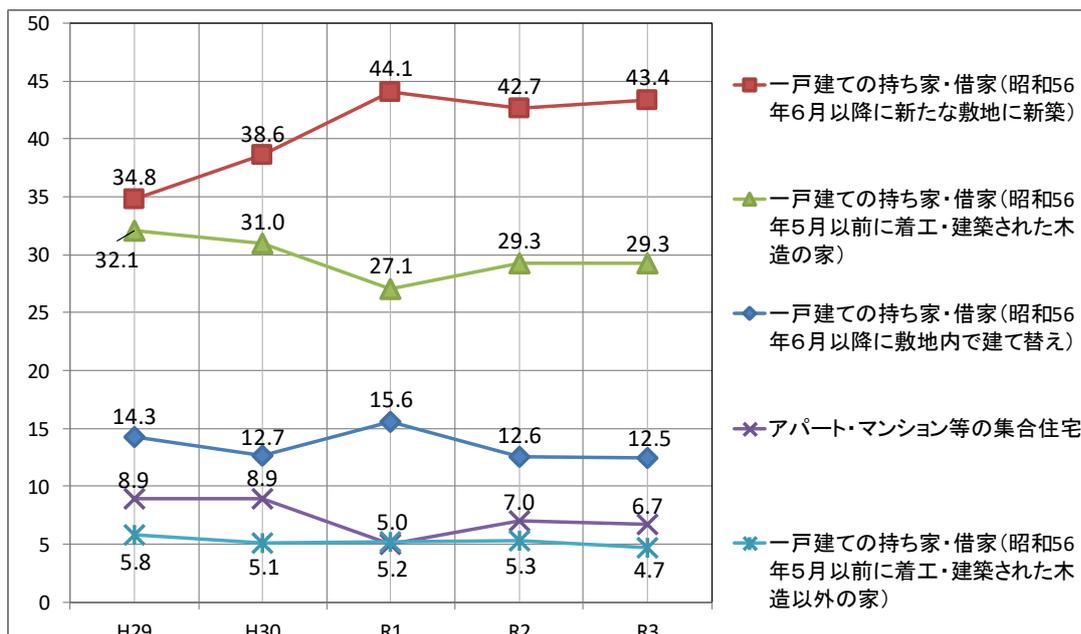
→質問終了です

調査結果

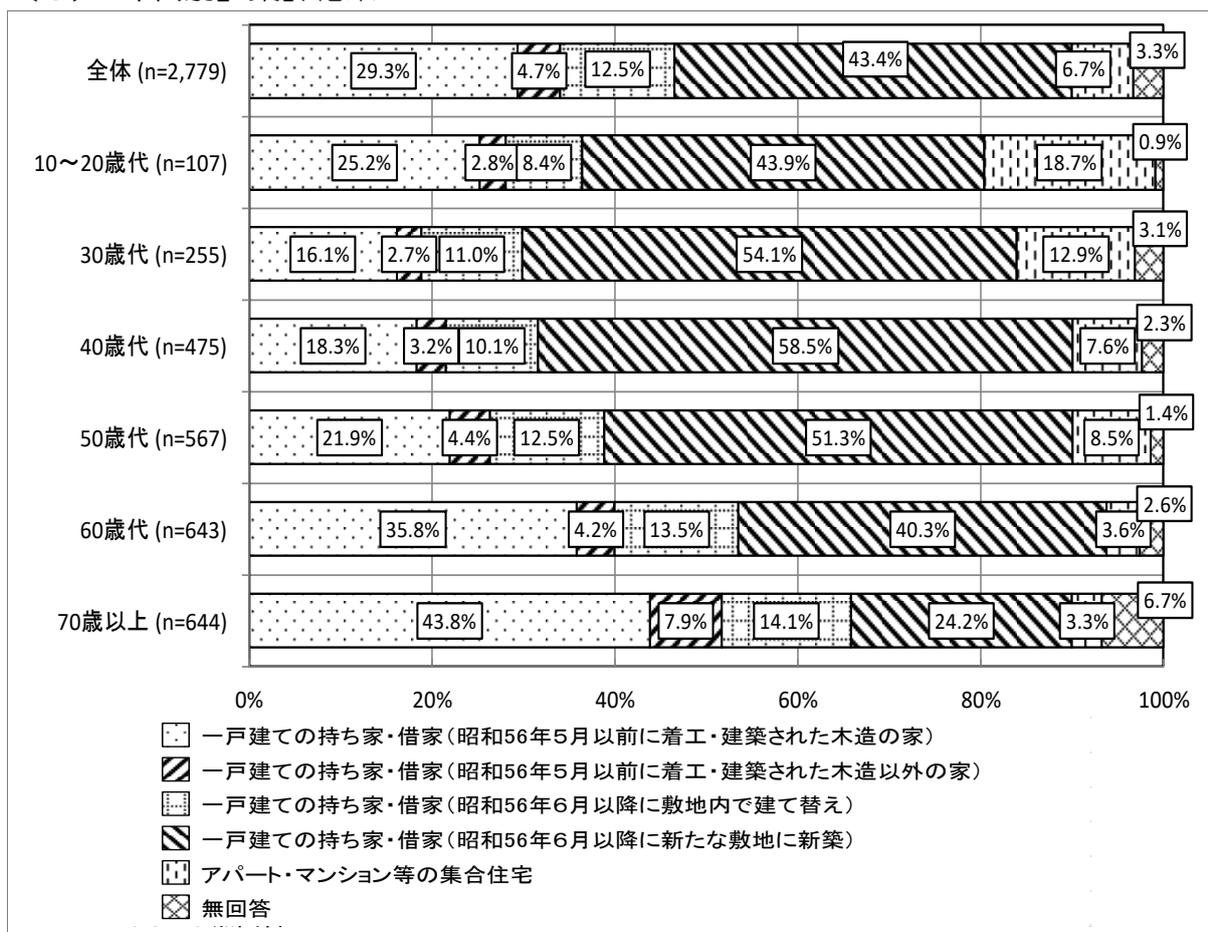
(1) 集計結果



(2) 直近 5 年間の経年変化



(3) 「年代別」集計結果



- 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 5 月以前に着工・建築された木造の家）」と答えた方の割合は、29.3%となり、直近 5 年間では減少していますが、70 歳以上の方は 43.8%と全体よりも 14.5 ポイント高くなっています。
- 「一戸建ての持ち家・借家（昭和 56 年 6 月以降に新たな敷地に新築）」と答えた方の割合は、43.4%となり、直近 5 年間では増加しており、10~20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代では、全体よりも高くなっています。

2. 5. 2 耐震化に向けた補助制度の認知度

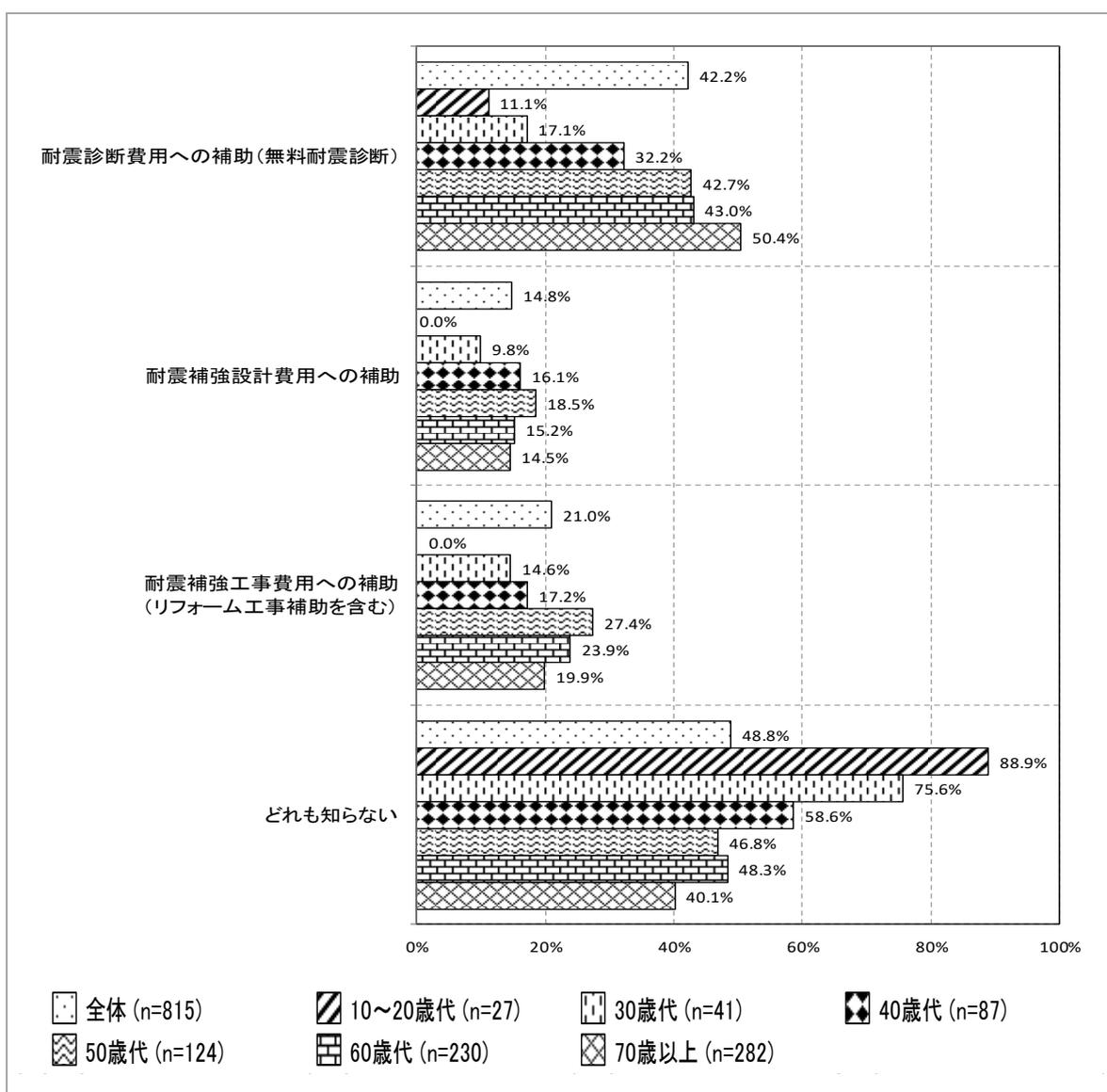
【問31】 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された（着工を含む）木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。（いくつでも〇）

1. 耐震診断費用への補助（無料耐震診断）
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助（リフォーム工事補助を含む）
4. どれも知らない

} →問32へ

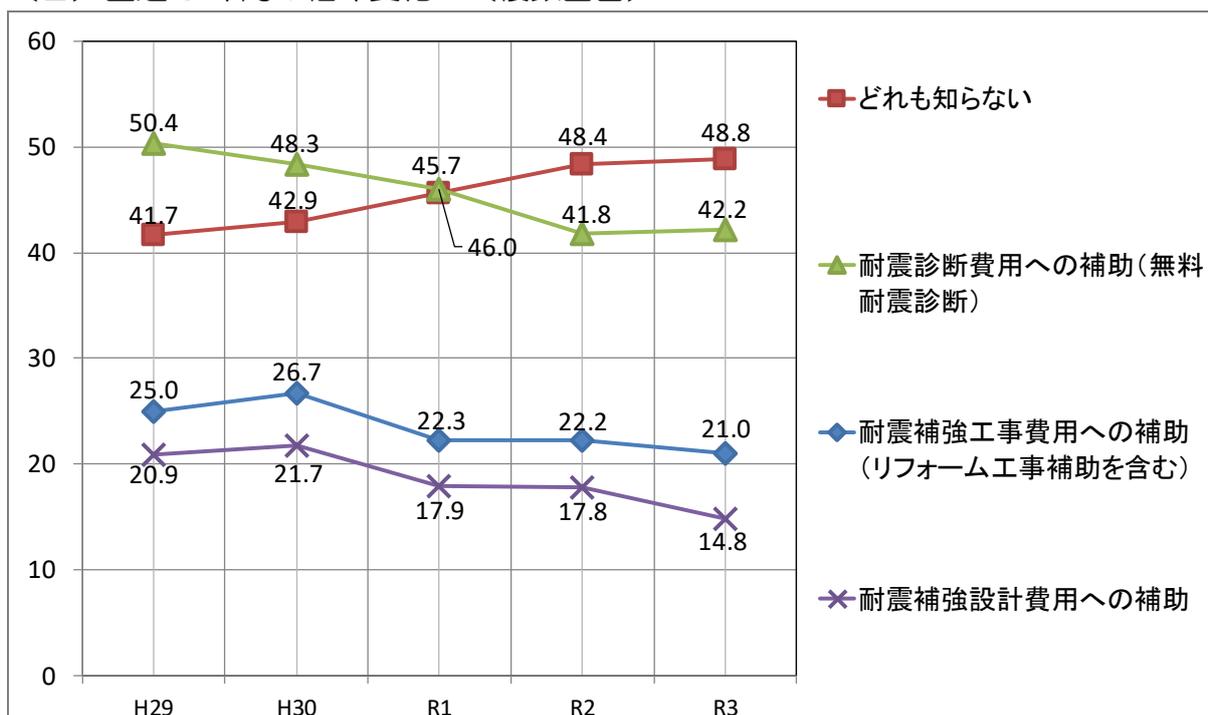
調査結果

(1) 「年代別」集計結果（複数回答）



- 「どれも知らない」と答えた方の割合が最も高く48.8%となり、次いで「耐震診断費用への補助（無料耐震診断）」が42.2%となっています。
- 年代別では特に10~20歳代では「どれも知らない」と答えた方の割合が88.9%と全体よりも40.1ポイント高くなっています。

(2) 直近5年間の経年変化 (複数回答)



・「耐震診断費用への補助(無料耐震診断)」と答えた方の割合は減少しているとともに、「どれもしらない」と答えた方の割合は増加しています。

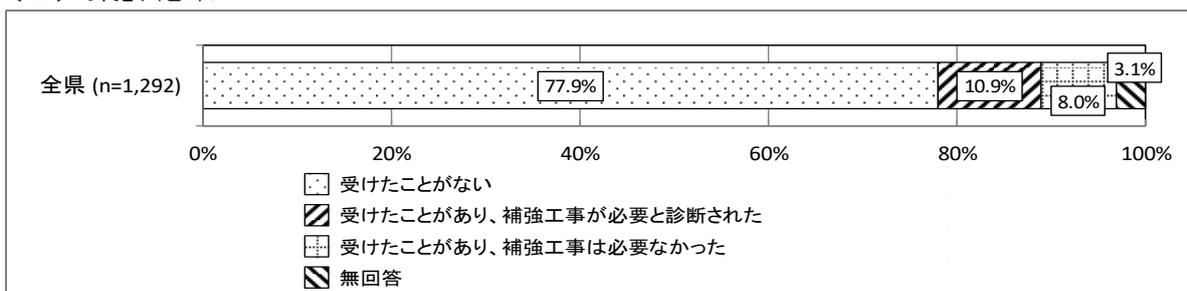
2. 5. 3 耐震診断の受診の有無と診断結果

【問 32】 あなたのご自宅(同じ敷地内で建替えを行った場合、建替え前の住宅を含む、借家も含む)は、耐震診断を受けたことがありますか。受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない → 問 35 へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された → 問 32-1 へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった → 質問終了です

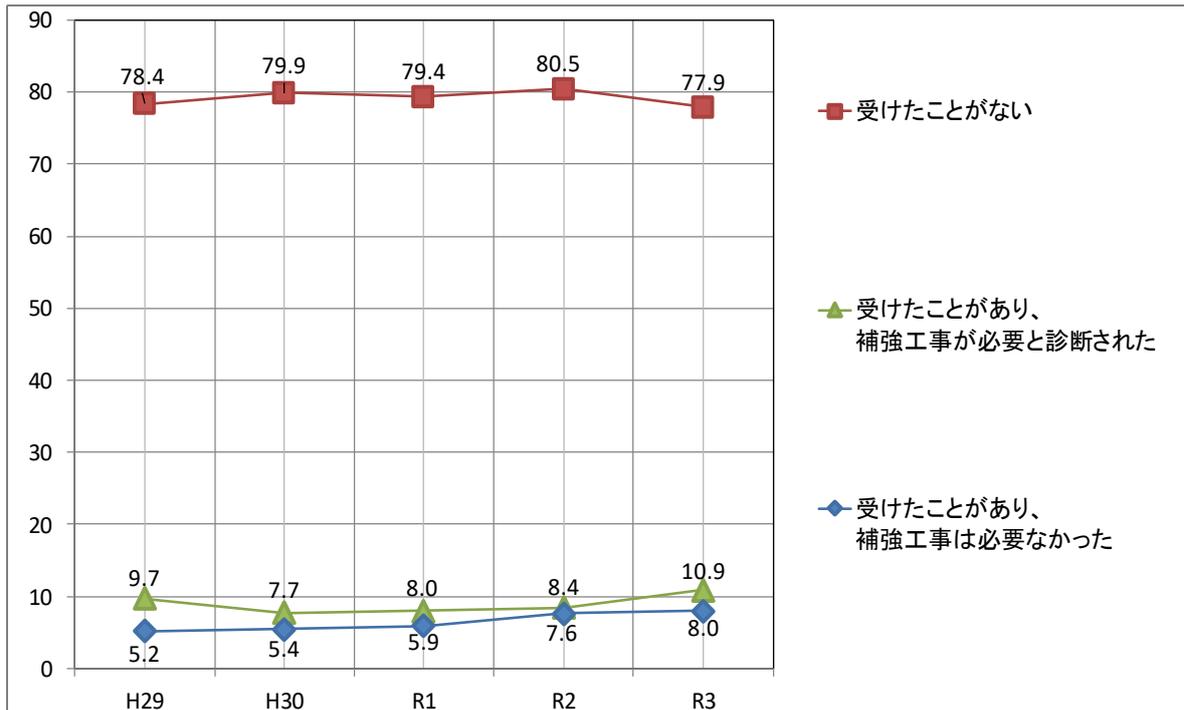
調査結果

(1) 集計結果



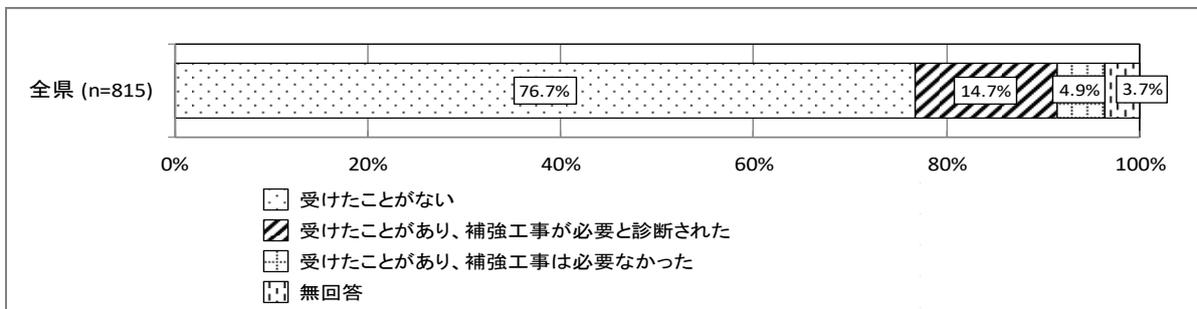
・「受けたことがない」と答えた方の割合は 77.9%となっています。

(2) 直近5年間の経年変化



・直近5年間の経年変化をみた場合、大きな変化はありません。

(3) 「問30で1『一戸建ての持ち家・借家（昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家）』を選択した方」とのクロス集計



・「受けたことがない」と答えた方の割合は76.7%となっています。

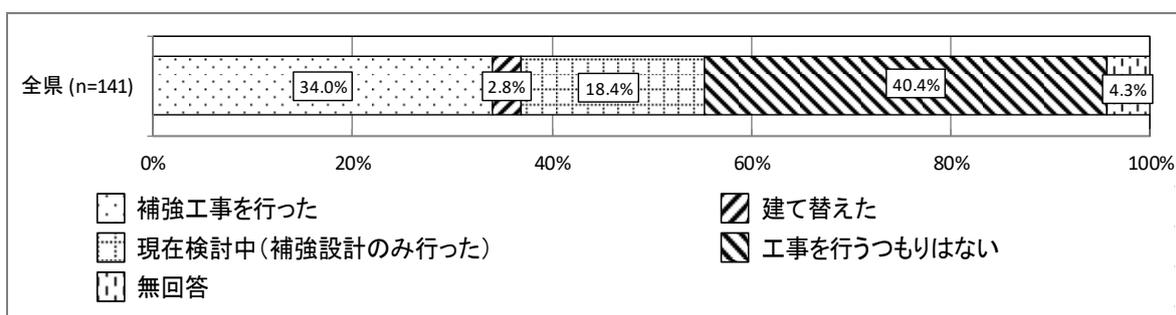
2. 5. 4 補強工事を実施したか

【問 32-1】 問 32 で、「2.受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。 (一つだけ〇)

- | | |
|---------------------|-----------|
| 1. 補強工事を行った | →問 33 へ |
| 2. 建て替えた | →質問終了です |
| 3. 現在検討中(補強設計のみ行った) | } →問 34 へ |
| 4. 工事を行うつもりはない | |

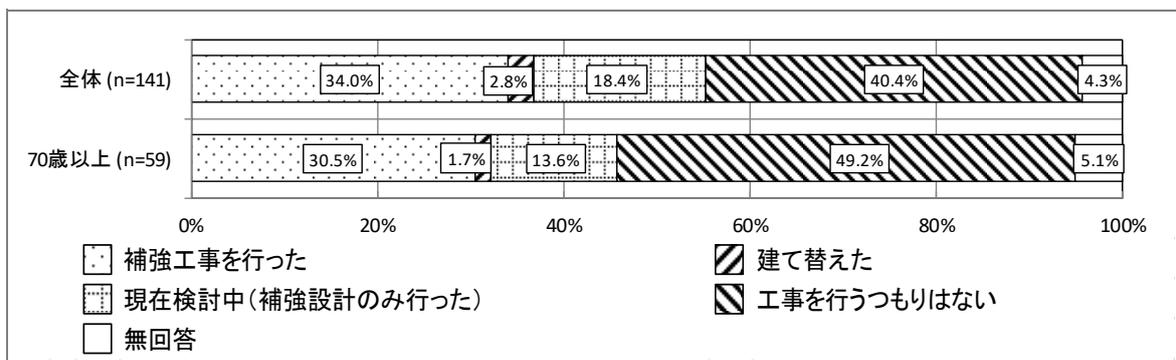
調査結果

(1) 集計結果



- 「補強工事を行った」と答えた方の割合が 34.0%、「建て替えた」が 2.8%と、耐震補強が必要と診断されたと答えた方の 36.8%が住宅の耐震化を行った結果となっています。

(2) 「70 歳以上」集計結果



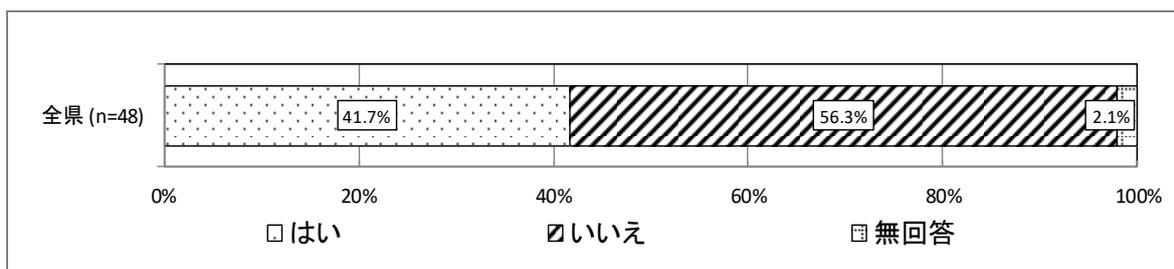
- 「補強工事を行った」と答えた方の割合が 30.5%、「建て替えた」が 1.7%と、耐震補強が必要と診断された方の 32.2%が住宅の耐震化を行っており、全体と比較し 4.6 ポイント低い結果となっています。

2. 5. 5 補強工事の補助制度を利用したか

- 【問 33】 問 32-1 で、「1.補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。
耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。
(一つだけ〇)
1. はい →質問終了です
2. いいえ →問 33-1 へ

調査結果

(1) 集計結果



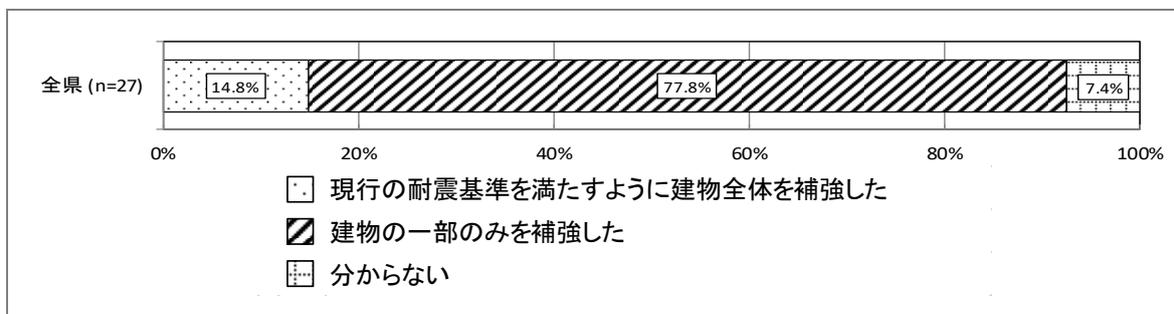
- 補助制度の利用について「はい」と答えた方の割合は 41.7%となり半数以下となっています。

2. 5. 6 どのような補強工事を行ったか

- 【問 33-1】 問 33 で、「2.いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ〇)
1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からない
- } →問 33-2 へ
→質問終了です

調査結果

(1) 集計結果



- 問 33 で「2.いいえ」を選択された方で、「建物の一部のみを補強した」と答えた方の割合は、77.8%となっています。

2. 5. 7 補強工事を行った時の工事費

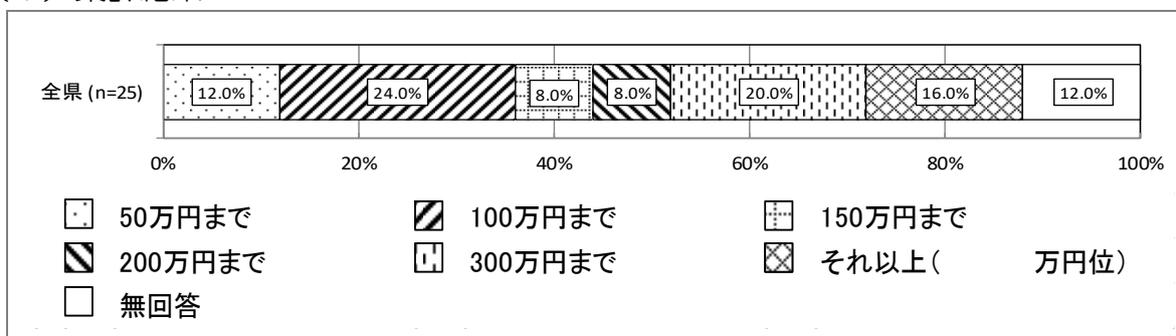
【問 33-2】 問 33-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ〇)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上()万円位

→質問終了です

調査結果

(1) 集計結果



- 問 33-1 で、「1.現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2.建物の一部のみを補強した」と回答された方で、耐震補強工事に要した費用は、「100万円まで」と回答した方の割合が24.0%と最も高くなり、次いで「300万円まで」が20.0%となっています。

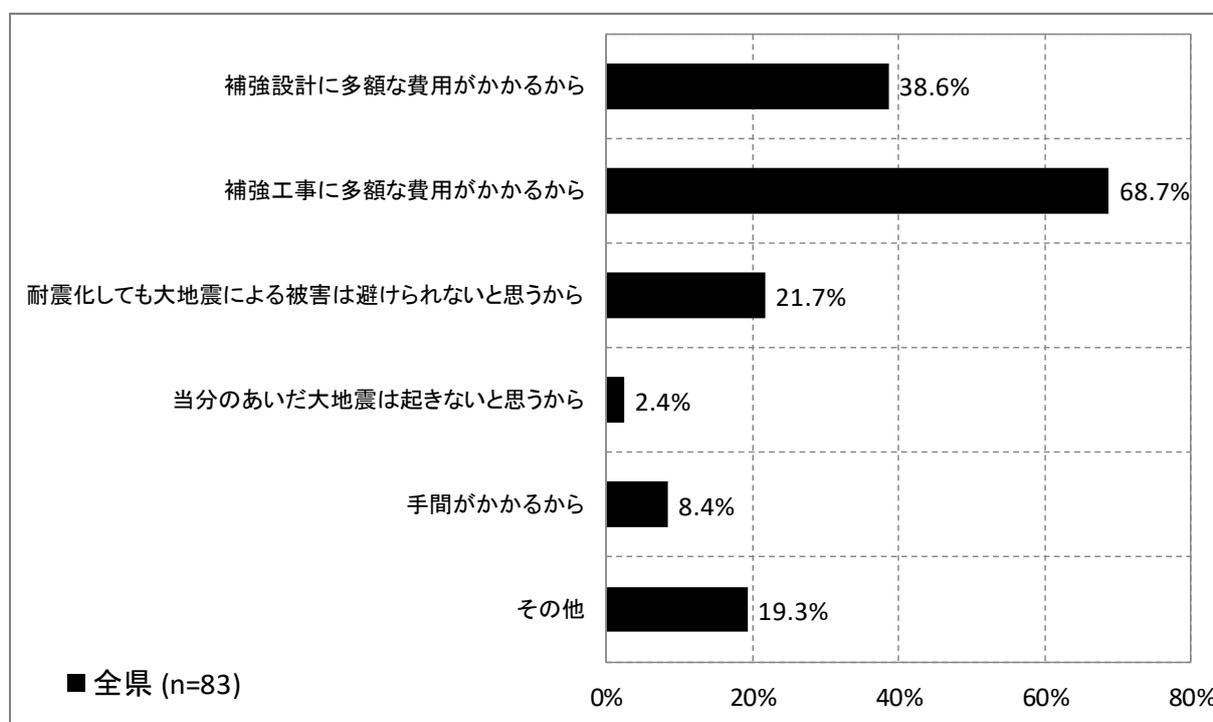
2. 5. 8 耐震補強をしない理由

【問 34】 問 32-1 で、「3.現在検討中（補強設計のみ行った）」、「4.工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。（いくつでも○）

1. 補強設計に多額な費用がかかるから
 2. 補強工事に多額な費用がかかるから
 3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
 4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
 5. 手間がかかるから
 6. その他 具体的に：
- 問 35 へ
- 質問終了です

調査結果

（1）集計結果 （複数回答）



- 耐震補強をしない理由として、「補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の割合が最も高く 68.7%となり、次いで「補強設計に多額な費用がかかるから」が 38.6%となっています。

2. 5. 9 耐震補強工事で許容できる自己負担額

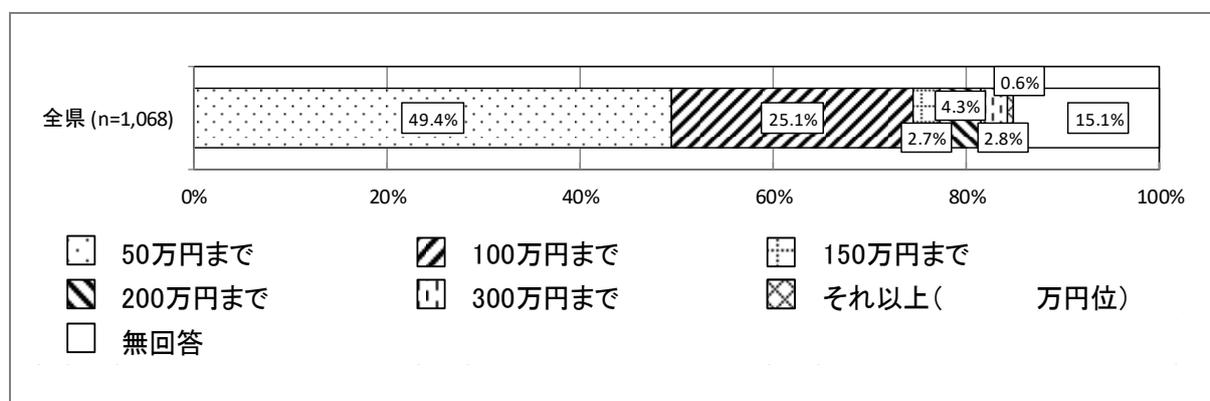
【問 35】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上()万円位

} →問36へ

調査結果

(1) 集計結果



- 耐震補強工事費の許容自己負担額については、「50万円まで」と答えた方の割合が最も高く49.4%となり、次いで「100万円まで」と答えた方の割合が25.1%となっています。

2. 5. 10 一部分のみの耐震補強工事

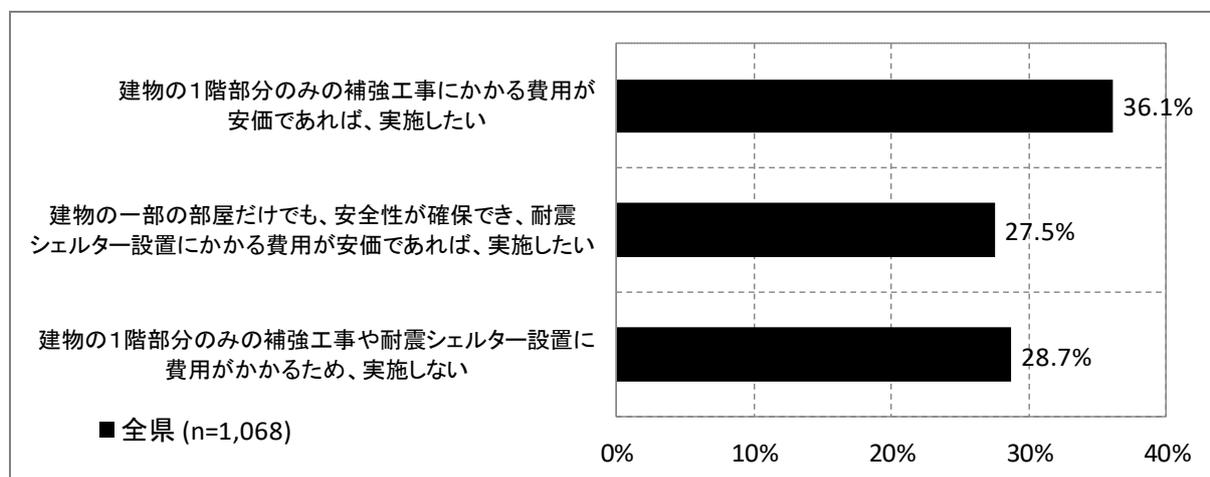
【問 36】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルター（※）を設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、補強したいと思いますか。（いくつでも〇）

1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい
2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安価であれば、実施したい
3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない

→質問終了です

調査結果

(1) 集計結果（複数回答）



- 問 34 で「補強設計に多額な費用がかかるから」「補強工事に多額な費用がかかるから」と答えた方の建物の部分耐震補強工事の実施に関する考え方については、「建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安価であれば、実施したい」と答えた方の割合が36.1%と最も高くなっています。

資料

○津波危険地域一覧

以下の「対象町名」は、三重県が平成24年3月に公表した予測において浸水が想定される町名（部分的な浸水を含む）で、平成24年度の調査の際に各市町確認の上で分類し、「津波危険地域」として統計しました。

市町名	対象町名
津市	白塚町、栗真小川町、栗真中山町、栗真町屋町、一身田中野、一身田豊野、一身田平野、栄町、桜橋、上浜町、江戸橋、島崎町、港町、海岸町、末広町、高洲町、住吉町、藤枝町、津興、藤方、高茶屋小森町、高茶屋小森上野町、雲出本郷町、雲出長常町、雲出伊倉津町、雲出鋼管町、河芸町中別保、河芸町一色、河芸町影重、河芸町上野、河芸町東千里、河芸町中瀬、香良洲町
四日市市	稲葉町、大協町1丁目、大協町2丁目、高砂町、尾上町、千歳町、末広町、東邦町、塩浜町、大字塩浜、石原町、三田町、川合町、天力須賀1丁目、天力須賀2丁目、天力須賀3丁目、天力須賀4丁目、天力須賀5丁目、住吉町、平町、松原町、富州原町、富田一色町、天力須賀新町、富双1丁目、富双2丁目、東富田町、富田1丁目、富田2丁目、富田3丁目、富田4丁目、南富田町、茂福町、東茂福町、富田浜元町、富田浜町、浜園町、霞1丁目、霞2丁目、大字茂福、羽津町、午起3丁目、三郎町、楠町南五味塚、楠町北五味塚、楠町吉崎、楠町小倉
伊勢市	楠部町、下野町、竹ヶ鼻町、神社港、馬瀬町、大湊町、朝熊町、東豊浜町、檜原町、西豊浜町、磯町、有滝町、村松町、東大淀町、二見町松下、二見町江、二見町茶屋、二見町三津、二見町山田原、二見町溝口、二見町荘、二見町西、二見町今一色、二見町光の街、御園町上條、御園町小林、御園町新開
松阪市	大口町、東久保町、新松ヶ島町、町平尾町、獺師町、松崎浦町、松ヶ島町、六軒町、西黒部町、松名瀬町、高須町、東黒部町、柿木原町、土古路町、出間町、大垣内町、蓮花寺町、神守町、牛草町、垣内田町、乙部町、市場庄町、曾原町、中道町、小津町、喜多村新田町、笠松町、星合町、五主町
桑名市	吉之丸、三之丸、片町、江戸町、川口町、船馬町、清水町、宝殿町、春日町、風呂町、本町、北魚町、三崎通、相生町、殿町、田町、南魚町、油町、職人町、宮通、京町、吉津屋町、鍛冶町、入江葎町、紺屋町、内堀、伊賀町、柳原、新屋敷、八幡町、外堀、萱町、伝馬町、新町、一色町、矢田磧、西鍋屋町、北鍋屋町、東鍋屋町、南寺町、北寺町、今片町、堤原、今中町、今北町、太一丸、住吉町、大字赤須賀、大字江場、掛樋、大字大福、大字桑名、大央町、中央町一丁目、中央町三丁目、中央町四丁目、中央町五丁目、新築町、常盤町、京橋町、三栄町、八間通、寿町一丁目、寿町二丁目、寿町三丁目、末広町、桑栄町、有楽町、駅元町、参宮通、蓮見町、福島新町、大字東方、大字播磨、大字東汰上、大字蠣塚新田、大字福島、大字上之輪、大字上深谷部、大字今島、大字安永、大字和泉、大字小泉、大字大貝須、大字小貝須、大字福地、大字福江、大字地藏、大字東野、大字萱町、大字立田町、大字太平町、大字福岡町、長島町長島萱町、長島町長島中町、長島町長島下町、長島町又木、長島町源部外面、長島町殿名、長島町東殿名、長島町押付、長島町小島、長島町大倉、長島町出口、長島町間々、長島町高座、長島町中川、長島町平方、長島町西外面、長島町十日外面、長島町大島、長島町駒江、長島町松ヶ島、長島町千倉、長島町下坂手、長島町上坂手、長島町杉江、長島町松之木、長島町新所、長島町西川、長島町鎌ヶ地、長島町葎ヶ須、長島町赤地、長島町福豊、長島町福吉、長島町白鷄、長島町横満蔵、長島町松蔭、長島町浦安、長島町老松
鈴鹿市	寺家町、寺家1丁目、寺家2丁目、寺家3丁目、寺家4丁目、白子1丁目、白子本町、江島本町、東江島町、南長太町、長太新町3丁目、長太新町4丁目、長太旭町6丁目、長太栄町4丁目、長太栄町5丁目、中箕田町、北堀江町、下箕田町、下箕田1丁目、下箕田2丁目、下箕田3丁目、南若松町、北若松町、若松中1丁目、若松東1丁目、若松東2丁目、若松東3丁目、若松北3丁目、磯山町、東磯山1丁目、東磯山2丁目、東磯山3丁目、東磯山4丁目、磯山1丁目、磯山2丁目、磯山3丁目

市町名	対象町名
尾鷲市	林町、中央町、朝日町、港町、中井町、栄町、中村町、野地町、坂場町、宮ノ上町、北浦町、大字天満浦、大字向井、大字大曾根浦、大字行野浦、須賀利町、九鬼町、早田町、三木里町、名柄町、小脇町、三木浦町、古江町、賀田町、曾根町、梶賀町、小川東町、瀬木山町、中川、矢浜1丁目、矢浜3丁目、矢浜4丁目、北浦西町、北浦東町、矢浜大道、国市松泉町
鳥羽市	鳥羽1丁目、鳥羽2丁目、鳥羽3丁目、鳥羽4丁目、鳥羽5丁目、小浜町、堅神町、池上町、安楽島町、大明東町、大明西町、船津町、相差町、国崎町、畔蛸町、千賀町、堅子町、石鏡町、浦村町、桃取町、答志町、菅島町、神島町、坂手町
熊野市	須野町、甫母町、二木島里町、二木島町、遊木町、新鹿町、波田須町、磯崎町、大泊町、木本町、井戸町、有馬町、久生屋町
志摩市	阿児町鶴方、阿児町神明、阿児町立神、阿児町志島、阿児町甲賀、阿児町国府、阿児町安乗、浜島町浜島、浜島町南張、浜島町檜山路、浜島町塩屋、浜島町迫子、大王町波切、大王町船越、大王町畔名、大王町名田、志摩町片田、志摩町布施田、志摩町和具、志摩町越賀、志摩町御座、磯部町下之郷、磯部町飯浜、磯部町六川、磯部町坂崎、磯部町の矢、磯部町三ヶ所、磯部町渡鹿野
桑名郡木曾岬町	全域
三重郡朝日町	大字縄生、大字小向、大字柿
三重郡川越町	全域
多気郡明和町	大字川尻、大字北藤原、大字浜田、大字八木戸、大字根倉、大字養川、大字中村、大字南藤原、大字内座、大字大堀川新田、大字大淀甲、大字大淀乙、大字山大淀、大字大淀
度会郡大紀町	錦
度会郡南伊勢町	五ヶ所浦、船越、中津浜浦、飯満、内瀬、伊勢路、迫間浦、礪浦、相賀浦、田曾浦、宿浦、泉、神津佐、下津浦、木谷、棚橋竈、新桑竈、古和浦、栃木竈、小方竈、方座浦、神前浦、村山、河内、東宮、奈屋浦、贅浦、慥柄浦、道方、大江、道行竈、阿曾浦、大方竈
北牟婁郡紀北町	三浦、道瀬、海野、長島、東長島、相賀、引本浦、矢口浦、白浦、島勝浦、古里
南牟婁郡御浜町	大字阿田和、大字下市木、大字志原
南牟婁郡紀宝町	井田、鶴殿、北檜杖、成川、鮎田

防災に関する県民意識調査

調査目的

このたび、この調査票をお受け取りいただいたあなたに、令和3年度の「防災に関する県民意識調査」への協力をお願いすることになりました。

この調査は、県内市町の選挙人名簿から18歳以上の県民の皆さん5,000人を無作為に抽出し、皆さんの防災に関する意識を把握して、今後の三重県の防災対策に活用することを目的に行います。

平成23年に東北地方を始めとする多数の県に甚大な被害をもたらした東日本大震災、平成28年の熊本地震、さらに平成30年7月豪雨、令和2年7月豪雨のように、毎年、全国各地に被害をもたらしている地震や風水害などの自然災害は、私たちが生きていくうえで逃れようのないものです。

このような今後も起こりうる自然災害による被害を最小限に抑えるためには、県民の皆さんを始め、自主防災組織、消防団、事業者、行政等がそれぞれ「自助」・「共助」・「公助」の責務と役割を理解し、お互いに連携して“災害に備える”ために「防災の日常化」をめざすことが大切です。

そのため、三重県では防災対策を県政の最重要課題に掲げ、今後30年以内に70～80%の確率で発生が予想される南海トラフ地震や、年々激化の様相を見せる風水害への“備え”を重点的に進めているところです。

この調査は、今後、三重県が防災施策を適切に進めるにあたって、重要な基礎データとなるものです。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、本調査にご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容は、防災に関する県民意識の調査のみを目的に、個人を特定しない統計情報として利用するものであることをお知らせします。

令和3年11月

三重県防災対策部

調査機関 (お問い合わせ先)	
三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班	
電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp	

一 ご記入にあたってのお願い

1. この調査は、できるだけあて名にある「ご本人」がお答えください。(※)
 (※) ご本人様による回答が難しい場合は、ご家族やお知り合いの方等がご自身の立場で
 ご記入いただけますようご協力をお願いいたします。
2. 回答は、直接、調査票にご記入ください。
3. 選択肢の中から当てはまるものを選び、その番号を○で囲んでください。
 ただし、問17-1、問17-2については、設問の指示に従ってください。
 また、「その他()」に当てはまる場合には、ご面倒ですが詳しく
 ご記入ください。
4. 回答によっては、次の質問を飛ばしていくところがありますので、ご注意
 ください。
5. 回答いただいた調査票は、11月18日(木)までに同封の返信用封筒に入
 れ、切手を貼らずに郵便ポストへ投函してください。
6. この調査に関するご質問は、下記に記載の調査機関までお問い合わせいた
 だきますようお願いいたします。

「防災みえ」からのお知らせや、過去の調査結果を見ることができます。
<http://www.bosaimie.jp/>

調査機関 (お問い合わせ先)	三重県防災対策部 防災企画・地域支援課 防災企画班 電話 059-224-2184 ファクス 059-224-2199 e-mail bosai@pref.mie.lg.jp
-------------------	---

【問2-2】 問2で、「2. しばらく様子を見てから避難する」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難を遅らせる主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. テレビ等で地震の規模や津波の危険性等を確認してから避難の必要性を検討するから
2. 市町から津波に対する避難指示が出た段階で避難を検討するから
3. 避難場所の安全を確認するから
4. 近所の人たちと相談して避難の必要性を検討するから
5. 電気やガス、水道が止まり、生活できなくなってから避難を検討するから
6. 電気やガス等火災原因となるものの安全確認をするから
7. その他【具体的に：】

→問3へ

【問2-3】 問2で、「3. 避難しない」と回答された方にお尋ねします。あなたが避難しない主な理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感じるから
5. 内陸地であるから
6. 自宅が安全だから
7. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
8. 家や家財を喪失して避難することに抵抗があるから
9. ベントを喪失して避難することに抵抗があるから
10. 面倒だから
11. その他【具体的に：】

→問3へ

このアンケートでは、避難場所と避難所の用語について、次のとおり併記しています。
 避難場所：津波や大規模火災等から緊急かつ一時的に避難するための場所
 避難所：災害により短期間の避難生活を余儀なくされた場合に、一定期間の避難生活を行う建物（避難所が避難場所を兼ねている場合もあります。）

【問3】 三重県では、「三重県地震被害想定調査結果」として、各地の震度予測や津波浸水予測等を公表しています。あなたは、この調査結果をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 県のホームページで確認し、調査結果を知っている
2. 防災訓練や研修会等で教えてもらい、ある程度知っている
3. テレビや新聞等で、概要は知っている
4. 地震被害想定調査をしたことは知っているが、内容は知らない
5. 地震被害想定調査が行われたことを知らなかった

→問4へ

※「三重県地震被害想定調査結果」では、津波浸水予測図のほか、津波からの避難行動がとれなくなる“津波により浸水深30cmに到達するまでの到達予測時間分布図”を公表しています。

【問4】 平成28年には熊本地震、平成30年には大阪府北部を震源とする地震や北海道胆振東部地震が発生しましたが、これらの地震を受け、あなたはお住まいの地域での内陸直下型地震の危険性についてどの程度知っていますか。(一つだけ○)

1. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生する以前から、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知っていた
2. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生して、内陸直下型地震の危険性を実感したので、情報収集を行い、自宅周辺で活断層が近くにあること（または、ないこと）を知った
3. 熊本地震・大阪府北部を震源とする地震・北海道胆振東部地震が発生してから、内陸直下型地震の危険性を実感したが、自宅周辺に活断層があるかどうか、確認することはしていない
4. 内陸直下型地震の危険性について、あまり知らない、またはあまり考えないことがない

→問5へ

※内陸直下型地震、内陸部にある活断層で発生する、震源の浅い地震
 ※なお、現在活断層が確認されていない場所であっても、後の調査・研究で新たに活断層が発見されることもあります。

【問5】 「南海トラフ地震臨時情報」について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
2. テレビ番組の解説等で、どのような情報が聞いたことがある
3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報が知らない
4. 知らない

→問6へ

※「南海トラフ地震臨時情報」：南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、この情報の発表条件は以下のとおりです。

「南海トラフ地震臨時情報」

- ・南海トラフ沿いで異常な現象が観測され、その現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
 - ・観測された異常な現象の調査結果を発表する場合
- (南海トラフ地震臨時情報について <https://www.esof.nis.go.jp/STAISSHUKU/HP/e099500047.htm>)

～風水害対策について～

【問6】 平成23年の紀伊半島大水害から10年あまりが経過し、近年では平成30年7月豪雨、令和元年東日本台風（台風第19号）、令和2年7月豪雨といった大規模な風水害に加え、今年も全国各地で風水害が発生していますが、この一連の風水害を受け、あなたの防災意識に変化はありますか。（一つだけ○）

1. 平成23年当時から、変わらず高い防災意識を持ち続けている
2. 平成23年当時に持った危機意識を今も変わらず持ち続けている（またはさらに高まった）
3. 平成23年当時には危機意識を持ったが、時間の経過とともに危機意識が薄れつつある
4. 平成23年当時には危機意識を持ち、その後、時間の経過とともに危機意識が薄れつつあったが、近年頻発する風水害により、再び高まった
5. 平成23年当時は危機意識を持っていなかったが、近年頻発する風水害により、危機意識が高まった。
6. 平成23年当時から、近年頻発する風水害発生時にも、特に危機意識は持たなかった

→問7へ

【問7】 令和3年5月から災害に関係する避難情報が変更になり、5段階の「警戒レベル」が付与されることになりました。この「警戒レベル」について、あなたはどの程度ご存じですか。（一つだけ○）

1. どのような情報かインターネットやパンフレット等で確認し、よく知っている
2. テレビ番組の解説等で、どのような情報が聞いたことがある
3. 耳にしたことはあるが、具体的にどのような情報が知らない
4. 知らない

→問8へ

※警戒レベル：
災害発生のおそれの高まりに応じて、住民がとるべき行動を段階に分けたもので、高齢者等避難は「警戒レベル3」、避難指示は「警戒レベル4」となります。「種」を「種」けるため「自らの命は自らが守る」という意識で、警戒レベル4までに避難することが必要です。
（避難情報が新しくなります。 <https://www.pref.saij.go.jp/SATIS/00000004.html>）

【問8】 あなたがお住まいの地域の風水害（高瀬や川のはん蓋、土石流、がけ崩れ、地すべり等）の危険性について、どの程度ご存じですか。（いくつでも○）

1. 高瀬による浸水の危険性を知っている
2. 川のはん蓋による浸水の危険性を知っている
3. 内水はん蓋による浸水の危険性を知っている
4. 自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている
5. 自分の家が浸水や土砂災害の被害を受けることがない、安全な場所にあることを知っている
6. 地域の風水害の危険性について、あまり知らないまたはあまり考えなかったことがない

※内水はん蓋：
局地的大雨等で下水道管や小河川の水位が増加し、堤防から水が溢れなくなると河川へ浸水する川や下水道の排水能力の不足などが原因で、降った雨を処理できずに建物や土壌、道路等が浸水する風水害

5

【問8-1】 問8で、「1.高瀬による浸水の危険性があることを知っている」、「2.川のはん蓋による浸水の危険性があることを知っている」、「3.内水はん蓋による浸水の危険性があることを知っている」、「4.自分の家が土砂災害の危険性がある地域内またはその近くにあることを知っている」と回答された方にお尋ねします。あなたのお住まいの地域に危険があることを何でお知りになりましたか。（いくつでも○）

1. 過去に災害を経験しており、危険性を知っている
2. 行政機関が作成したハザードマップ等で危険箇所を知っている
3. 地域の住民から危険箇所であることを教えてもらい、知っている
4. その他（具体的に：）

→問9へ

【問9】 あなたのお住まいの地域で、これまでに経験のない大雨が急に降り出し、降り続いたとします。あなたは、このような状況において、どのような避難行動を取りますか。（一つだけ○）

1. 気象情報や周辺の様子を確認して、避難する
2. 市町から「警戒レベル3（高齢者等避難）」、「警戒レベル4（避難指示）」等が出されてから避難する
 - ※ 親戚・知人宅への避難や、車中避難を含む
3. 避難行動をとることができない（理由：）
 - ※ 避難行動に家族等の支援を必要とする等
4. 避難の必要がない（理由：）
 - ※ 行政機関が作成した防災マップの危険区域外に居住している等
5. 避難を考えない（理由：）
 - ※ 避難するのが面倒だ、避難について考えたことがない等

→問10へ

【問10】 あなたは、台風や大雨等による避難指示等がお住まいの地域に発令される等、身の回りに危険が近づいている状況で、自宅から離れた安全な場所に避難した経験がありますか。（一つだけ○）

1. 避難したことがある
2. 避難したことがない
3. そのような状況を経験したことがない

→問11へ

→問10-1へ

→問11へ

【問 10-1】 問 10 で、「2. 避難したことがない」と回答された方にお尋ねします。あなたが台風時等に避難しない理由として最もあてはまるものは次のうちどれですか。(一つだけ○)

1. 最寄りの避難場所や避難所を知らないから
2. 避難場所や避難所までの避難路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 避難所での生活は、自宅に比べて不便・不自由と感ずるから
5. 自宅が安全だから (または、自宅の2階以上が安全であり、そこに移動するから)
6. 介護が必要等、避難が困難な家族がいるから
7. 家や家財を壊して避難することに抵抗があるから
8. ペットを壊して避難することに抵抗があるから
9. 面倒だから
10. その他 (具体的に:)

→問 11 へ

～防災全般について～

★日頃の防災対策についてお尋ねします。

【問 11】 あなたの家では災害に備えて、どんな防災対策を行っていますか。(いくつでも○)

1. 3日分以上の飲料水を備蓄している (ご家族ひとり一日あたり3リットルとして計算してください)
2. 3日分以上の食料を常に確保している
3. マスクや消毒液等、感染症対策に必要な物品を確保している
4. 懐中電灯や携帯ラジオ等を入れた非常持ち出し袋を準備している
5. 災害が起きたとき避難する場所を決めている
6. 災害用伝言ダイヤル (171) や携帯電話各社の災害用伝言板サービスの活用等、家族間の連絡方法を決めている
7. 家族がはなればなれになったときの待ち合わせ場所を決めている
8. 携帯電話やスマートフォンの子機電源を確保している
9. 自家用車の燃料計が半分程度になった時点で、給油をしている
10. お風呂にいつも水を入れておく
11. ガラスが割れて飛び散らないよう対策をしている
12. 消火器を用意している
13. 懐中電灯や携帯ラジオ等を置く場所を決め準備しており、電池交換等、こまめに点検している
14. 枕元にスリッパを置いておく
15. いつも笛を身につけている
16. 本棚や食器棚等から物が飛び出ないようにしている
17. 寝室に転倒の危険性のある家具類等を置かないようにしている
18. 地震・高潮・洪水等の自然災害に対応した保険に加入している
19. 感震ブレーカーを設置している
20. ペットの餌や水、ケージ等、ペットの防災用品の準備や、避難先の検討等を行っている
21. その他 (具体的に:)

22. 特に対策をとっていない

※感震ブレーカー：地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を遮断する器具

→問 12 へ

【問 12】 ご自宅では、家具類や冷蔵庫、テレビ等が転倒しないよう固定をしていますか。(一つだけ○)

1. 大部分固定している
2. 一部固定している
3. 固定していない
4. 固定する必要がない

→問 13 へ

→問 12-1 へ

【問 12-1】 問 12 で、「2. 一部固定している」、「3. 固定していない」、「4. 固定する必要がある」と回答された方にお尋ねします。あなたのご自宅は、一部の家具固定や家具固定なしでも、けがをしない、家園から脱出できなくなることがない等、安全な状態にありますか。(一つだけ○)

1. 安全な状態にある
2. 安全な状態とは言えない

→問 13へ

→問 12-2へ

【問 12-2】 問 12-1 で、「2. 安全な状態とは言えない」と回答された方にお尋ねします。家具類の固定をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 大地震はすぐには起きないと思うから
2. 手間がかかるから
3. 費用がかかるから
4. 固定しても被害は出ると思うから
5. 固定の方法がわからないから
6. 借家だから
7. その他【具体的に：】

→問 13へ

★防災情報の発信についてお尋ねします。

【問 13】 県では、気象情報や台風・地震に関する情報、災害時の避難情報等をホームページ「防災みえ.jp」で提供しています。「防災みえ.jp」をご存知ですか。(一つだけ○)

1. 知っている、大雨や台風等の災害が発生する恐れがある時(以下「災害時」という。)に見たことがある
2. 知っているが、災害時に見たことがない
3. 知らない
4. インターネット等の環境がない(スマートフォン等を持っていない)

→問 14へ

→問 14-1へ

→問 15へ

→問 17へ

【問 14】 問 13 で、「1. 知っている、災害時に見たことがある」と回答された方にお尋ねします。「防災みえ.jp」ホームページのどのような情報を見えていますか。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(警戒レベル)
3. 避難所情報
4. 医療・救護情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
7. 被害の個別情報(人的被害・建物被害等)
8. 火災情報
9. 土木施設被害情報
10. その他【具体的に：】

→問 15へ

【問 14-1】 問 13 で、「2. 知っているが、災害時に見たことがない」と回答された方にお尋ねします。災害時に「防災みえ.jp」ホームページを活用しない理由をお聞かせください。(いくつでも○)

1. 他の手段(TV、ラジオ、インターネット等)で必要な情報が入り得るから
2. 災害時に知りたい情報がないから
3. 必要な情報が探しにくいから
4. インターネット等の環境がないから(スマートフォン等を持っていないから)
5. 普段から災害情報を意識していないから
6. その他【具体的に：】

→問 15へ

【問 15】 災害時にインターネットで、どのような情報をお知りになりたいかお答えください。(いくつでも○)

1. 気象情報(天気・警報/注意報・雨量・水位等)
2. 避難情報(警戒レベル)
3. 避難所情報
4. 医療・救護情報
5. 交通・道路情報
6. ライフライン(電気・ガス・水道・電話通信)情報
7. 被害情報(詳細)：文字による被害詳細情報
8. 被害情報(概要)：地図情報
9. ライフカメラ等の映像情報
10. 災害、天気に関するニュース
11. 県、市町からのお知らせ
12. その他【具体的に：】

→問 16へ

【問 16】 県では、大雨や洪水、高潮に関する注意報や警報発表等の気象情報や台風の接近に伴う避難の呼びかけ、全国の地震情報等の防災情報を、「防災みえ」のメール配信サービスで登録者にお知らせしています。あなたは、このことをご存知ですか。(一つだけ○)

1. メール配信の登録をしている
2. 知っているが、メール配信の登録はしていない
3. 以前にメール配信の登録をしていたが、やめた
4. 知らない

→問 16-1へ

★避難場所・避難所についてお尋ねします。

【問 18】 あなたは、自宅付近の避難場所や避難所がどこにあるかご存知ですか。
(一つだけ○)

1. 避難場所も避難所も知っている →問 18-1へ
2. 避難場所だけ知っている
3. 避難所だけ知っている
4. 避難先は知っているが、避難場所と避難所の区分はわからない
5. 知らない →問 19へ

【問 18-1】 問 18 で、「1. 避難場所も避難所も知っている」、「2. 避難場所だけ知っている」、「3. 避難所だけ知っている」と回答された方にお尋ねします。
あなたは、避難場所や避難所までの避難経路について、どの程度ご存知ですか。
(一つだけ○)

1. 避難場所や避難所までの経路上にある危険箇所の有無や、通れないときの迂回路の有無等を知っている →問 19へ
2. 避難場所や避難所までの経路は知っているが、危険箇所や迂回路は知らない
3. どの経路で避難すればよいか分からない

【問 19】 感染症の感染リスクなどを考慮した場合、避難所以外に避難することも選択肢として考えられます。
地震や風水害発生時、避難所に代わる安全な場所（被災する可能性の低い他県・他市町、同じ市内のハザードマップの浸水想定区域外地域など）に避難する必要がある場合、どのような場所へ避難しますか？
(いくつでも○)

1. 安全な場所に住んでいる親戚宅や知人宅
 2. 安全な場所にあるホテルなどの宿泊施設
 3. 垂直避難等、自宅で安全を確保する
 4. 避難所以外に思い当たらない
 5. その他の場所に避難
具体的に
- 問 20へ

★地域・職場での防災活動についてお尋ねします。

【問 20】 あなたは、過去1年間に、お住まいの地域や職場での防災活動（問 21 の選択肢参照）に参加したことがありますか。(一つだけ○)
※ 最近で関連される地域や職場の研修会や防災訓練等へ参加する予定がある場合は1～3に○をつけてください。

1. 地域の防災活動に参加した →問 21へ
2. 職場の防災活動に参加した
3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した
4. 参加していない →問 22へ

【問 21】 問 20 で、「1. 地域の防災活動に参加した」、「2. 職場の防災活動に参加した」、「3. 地域と職場、両方の防災活動に参加した」と回答された方にお尋ねします。
あなたが参加した防災活動は、どのようなものでしたか。(いくつでも○)

1. 避難訓練
 2. 同上訓練
 3. 夜間訓練
 4. 消火訓練
 5. 救出・救助訓練
 6. 応急手当訓練
 7. 炊き出し訓練
 8. 連絡網を使用した情報伝達訓練
 9. 介護を必要とする人の介助訓練
 10. 研修会や講習会
 11. 地域での話し合い
 12. 避難所体験訓練または避難所運営訓練
 13. 企業や事業所も一緒になった防災活動
 14. 災害ボランティアの受入訓練
 15. その他
具体的に
- 問 21-1へ

【問 21-1】 あなたが参加した地域や職場の防災活動は、防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った →問 23へ
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

【問 22】 問 20 で、「4. 参加していない」と回答された方にお尋ねします。あなたが防災活動に参加しなかった理由は何ですか。(一つだけ○)

1. 地域や職場での防災活動が実施されていないから
2. 防災活動の実施を知らなかったから
3. 防災活動の内容が毎年同じだから
4. 仕事や用事があり、都合が悪かったから
5. 関心がないから
6. 感染症の影響で中止になったから
7. その他 (具体的に：)

→問 23 へ

【問 23】 あなたは、どういった防災活動が地域や職場で実施されることが必要だと思いますか。(いくつでも○)

1. 地域における非常連絡網の整備
2. 避難や救出・救助訓練等の防災訓練
3. 防災知識を得るための専門家による研修会や講習会
4. タウンウォッチングや防災マップづくり等、地域の危険箇所を把握する活動
5. 地域の避難所を運営する訓練
6. 職場におけるBCP(事業継続計画)の作成やそれに基づく訓練
7. その他 (具体的に：)

→問 24 へ

※BCP(事業継続計画)：

企業等が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早急復旧を可能とするために、平常時や緊急時に事業を継続するための方法、手段などを取り決めておく計画のことです。

【問 24】 地域の防災活動や防災対策について、地域の企業・事業所に期待することは何ですか。(いくつでも○)

1. 被災者の支援・救護
2. 避難誘導
3. 消火活動の援助
4. 飲料水の提供
5. 食料の提供
6. 生活用品の提供
7. 救援機材、工具の提供
8. 避難場所の提供
9. 駐車場の提供
10. 災害情報の提供
11. その他 (具体的に：)

→問 25 へ

【問 25】 あなたがお住まいの地域の消防団に期待する活動はどのようなものがありますか。(いくつでも○)

1. 火災時の消火活動
2. 火災予防や防災意識向上のための啓発活動
3. 風水害時の水防活動
4. 応急手当等の普及啓発活動
5. 地域の防災訓練等の指導
6. 大規模災害時の救護・救護や避難誘導
7. ない
8. その他 (具体的に：)

→問 26 へ

【問 26】 あなたのお住まいの地域は、自主防災組織(町内会・自治会等を母体とした地域の住民が防災活動をする組織)がありますか。また、活動状況はどうですか。(一つだけ○)

1. ある (活発に活動している)
2. ある (あまり活発に活動していない)
3. ある (活動状況はよくわからない)
4. 自主防災組織がない
5. わからない

→問 27 へ

★学校の防災教育についてお尋ねします。

【問 27】 同居している家族に就学している児童生徒がいる方にお尋ねします。三重県では、「防災ノート」等防災教育用の教材を作成・配布し活用を促すなど、学校での防災教育の充実に取り組んでいます。あなたのお住まいの児童生徒が通っている学校の防災教育について、あなたはどの程度ご存知ですか。(一つだけ○)

※ 複数の児童生徒がいる場合は、一学年下の児童生徒が通っている学校についてお答えください。

1. 学校の防災教育の内容を知っており、学校で受けた防災教育をもとに、家庭で防災対策について話し合ったことがある
2. 学校の防災教育の内容は知っているが、学校で受けた防災教育をもとに家庭で防災対策について話し合ったことはない
3. 学校で防災教育が行われていることは知っているが、内容は知らない
4. 学校で防災教育が行われているかどうかから知らない

→問 28 へ

【問 28】 防災教育で、学校に特に力を入れて取り組んでほしいものは何ですか。
(いくつでも○)

1. 地震の起こる仕組みについての学習
2. 過去に地域で起きた風水害・地震とその被害についての学習
3. 国や県が公表している、南海トラフ地震や内陸直下型地震による、揺れや津波の被害想定についての学習
4. 地震が起きたときの初動対応についての学習
5. 津波からの避難方法や避難場所についての学習
6. 局地的大雨や竜巻からの避難方法や危険な場所に近づかない等についての学習
7. 土砂災害からの避難方法や避難場所についての学習
8. 家庭での防災対策についての学習
9. 避難訓練の実施
10. 地域の防災タウンウォッチングや防災マップの作成
11. 救急・救命講習
12. その他(具体的に：)

→問 29 へ

★防災啓発についてお尋ねします。

【問 29】 三重県や市町が取り組んでいる防災に関する啓発活動等についてどの程度ご存知ですか。(いくつでも○)

1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある
2. 地震体験車に乗ったことがある
3. みえ防災・減災センターが公開している「みえ防災・減災アーカイブ」を見たことがある
4. 「県政だより みえ」を閲覧・視聴したことがある
5. 1959年に発生した伊勢湾台風の災害を忘れないために制定した「みえ風水害対策の日(9月26日)」を知っている
6. 1944年に発生した昭和東南海地震の災害を忘れないために制定した「みえ地震・津波対策の日(12月7日)」を知っている

→問 30 へ

【問 29-1】 問 29で、「1. 防災講演会や防災に関する出前トーク等に参加したことがある」と回答された方にお尋ねします。この防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問 30 へ

【問 29-2】 問 29で、「2. 地震体験車に乗ったことがある」と回答された方にお尋ねします。この防災に関する啓発活動は、あなたの防災意識の向上に役立ちましたか。(一つだけ○)

1. 大いに役立った
2. 役立った
3. どちらともいえない
4. あまり役に立たなかった
5. まったく役に立たなかった

→問 30 へ

～あなたのお住まいの耐震化について～

【問 30】 あなたのお住まいは次のうちのどれにあたりますか。(一つだけ○)

※ 所有者がある場合は、一番古い建物でお答えください。

1. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された木造の家) →問 31へ
2. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年5月以前に着工・建築された本造以外の家) →問 32へ
3. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に敷地内で建て替え) →質問終了です
4. 一戸建ての持ち家・借家(昭和56年6月以降に新たな敷地に新築) →質問終了です
5. アパート・マンション等の集合住宅

【問 31】 県及び市町では、昭和56年5月31日以前に建築された(着工を含む)木造住宅の耐震化に向けた補助等を行っています。あなたは次の制度をご存知ですか。(いくつでも○)

1. 耐震診断費用への補助(無料耐震診断) →問 32へ
2. 耐震補強設計費用への補助
3. 耐震補強工事費用への補助(リフォーム工事補助を含む)
4. どれも知らない

【問 32】 あなたのご自宅(同じ敷地内で譲替えを行った場合、譲替え前の住宅を含む、借家も含む)は、耐震診断を受けたことがありますか、受けたことがある場合は、診断結果はどうでしたか。(一つだけ○)

1. 受けたことがない →問 35へ
2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された →問 32-1へ
3. 受けたことがあり、補強工事は必要なかった →質問終了です

【問 32-1】 問 32 で、「2. 受けたことがあり、補強工事が必要と診断された」と回答された方にお尋ねします。耐震補強が必要と診断された後、補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 補強工事を行った →問 33へ
2. 建て替えた →質問終了です
3. 現在検討中(補強設計のみ行った)
4. 工事を行うつもりはない →問 34へ

【問 33】 問 32-1 で、「1. 補強工事を行った」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事に対する行政の補助制度を利用されましたか。(一つだけ○)

1. はい →質問終了です
2. いいえ →問 33-1へ

【問 33-1】 問 33 で、「2. いいえ」と回答された方にお尋ねします。どのような耐震補強工事を行いましたか。(一つだけ○)

1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した →問 33-2へ
2. 建物の一部のみを補強した
3. 分からぬ →質問終了です

【問 33-2】 問 33-1 で、「1. 現行の耐震基準を満たすように建物全体を補強した」、「2. 建物の一部のみを補強した」と回答された方にお尋ねします。耐震補強工事費はいくら位かかりましたか。(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上()万円位 →質問終了です

【問 34】 問 32-1 で、「3. 現在検討中(補強設計のみ行った)」、「4. 工事を行うつもりはない」と回答された方にお尋ねします。耐震補強の決心がつかない、耐震補強をしない理由は何ですか。(いくつでも○)

1. 補強設計に多額な費用がかかるから →問 35へ
2. 補強工事に多額の費用がかかるから
3. 耐震化しても大地震による被害は避けられないと思うから
4. 当分のあいだ大地震は起きないと思うから
5. 手間がかかるから
6. その他(具体的に:) →質問終了です

【問 35】 ご自宅の補強工事が必要とされた場合、自己負担がいくら位までなら耐震補強を行いますか。(一つだけ○)

1. 50万円まで
2. 100万円まで
3. 150万円まで
4. 200万円まで
5. 300万円まで
6. それ以上()万円まで →問 36へ

【問 36】 建物全体の安全性は劣るものの、建物の1階部分のみを耐震補強する、又は耐震シェルター（※）を設置することで少しでも安全性が向上するのであれば、**推奨したい**と思いますか、（いくつでも○）

- | | |
|---|---------|
| 1. 建物の1階部分のみの補強工事にかかる費用が安値であれば、実施したい | →質問終了です |
| 2. 建物の一部の部屋だけでも、安全性が確保でき、耐震シェルター設置にかかる費用が安値であれば、実施したい | |
| 3. 建物の1階部分のみの補強工事や耐震シェルター設置に費用がかかるため、実施しない | |

※耐震シェルター：建物内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間を作り、安全性を確保するもの（三重県耐震シェルター：参考価格 70 万円程度）

○以下の項目に関してご意見、ご要望等がございましたらご自由にお書きください。

■地震・津波対策について
■風水害対策について
■避難について
■防災に関する啓発活動について
■その他 (例：地域や企業の防災活動、避難行動要式啓発対策、災害時の職業特別奨励等)

★ご協力ありがとうございました。
11月18日（木）までに、同封の返信用封筒（**御手紙**）に入れてご返函ください。

報告書名 令和3年度 防災に関する県民意識調査報告書

発行年月 令和4年3月

発行者 三重県防災対策部 防災企画・地域支援課

〒514-8570 津市広明町 13 番地

TEL 059-224-2184

FAX 059-224-2199

e-mail bosai@pref.mie.lg.jp